

建築と社会

Architecture and Society

日本建築協会
2013 No. 1096

7

特集：第60回 青年技術者



定時総会議決のお知らせ

平成25年6月19日開催の平成25年度定時総会において、下記の議案が原案どおり承認されました。

- ・第1号議案
平成24年度事業報告の件
(詳細P1)
- ・第2号議案
平成24年度決算報告の件
(詳細P3)
- ・第3号議案
平成25年度事業計画の件
(詳細P6)
- ・第4号議案
平成25年度収支予算の件
(詳細P7)

- ・第5号議案
役員、顧問選任の件
(詳細P9)

※今回退任された理事、監事、顧問

●理事

足高 晴夫 (株)きんでん
久徳 博文 大阪ガス(株)
井上まるみ 住まいの研究室
三柴 利雄 鹿島建設(株)
浅野真一朗 関西電力(株)
大原 真一 東リ(株)
今井 雅則 戸田建設(株)
森本 晴夫 三和建設(株)

●監事

杉山 泰生 元(社)日本建築協会

●顧問

野口 邦彦 大阪市都市整備局

退任された理事、監事、顧問の方には、長年にわたり会務遂行にご尽力いただきありがとうございました。
再任、新任の理事、監事、顧問はP9の会務分掌の表にとおりです。

通常理事会議決のお知らせ

平成25年6月19日開催の平成25年度第1回通常理事会において、下記の議案が原案どおり承認されました。

- ・第1号議案
平成24年度事業報告の件
(詳細P1)
- ・第2号議案
平成24年度決算報告の件
(詳細P3)
- ・第3号議案
平成25年度事業計画の件
(詳細P6)

- ・第4号議案
平成25年度収支予算の件
(詳細P7)
- ・第5号議案
役員、顧問選任の件
(詳細P9)
- ・第6号議案
支部規程、財務規程の件

臨時理事会議決のお知らせ

平成25年6月19日開催の平成25年度第1回臨時理事会において、下記の議案が原案どおり承認されました。

- ・第1号議案
役付役員選任の件
- ・第2号議案
常任理事、常設委員長委嘱の件

- ・第3号議案
理事の会務分掌の件
いずれもP9の会務分掌の表のとおりです。

定時評議員会議決のお知らせ

平成25年6月10日開催の平成25年度定時評議員会において、下記の議案が原案どおり承認されました。

- ・第1号議案
評議員会副議長互選の件
嘉納秀一氏を選任

- ・第2号議案
役員、顧問推薦の件

平成24年度事業報告

平成24年4月1日～平成25年3月31日

1. 総 会

- (1) 第1回通常総会 平成24年6月21日
①平成23年度事業報告(案)の件
②平成23年度収支決算報告(案)の件
③役員選任(案)の件
- (2) 第1回臨時総会 平成24年10月29日
①一般社団法人への移行認可申請の件
②定款及び定款細則の変更(案)の件
③平成24年度事業計画変更(案)の件
④平成24年度収支予算変更(案)の件

2. 理 事 会

- (1) 第1回通常理事会 平成24年6月7日
①平成23年度事業報告(案)の件
②平成23年度収支決算報告(案)の件
③役員選任(案)の件
④総会等開催について(案)の件
- (2) 第1回臨時理事会 平成24年6月22日
①会長選任の件
②役付役員選任の件
③常任理事並びに常設委員長委嘱の件
④理事の会務分掌の件
- (3) 第2回臨時理事会 平成24年10月29日
①一般社団法人への移行認可申請の件
②定款及び定款細則の変更(案)の件
③平成24年度事業計画変更(案)の件
④平成24年度収支予算変更(案)の件

3. 評 議 員 会

- (1) 第1回定時評議員会 平成24年6月7日
①評議員会議長互選の件
②役員(顧問、理事、監事)、顧問候補者推薦の件

4. 役 員 会 等

- (1) 常任理事会 10回

5. 常 設 委 員 会 等

- (1) 編集委員会 委員会 19回 小委員会等 73回
(2) 事業委員会 7回
(3) 教育委員会 7回
(4) 出版委員会 11回
(5) 建材委員会 1回
(6) 10年委員会 9回
(7) 史料研究会(再読関西近代建築) 4回
(8) 関西の建築界群像委員会 2回
インタビュー 11回

6. 特 別 委 員 会 等

- (1) 青年技術者選考委員会 1回
(2) 工高生デザインコンクール審査委員会 1回
(3) 読者と選ぶ「建築と社会」賞選考委員会 1回

7. 建築と社会、特集号

- 4月号 第18回会員作品「私の空間作法」
5月号 中国市場に挑む
6月号 ZEB ネット・ゼロ・エネルギー・ビル
を目指して
7月号 建築と窓

- 8月号 巨大地震に備える
9月号 第59回青年技術者
10月号 超高齢社会に求められる住まい
11月号 歴史的建造物の保存活用
12月号 身のまわりの世界の「構造」を探る
1月号 東畑建築事務所創立80周年 U-35のまな
ざし 脱成長の時代を考える
2月号 「らしくない」空間
3月号 東海支部特集

8. 講 演 会

- (1) 講演題目:「店がなくなる、街が壊れる～コ
ミュニケーションから見た、ネット化・コンビニ
化による都市空間の変容～」
講 師:江 弘毅(140B 編集者責任者)
講演日:平成24年6月21日
参加者:50名
- (2) 講演題目:「欲求・要求・探求紙一重の自問自
答」
講 師:菅野忠司(鹿島建設(株)関西支店建築設計
部長)

- 講演日:平成24年9月19日
参加者:54名
- (3) 出版記念講演会・「現場直伝! 躯体工事の100
ポイント」
講 師:中川 徹(元・清水建設)
講演日:平成24年8月29日
参加者:40名

9. 見 学 会

- ・関西電力堺太陽光発電所および堺港発電所
(火力)
平成24年6月6日 参加者25名
- ・旧村山家住宅
平成24年7月7日 参加者31名
- ・大阪駅北ヤード／うめきた・グランフロントB
ブロック
平成24年7月19日 参加者35名
- ・中之島フェスティバルタワー
平成24年12月3日 参加者28名
- ・「流響院」茶室
平成25年3月16日 参加者31名
- ・同志社大学今出川キャンパス良心館
平成25年3月23日 参加者19名

10. 建築工事实務講習会

- ・本部主催「施工計画・仮設見積」
平成24年12月6日
①施工計画(仮設・地下工事)
講 師:大村 泰正／清水建設関西事業本部
②施工計画(躯体・仕上・設備工事・工程)
講 師:松下 嘉宏／竹中工務店大阪本店技術部
③仮設見積
講 師:笹田 秀幸／大林組大阪本店建築事業部
受講者:44名

11. 新 建 材 の 紹 介

- ・建材の特性等の検討及び今後の会誌「建築と社
会」の誌面での紹介の方法等について検討を
行った。

12. 表 彰

- ①優秀卒業生の表彰:本人の研鑽意欲の向上を促

- し激励するため、高等学校、専門学校建築科の
優秀な卒業生35校51名を表彰した。
- ②読者と選ぶ「建築と社会」賞の表彰:協会誌
「建築と社会」の趣旨にふさわしい社会性、環
境などに配慮した有意義な建築作品や論文を表
彰し、6月21日の総会後、表彰式を行った。
- ・作品部門:竹中技術実務研修センター
川合智明・大平滋彦・田中光典
池田泉州銀行夙川支店
井上雅祐・杉本憲祐・伊藤 翔
龍谷ミュージアム
赤木 隆・下坂浩和
- ・論考部門:ストック活用時代の夜明け
巽 和夫
「サードプレイス」考 舟橋國男
「東日本大震災の被災地を訪ねて」
「日常を失った生活空間」
北川啓介・米澤 隆・荒木省吾・
坂本 陸

13. 青年技術者の顕彰

- ・満35歳以下の技術者を対象に、昭和29年度から
実施しており、第59回は、応募者19名の内、18
名を顕彰した。
- ・顕彰者を称え激励するため、平成23年度と同様
に表彰式、講演会および先輩、役員との交流会
を行った。

14. コ ン ク ー ル

- ・第58回工高生デザインコンクール
設計課題:地域の体育館
応 募 者:12校・60点
審 査 会:平成24年10月20日
表 彰 式:11月10日
審査委員:佐々木 栄審査委員長(昭和設計)
他9名
入選作品:10点(内、最優秀1点、優秀2点)
- ・「新ええとこ」提案コンクール
応募点数:27点
審 査 会:平成24年11月24日
表 彰 式:平成25年1月17日
審査委員:橋爪紳也(大阪府立大学教授)他1名
入選作品:5点(優秀賞)

15. 共催、後援・協賛の承認

- (1) 共催事業
・大阪都市景観建築賞(愛称:大阪まちなみ賞)
美しく個性と風格のあるまちの景観づくりを進
めるため、周辺環境の向上と景観上優れた「建
物」や「まちなみ」を表彰する「大阪都市景観
建築賞(愛称:大阪まちなみ賞)」に平成24年
度から共催している。
- (2) 後援・協賛事業
・報告会&シンポジウム「ストック再生活用のた
めの手法ー用途変更の課題を解決するー(後)
・LIVING&DESIGN2012(後)
・平成24年度大阪府公共建築設計コンクール(協)
・第34回Japan Home&Building Show(協)
・2012年児童画展(後)
・建築・建材展2013(第19回)(協)
・東北の手しごと展(後)
・平成24年度第4回建築技術講習会(後)
・吉永則夫講演会 樫野崎灯台旧官舎修復報告と

- 近年の設計活動（後）
- ・第36回人間－生活環境系シンポジウム（協）
- ・2012年度かんでん 住まいの設計コンテスト（後）
- ・開設者・管理栄養士のための建築士事務所の管理研修会（後）
- ・2012年度設計競技「コンクリートと木のコラボレーションによる持続可能な住まいと地域住環境の設計」（後）
- ・シンポジウム「人の流れと環境のデザイナー葬儀施設を事例に考える」（後）
- ・日本建築学会近畿支部主催シンポジウム「近畿で想定される超大地震に備える～鋼構造分野の取組～」(協)
- ・平成24年度第5回建築技術講習会（後）
- ・大阪府建築士会60周年記念事業「くらしのエネルギーを考えるシンポジウム」（後）
- ・平成24年度第6回建築技術講習会（後）
- ・平成24年9月の基準法改正の解説講習会（後）
- ・LIVING&DESIGN2013（後）

16. 建築関係団体との交流、連携

- ・平成21年度より進めてきた、関西建築4団体（大阪府建築士会、大阪府建築士事務所協会、日本建築家協会近畿支部、日本建築協会）会長・支部長懇談会における連携活動を引き続き推進した。

17. 建築関係団体合同忘年懇親会、合同新年交礼会

- ・建築関係4団体合同忘年懇親会
平成24年12月14日にシティプラザ大阪にて開催した。
- ・建築関係14団体合同新年交礼会
平成25年1月4日にシェラトン都ホテル大阪にて開催した。

18. 役員を送った団体

- ・大阪商工会議所 2号議員

19. 各支部事業活動

中国支部

- 会 議
 - ・総会 1回
 - ・常議員会 1回
 - ・企画・幹事会 6回
- 建築工事实務講習会
 - ・支部主催「施工計画・仮設見積・積算業務」平成25年1月18日
受講者：49名
 - ①施工計画
講 師：辻井 達也／清水建設広島支店
 - ②仮設見積
講 師：岩崎 哲也／大林組広島支店
 - ③積算業務
講 師：横段 隆弘／横段建築事務所

東海支部

- 会 議
 - ・総会 1回
 - ・役員会 11回
 - ・常設委員会 33回
 - ①総務委員会 5回
 - ②事業委員会 4回
 - ③編集委員会 3回
 - ④会員委員会 4回

- ⑤研修委員会 6回
- ⑥東海特集特別編集委員会 11回
- (2) 支部機関紙「東海の建築」の発行（7月、12月）
- (3) 見学会
 - ・観光・文化立国を目指すシンガポール探訪
平成24年6月27日～7月1日
参加者18名
- (4) 建築工事实務講習会
 - ・支部主催「施工計画・仮設見積・積算業務」平成25年1月22日
受講者：41名
 - ①施工計画
講 師：日吉 智紀／清水建設名古屋支店
 - ②仮設見積
講 師：福井 浩二／大林組名古屋支店
 - ③積算業務
講 師：時武 治／竹中工務店名古屋支店
- (5) 支部会員名簿の発行
- (6) 「建築と社会」東海支部平成25年3月特集号の企画、編集
 - ・特集「愛知の建築文化にみる遺伝子」
 - ・「作品作風」建築作品16点
 - ・「スケッチブック」支部会員作品8点
- (7) 建築関係団体との交流、連携
 - ・建築8団体（愛知建築士会、愛知建築士事務所協会、日本建築家協会東海支部愛知地域会、日本建築学会東海支部、日本建築構造技術者協会中部支部、日本積算協会東海北陸支部、愛知県設備設計監理協会）、日本建築協会東海支部）連絡協議会への出席。
 - ・平成24年11月11日建築総合展に建築8団体共催で建築セミナー「大規模震災の後も使用可能な住まいを目指して（液状化と耐震補強について）」を開催。講師は名古屋工業大学井戸田秀樹教授。
 - ・その他、中部建築賞協議会ほか4団体に協力した。

京都支部

- 会 議
 - ・総会 1回
 - ・役員会 1回
- (2) 見学会
 - ・教王護国寺（東寺）保存修理工事見学会
平成24年9月22日
参加者35名
- (3) 2級建築士受験講習会
 - ・京都府建築士会共催「製図（基本・応用）」平成24年7月8日～8月26日
受講者：32名
 - ①2級受験講習会 製図（基本） 2日間
講 師：福井基文／福井一級建築士事務所
京都府建築士会事業委員会委員
 - ②製図（応用） 延べ6日間
講 師：福井基文／福井一級建築士事務所
京都府建築士会事業委員会委員

平成24年度決算報告

貸借対照表

平成25年 3 月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金・預金	18,610,957	16,722,472	1,888,485
貯蔵品	59,241	73,641	-14,400
未収入金	2,094,304	1,583,900	510,404
前払費用	0	0	0
仮払金	7,260	47,247	-39,987
流動資産合計	20,771,762	18,427,260	2,344,502
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
記念事業積立預金	27,000,000	27,000,000	0
事業基金積立預金	29,000,000	29,000,000	0
退職給付引当資産	9,374,228	8,731,065	643,163
特定資産合計	65,374,228	64,731,065	643,163
(3) その他固定資産			
什器備品	111,260	111,260	0
投資有価証券	447,444	447,075	369
保証金	3,527,250	3,436,650	90,600
その他固定資産合計	4,085,954	3,994,985	90,969
固定資産合計	69,460,182	68,726,050	734,132
資産合計	90,231,944	87,153,310	3,078,634
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	638,630	1,506,554	-867,924
前受金	1,250,764	3,053,899	-1,803,135
預り金	259,851	185,324	74,527
流動負債合計	2,149,245	4,745,777	-2,596,532
2. 固定負債			
退職給付引当金	9,374,228	8,731,065	643,163
固定負債合計	9,374,228	8,731,065	643,163
負債合計	11,523,473	13,476,842	-1,953,369
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(56,000,000)	(56,000,000)	(0)
正味財産合計	78,708,471	73,676,468	5,032,003
負債及び正味財産合計	90,231,944	87,153,310	3,078,634

科 目	当年度	前年度	増 減
經常収益計	68,136,311	57,524,905	10,611,406
(2) 經常費用			
事業費	41,530,437	32,295,180	9,235,257
給料・手当	16,481,245	12,815,463	3,665,782
法定福利費	2,824,534	2,198,859	625,675
事業費	22,003,058	17,277,947	4,725,111
事業雑費	221,600	2,911	218,689
管理費	21,573,871	24,903,311	-3,329,440
給料・手当	6,421,939	10,993,313	-4,571,374
退職給付費用	643,163	701,025	-57,862
法定福利費	1,354,086	1,799,656	-445,570
福利厚生費	0	8,500	-8,500
助成費	0	1,299,343	-1,299,343
会議費	2,147,180	918,565	1,228,615
旅費交通費	187,960	86,870	101,090
通信運搬費	500,561	322,006	178,555
集金費	506,230	547,479	-41,249
消耗品費	1,657,195	1,266,335	390,860
備品購入費	0	0	0
修繕費	25,484	6,090	19,394
印刷製本費	0	0	0
光熱費	199,469	192,871	6,598
火災保険料	21,710	21,710	0
租税公課	701,200	577,600	123,600
建物管理費	4,559,541	4,555,908	3,633
事務委託費	1,036,819	0	1,036,819
支部新事務所開設費	114,210	0	114,210
雑費	1,497,124	1,606,040	-108,916
經常費用計	63,104,308	57,198,491	5,905,817
当期經常増減額	5,032,003	326,414	4,705,589
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
經常外収益計		0	0
(2) 經常外費用			
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	5,032,003	326,414	4,705,589
一般正味財産期首残高	73,676,468	73,350,054	326,414
一般正味財産期末残高	78,708,471	73,676,468	5,032,003
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	78,708,471	73,676,468	5,032,003

正味財産増減計算書

平成24年 4 月 1 日から平成25年 3 月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 經常増減の部			
(1) 經常収益			
受取会費	36,617,548	39,312,915	-2,695,367
個人正会員受取会費	10,192,800	11,044,650	-851,850
個人正会員（地方）受取会費	862,050	972,300	-110,250
団体正会員受取会費	25,537,498	27,279,165	-1,741,667
準会員受取会費	25,200	16,800	8,400
事業収益	26,711,624	18,071,395	8,640,229
事業収益	26,020,774	17,848,645	8,172,129
事業雑収益	690,850	222,750	468,100
雑収益	189,949	140,595	49,354
雑収益（支部正味財産繰入収入）	4,617,190	0	4,617,190

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針
- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
その他の有価証券 時価のあるもの…期末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）によっている。
 - (2) 固定資産の減価償却の方法
什器備品…定額法によっている。
 - (3) 引当金の計上基準
退職給付引当金…期末退職給与の要支給額を引当てている。
 - (4) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は税込み方式によっている。
2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高
- 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
小 計	0	0	0	0
特定資産				
記念事業積立預金	27,000,000	0	0	27,000,000
事業基金積立預金	29,000,000	0	0	29,000,000
退職給付引当資産	8,731,065	643,163	0	9,374,228
小 計	64,731,065	643,163	0	65,374,228
合 計	64,731,065	643,163	0	65,374,228

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳
- 基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。（単位：円）

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
小 計	0	—	—	—
特定資産				
記念事業積立預金	27,000,000	—	(27,000,000)	—
事業基金積立預金	29,000,000	—	(29,000,000)	—
退職給付引当資産	9,374,228	—	—	(9,374,228)
小 計	65,374,228	—	(56,000,000)	(9,374,228)
合 計	65,374,228	—	(56,000,000)	(9,374,228)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
- (直接法により減価償却を行っている場合)
- 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	1,112,560	1,001,300	111,260
合 計	1,112,560	1,001,300	111,260

財産目録

平成25年 3 月31日現在 (単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	18,610,957		
現金手許有高	62,311		
普通預金 三井住友銀行大阪中央支店	4,410,847		
普通預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	7,043,609		
普通預金 りそな銀行北浜支店	1,406,134		
郵便振替口座 マーチャンダイズビル内支店	1,183,155		
普通預金 郵貯銀行マーチャンダイズビル内支店	38,012		
普通預金 広島銀行本川支店	1,499,189		
普通預金 三菱東京UFJ銀行栄町支店	330,714		
普通預金 三菱東京UFJ銀行栄町支店	1,008,245		
定期預金 三菱東京UFJ銀行栄町支店	1,504,353		
普通預金 みずほ銀行京都中央支店	19,778		
普通預金 郵貯銀行御池柳馬場支店	96,070		
郵便振替口座 御池柳馬場支店	8,540		

科 目	金 額		
貯蔵品	59,241		
切手・はがき	59,241		
未収入金	2,094,304		
会誌収入	1,620,904		
個人正会員会費収入	366,000		
地方会員会費収入	13,650		
団体正会員会費収入	93,750		
仮払金	7,260		
会議保険料	7,260		
流動資産合計		20,771,762	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計		0	
(2) 特定資産			
記念事業積立預金	27,000,000		
定期預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	11,000,000		
定期預金 りそな銀行北浜支店	13,000,000		
定期預金 三井住友銀行大阪中央支店	1,000,000		
普通預金 りそな銀行北浜支店	2,000,000		
事業基金積立預金	29,000,000		
定期預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	9,000,000		
定期預金 りそな銀行北浜支店	20,000,000		
退職給付引当資産	9,374,228		
定期預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	9,374,228		
特定資産合計		65,374,228	
(3) その他固定資産			
什器備品	111,260		
書棚 1 式	111,260		
投資有価証券	447,444		
中興譲ファンド 三菱UFJモルガン・スタンレー証券	447,444		
保証金・敷金	3,527,250		
本部事務所賃貸契約による保証金	3,436,650		
京都支部事務所賃借敷金	90,600		
その他固定資産合計		4,085,954	
固定資産合計		69,460,182	
資産合計			90,231,944
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	638,630		
集金費	7,200		
租税公課	631,200		
見学会保険料	230		
前受金	1,250,764		
個人正会員会費収入	620,400		
団体正会員会費収入	454,164		
地方会員会費収入	10,200		
会誌収入	166,000		
預り金	259,851		
給与源泉税預り	39,090		
報酬源泉税預り	44,387		
健康保険料本人負担分預り	12,480		
介護保険料本人負担分預り	1,950		
厚生年金保険料本人負担分預り	21,795		
印税預り	138,574		
会費過納分預り	1,575		
流動負債合計		2,149,245	
2. 固定負債			
退職給付引当金	9,374,228		
固定負債合計		9,374,228	
負債合計			11,523,473
正味財産			78,708,471

収支計算書

平成24年 4 月 1 日から平成25年 3 月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	内部取引 消 去 額	連 結 決 算 額	差 異
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
会費収入	37,677,709	36,617,548	0	36,617,548	1,060,161
個人正会員	10,265,471	10,192,800		10,192,800	72,671
個人正会員 (地方)	958,146	862,050		862,050	96,096
団体正会員	26,437,292	25,537,498		25,537,498	899,794
準会員	16,800	25,200		25,200	-8,400
支部活動収入	2,139,540	1,567,374	-1,567,374	0	2,139,540
事業収入	26,361,750	28,901,055	-2,189,431	26,711,624	-349,874
事業収入	25,606,500	28,205,205	-2,184,431	26,020,774	-414,274
事業雑収入	755,250	695,850	-5,000	690,850	64,400
雑収入	61,042	189,949		189,949	-128,907
雑収入 (支部正味財産繰入収入)	4,610,720	4,617,190		4,617,190	-6,470
前受金収入	0	1,232,764		1,232,764	-1,232,764
前払費用収入	0	0		0	0
仮払金収入	0	1,293,127		1,293,127	-1,293,127
預り金収入	0	5,484,833		5,484,833	-5,484,833
貯蔵品収入	0	14,400		14,400	-14,400
事業活動収入計	70,850,761	79,918,240	-3,756,805	76,161,435	-5,310,674
2. 事業活動支出					
事業費支出	39,140,175	43,714,868	-2,184,431	41,530,437	-2,390,262
事業関係人件費支出	16,505,923	19,305,779		19,305,779	-2,799,856
事業費支出	22,424,252	24,187,489	-2,184,431	22,003,058	421,194
事業雑支出	210,000	221,600		221,600	-11,600
管理費支出	26,911,303	22,503,082	-1,572,374	20,930,708	5,980,595
管理関係人件費支出	11,184,009	7,776,025		7,776,025	3,407,984
退職給付支出	0	0		0	0
福利厚生費支出	10,000	0		0	10,000
助成費支出	1,451,349	1,567,374	-1,567,374	0	1,451,349
会議費支出	2,140,000	2,147,180		2,147,180	-7,180
旅費交通費支出	290,000	187,960		187,960	102,040
通信運搬費支出	535,000	500,561		500,561	34,439
集金費支出	620,000	506,230		506,230	113,770
消耗品支出	1,695,000	1,657,195		1,657,195	37,805
備品購入費支出	120,000	0		0	120,000
修繕費支出	20,000	25,484		25,484	-5,484
印刷製本費支出	30,000	0		0	30,000
光熱費支出	210,000	199,469		199,469	10,531
火災保険料支出	25,000	21,710		21,710	3,290
租税公課支出	600,000	701,200		701,200	-101,200
建物管理費支出	4,741,200	4,559,541		4,559,541	181,659
事務委託費支出	1,212,100	1,036,819		1,036,819	175,281
支部新事務所開設支出	200,000	114,210		114,210	85,790
雑支出	1,827,645	1,502,124	-5,000	1,497,124	330,521
前受金支出	0	3,035,899		3,035,899	-3,035,899
預り金支出	0	5,410,306		5,410,306	-5,410,306
前払費用支出	0	0		0	0
仮払金支出	0	1,253,140		1,253,140	-1,253,140
貯蔵品支出	0	0		0	0
事業活動支出計	66,051,478	75,917,295	-3,756,805	72,160,490	-6,109,012
事業活動収支差額	4,799,283	4,000,945	0	4,000,945	798,338
II 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入					
投資活動収入計	0	0		0	0
2. 投資活動支出					
特定資産取得支出	643,163	643,163	0	643,163	0
退職給付引当資産取得支出	643,163	643,163		643,163	0
記念事業積立預金支出	0	0		0	0
事業基金積立預金支出	0	0		0	0
中期国債ファンド積立支出	0	369		369	-369
保証金支出	0	90,600		90,600	-90,600

科 目	予算額	決算額	内部取引 消 去 額	連 結 決 算 額	差 異
投資活動支出計	643,163	734,132	0	734,132	-90,969
投資活動収支差額	-643,163	-734,132	0	-734,132	90,969
III 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入					
財務活動収入計	0	0		0	0
2. 財務活動支出					
財務活動支出計	0	0		0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0	0
IV 予備費支出					
	55,500	0			55,500
当期収支差額	4,100,620	3,266,813	0	3,266,813	833,807
前期繰越収支差額	0	16,799,818		16,799,818	-16,799,818
次期繰越収支差額	4,100,620	20,066,631	0	20,066,631	-15,966,011

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金・預金・未収入金及び未払金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、下記 2 に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現 金 預 金	16,722,472	18,610,957
未 収 入 金	1,583,900	2,094,304
合 計	18,306,372	20,705,261
未 払 金	1,506,554	638,630
合 計	1,506,554	638,630
次期繰越収支差額	16,799,818	20,066,631

平成25年度事業計画

平成25年4月1日～平成26年3月31日

日本建築協会は、平成25年4月1日に一般社団法人に移行した。大正6年に創立、大正15年10月20日に社団法人として発足以来の衣替えである。これを機に設計や建設をはじめ建材、設備、メーカー、行政、教育など多様なジャンルの個人や団体とより一層連携協力し、平成29年の創立100周年に向け精力的に事業を推進する。

1. 平成24年度の事業概況

平成24年度のわが国の経済は、東日本大震災からの復興需要や政策効果により、夏場にかけて回復への動きが見られた。しかし、その後世界経済の減速等により輸出や生産が減少するなど、景気は弱い動きとなり、底割れが懸念されるなど不景気感から脱せない状況であった。

建設業界を取り巻く環境も例外ではなく、投資額は平成4年度のピーク時に比べ半減するなど、経営環境は厳しいものがある。

日本建築協会の経営も予算を許さない状況が続いている。協会の柱である「建築と社会」誌をはじめ、それぞれの事業について、きめ細かなコスト削減を行うなど積極的に改善に努めてきたが、収支は依然として厳しい状況のままである。

主な要因は、会員の減少とそれに伴う会費の落ち込みである。今日建築関係の団体は会員減少に悩んでいるが、協会も例外ではなく、会員はこの10年間で半減、会費については4割を超す大幅な減となった。

2. 平成25年度の活動方針

平成25年度のわが国の経済は、世界経済の緩やかな回復が期待されるなかで、「平成25年度の経済財政運営の基本的態度」に示された施策の推進により、着実な需要と雇用創出が見込まれ、国内需要主導で回復が進むと見られている。

住宅投資については、雇用・所得環境の改善に加え、復興への取り組み等によって、増加すると見込まれる。

一方、日本建築協会は収入、支出予算とも前年度に比し減少するなど厳しい状況が続いている。

収入減の主な要因は、24年度の事業概況でも触れたように会員減に伴う会費収入の減少である。協会としては、個人や企業に対しわれわれの役割を積極的にアピールするとともに、魅力あるプログラムを提供し会員の増強を図らなければならない。

個々の事業についても増収、増益を図るための仕掛けが必要である。特に協会のメインである「建築と社会」誌については、誌面の充実をはじめ、今以上に積極的に広告収入の増収に力を入れるとともに、平成24年度からは企業チラシの挟み込みを始めるなど、新しい試みにも挑戦しているが、より一層の努力が求められる。

支出については、引き続き事業面でのコスト削減に努めるほか、管理費についてもより一層の抑制に取り組む。特に、今年度は人員を1名減する

など人件費を圧縮する。

今後、増収を図り支出を抑えることにより、財務体質の強化に努め、協会の活性化を図る。

当協会の基幹事業は、40年、50年を数え、会員の枠を越えてそれぞれの関係者間に定着しその社会的役割も大きいものがある。

一方、協会の将来のために若い技術者のニーズに即した新しい事業の掘起しが求められる。そのためには協会の枠（会員）のみにとどまらず、有為な人材の育成に努めることを活動の柱として

- ・会員以外の一般の人たちが参加できる事業
- ・他団体との交流・連携事業
- ・若手・中堅技術者の参加を促す事業（例：「関西の建築界／群像」・工高生デザインコンクール・講習会・書籍発行）

等の充実を図る。

協会創立100周年を4年後に控え、引き続き100周年記念事業委員会により事業を展開する。

3. 平成25年度活動計画

(1) 編集委員会

①会誌「建築と社会」の発行

- ・会誌「建築と社会」は、大正6年の創立以来、当協会活動の中核として会員相互あるいは会員と社会を結び役割を果たしてきた。
- ・平成25年度は記事、内容のより一層の充実に努める。

②青年技術者の顕彰

- ・満35歳以下の青年技術者を対象とする青年技術者顕彰制度は、平成24年度で59回に達し、建築界の優秀な人材を顕彰してきた。平成17年度からその意義をより一層深めるため、表彰式および受賞者も出席しての懇親会をあわせて実施している。
- ・平成25年度も引続き実施するとともに、表彰式を総会後の懇親会時に実施する。

③「建築と社会賞」の顕彰

- ・建築と社会誌に掲載された本誌の趣旨にふさわしい社会性、環境などに配慮した建築作品や建築に関する論文、記事などを顕彰する。平成25年度は表彰式を総会後の懇親会時に実施する。

(2) 事業委員会

- ・時代に即したテーマによる催しを前年度同様年4回程度実施する。著名建築物や近代建築等の見学会、話題建築について設計者・施工者等から話を聞く場を設ける。
- ・概ね35歳以下の若手建築技術者の活動の場として（仮称）U-35委員会を立ち上げる。若手自らの企画による催し等の開催を支援し、若手会員の増強と活動の活性化を目指す。

(3) 出版委員会

- ・「建築技術選書」と「プロのノウハウ」の企画・編集
- ・出版委員会は、建築技術の単行本発行を企画し出版することを目的とし、時代のニーズに即した新しい著書の発掘を第一義的に行い平成24年度で累計107冊の発行に達した。
- ・平成25年度は、企画執筆中の図書を積極的に発

行し、この出版書をテキストとする著者の講座を実施する。

(4) 教育委員会

①建築工事実務講習会の実施

- ・昭和32年以降、毎年主として中堅クラスの建築技術者を対象に標記講習会を実施している。平成24年度までに延88回を数えている。
- ・平成24年度は、本部、中国・東海支部とも1日コースを各1回実施した。参加者は本部では昨年より増加したが、東海支部は若干減少している。平成24年度から実施した中国支部では49名の参加者があった。
- ・平成25年度も本部、中国・東海支部でそれぞれ1回実施する。

②工高生デザインコンクールの実施

- ・工高生デザインコンクールは、工高生の設計技能向上のため、昭和30年に創設し平成24年度で58回を数えた。
- ・平成24年度は参加校数12校（昨年度21校）、応募作品数60点（昨年度91点）と参加校数、作品数とも減少した。
- ・平成25年度は参加校数、作品数の増加を目指す。

③工高建築科優秀卒業生の表彰

- ・優秀な建築科卒業生を表彰することにより、本人の研鑽意欲の向上を促し、激励することを目指すとし昭和27年から実施してきた。平成24年度は、35校51名を顕彰した。
- ・平成25年度も前年度同様、会員校及び会誌購読校を対象に実施する。

④大阪府住まい・まちづくり教育普及協議会への参画

- ・大阪府、大阪府建築士事務所協会、大阪府建築士会、日本建築家協会近畿支部等で構成する協議会が実施する諸行事に協力する。

(5) 100周年関連事業委員会

①「関西の建築界／群像」の発行

- ・関西の建築界をとりまく様々な分野の方々を紹介するページを「建築と社会」誌に設け、取材には若手会員の参画を得て、100周年時に「建築と社会」誌の別冊として発行する事業を継続する。

②「再読 関西近代建築」の発行

- ・関西における歴史的な建築について個々に取り上げ解説し「建築と社会」誌に連載する。創立100周年の記念事業として連載記事をまとめて書籍として発行する事業を継続する。

③10年委員会

- ・建築現場見学会の実施
次世代の建築界を担う人材の育成に繋がることを目的として、学生向けに設計の意図を活かした建築現場やそれを支える施工者の工夫、現代技術を駆使した工場での製作過程など、さまざまな「ものづくり」の実際を総合的に体感できる場を提供する。平成25年度は2回実施する。
- ・大阪ええとこそうせい（創生）プロジェクトの実施

普段見過ごされそうなまちの資源を発掘し、“こうしたらもっとよくなる”“もっといきいきする”等のアイデアを創立100周年まで様々なテーマで募集することにより、まちづくりや町おこし賑わい作りに役立てていくことを目的としている。

平成24年度はリアルなコミュニケーションを生む「新ええとこ」の提案コンクールを実施した。25年度も引き続きコンクールを実施する。

(6) 工事請負契約約款事業

- 平成24年度に引き続き、「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款の社会的認識の向上に努め、公正妥当な工事請負契約の履行」に寄与することを目的とする委員会に委員を派遣するとともに、同約款の販売を行う。

(7) 他団体との交流、連携

- 建築関係をはじめとする各団体と交流・連携事業を行う。特に、平成21年度から進めてきた関西建築4団体（大阪府建築士会、大阪府建築士事務所協会、日本建築家協会近畿支部、日本建築協会）会長・支部長懇談会における連携活動

を引き続き推進する。

- 平成25年度も4団体が緊密な連携で、共同でできることを検討・実行していく。

(8) 支部活動

中国支部

(1) 指導、宣伝、技術向上事業

- 「講演会・見学会」や「建築工事实務講習会」、「『建築と社会』中国支部の企画・編集」を行う。
- 支部活性化事業として、ホームページの充実、会員名簿を編纂する。

(2) 協力事業

- 行政や団体が実施する講演会、フォーラム、建築展などの事業に共催、協力を行う。

(3) 他団体との連絡、連携

- 官公庁との連絡会や新年互礼会など建築8団体と連携する。

東海支部

(1) 会議、会合への参加

- 愛知県建築開発等行政推進団体協議会、中部建築賞協議会など各種団体の会議や会合などに参加する。

(2) 指導、宣伝、技術向上事業

- 「講演会・見学会」や「建築工事实務講習会」、「『建築と社会』東海特集号の企画・編集」を行う。
- 支部活性化事業として、機関誌「東海の建築」の刊行やホームページの充実、会員名簿を発行する。

(3) 協力事業

- 行政や団体が実施する講演会、フォーラム、建築展などの事業に共催、協力を行う。

(4) 他団体との連絡、連携

- 官公庁との連絡会や新年互礼会など建築8団体と連携する。

京都支部

(1) 指導、宣伝、技術向上事業

- 「見学会」や「研修会」を行う。

(2) 協力事業

- 行政や団体が実施する講演会、講習会などの事業に共催、協力を行う。

(3) 工事請負契約約款の販売

- 「民間（旧四会）連合協定工事請負契約約款」を販売する。

平成25年度収支予算

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位：千円)

科目	予算額	前年度 予算額	増減	備 考	科目	予算額	前年度 予算額	増減	備 考
I 事業活動収支の部					II 投資活動収支の部				
1. 事業活動収入					1. 投資活動収入				
①会費収入					投資活動収入計	0	0	0	
個人正会費	9,656	10,265	-610	14,400円／1名	2. 投資活動支出				
個人正会費（地方）	777	958	-181	12,600円／1名	①特定資産取得支出				
団体正会費	24,552	26,412	-1,860	25,000円／1口	退職給付引当資産取得支出	708	643	65	事業所都合による要支給額積立
準会費	25	17	8	8,400円／1名	記念事業積立預金支出	0	0	0	現状予定なし
会費収入計	35,010	37,653	-2,643		特定資産取得支出計	708	643	65	
②支部活動収入					投資活動支出計	708	643	65	
支部活動収入計	1,636	2,165	-528	本部から支部への活動収入	投資活動収支差額	-708	-643	-65	
③事業収入					III 財務活動収支の部				
事業収入	22,530	25,607	-3,077	本部及び支部の事業収入	1. 財務活動収入				
事業雑収入	880	755	125	会員交流会、U35活動収入、事業協力金外	財務活動収入計	0	0	0	
事業収入計	23,410	26,362	-2,952		2. 財務活動支出				
③雑収入					財務活動支出計	0	0	0	
雑収入	199	61	137	利息、雑損処理後の過年度会費、その他	財務活動収支差額	0	0	0	
支部正味財産繰入収入	0	4,611	-4,611	支部連結に伴う支部現金・預金等の繰入収入	IV 予備費支出				
雑収入計	199	4,672	-4,473		当期収支差額	17	4,101	-4,084	
事業活動収入計	60,255	70,851	-10,596		前期繰越収支差額	51,177	47,077	4,101	
2. 事業活動支出					次期繰越収支差額	51,194	51,177	17	
①事業費支出									
事業関係人件費支出	16,603	16,506	97	法定福利費含む					
事業費支出	19,064	22,424	-3,360	本部及び支部の事業費					
事業雑支出	310	210	100	会員交流会、U35活動費外					
事業費支出計	35,977	39,140	-3,163						
②管理費支出									
管理関係人件費支出	7,928	11,184	-3,256	法定福利費含む					
退職給付支出	0	0	0	現状予定なし					
福利厚生費支出	10	10	0	職員福利厚生費					
助成費支出	1,636	1,451	185	本部から支部への活動費					
会議費支出	2,098	2,140	-42	本部・支部総会外会議費					
旅費交通費支出	220	290	-70	旅費、交通費					
通信運搬費支出	516	535	-19	電話、FAX、メール、郵送等通信費					
集金費支出	480	620	-140	会費、グループ会費、広告料集金手数料等					

平成25年度正味財産増減予算

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	実施事業等 会計	その他事業 会計	法人会計			総合計 (H25年度 予算)	前年度予算	増減
	継続事業	約款及び 支部事業	管理費	法人会計	内部取引消去			
Ⅰ 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
受取会費	0	0	0	35,010	0	35,010	37,652	-2,642
個人正会費受取会費	0	0	0	9,656		9,656	10,265	-609
個人正会費（地方）受取会費	0	0	0	777		777	958	-181
団体正会費受取会費	0	0	0	24,552		24,552	26,412	-1,860
準会費受取会費	0	0	0	25		25	17	8
支部活動収入	0	1,636	0		1,636	0	25	-25
事業収益	14,755	8,655	0	0	2,117	21,294	25,480	-4,186
継続事業収益	14,755	0	0		559	14,196	13,448	748
その他事業収益	0	8,655	0		1,558	7,097	12,032	-4,935
雑収益	55	144	0			199	61	138
支部正味財産繰入収益	0	0	0			0	4,611	-4,611
経常収益計	14,810	10,435	0	35,010	3,753	56,502	67,829	-11,327
(2) 経常費用								0
事業費	33,998	5,569	0	0	2,117	37,450	41,919	-4,469
給料手当	15,170	0	0			15,170	13,942	1,228
法定福利費	2,857	0	0			2,857	2,564	293
臨時雇賃金	0	0	0			0	1,600	-1,600
旅費交通費	637	0	0			637	691	-54
通信運搬費	1,834	118	0			1,952	2,090	-138
消耗品費	1,057	0	0			1,057	1,604	-547
印刷製本費	6,845	516	0			7,361	6,533	828
光熱水料費	105	0	0			105	105	0
賃借料	2,190	0	0			2,190	2,280	-90
保険料	29	0	0			29	0	29
諸謝金	1,604	285	0			1,889	2,186	-297
租税公課	300	0	0			300	300	0
委託費	520	3,541	0		983	3,079	6,602	-3,523
雑費	849	1,109	0		1,134	824	1,422	-598
管理費	0	0	20,672	0	1,636	19,035	21,810	-2,775
給料手当	0	0	6,612			6,612	9,558	-2,946
法定福利費	0	0	1,317			1,317	1,626	-309
退職給付費用	0	0	708			708	643	65
福利厚生費	0	0	10			10	10	0
会議費	0	0	2,098			2,098	2,140	-42
旅費交通費	0	0	220			220	290	-70
通信運搬費	0	0	346			346	360	-14
集金費	0	0	480			480	620	-140
消耗品費	0	0	915			915	895	20
備品購入費	0	0	100			100	320	-220
修繕費	0	0	25			25	20	5
印刷製本費	0	0	45			45	30	15
光熱水料費	0	0	105			105	105	0
賃借料	0	0	2,371			2,371	2,461	-90
保険料	0	0	25			25	25	0
諸謝金	0	0	0			0	0	0
委託費	0	0	0			0	0	0
事務委託費	0	0	1,223			1,223	1,212	11
租税公課	0	0	300			300	300	0
助成費	0	0	1,636		1,636	0	0	0
雑費	0	0	2,136			2,136	1,195	941
経常費用計	33,998	5,569	20,672	0	3,753	56,486	63,729	-7,243
当期経常増減額	-19,188	4,866	-20,672	35,010	0	17	4,100	-4,083
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計						0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計						0		0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-19,188	4,866	-20,672	35,010	0	17	4,100	-4,083
一般正味財産期首残高	78,708	0	0			78,708	73,676	5,032
一般正味財産期末残高	59,521	4,866	-20,672	35,010	0	78,725	77,776	949
Ⅱ 指定正味財産増減の部								0
当期指定正味財産増減額	0	0	0			0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0			0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	59,521	4,866	-20,672	35,010	0	78,725	77,776	949

平成25年度

日本建築協会役員会務分掌

平成25年 6 月19日現在・順不同・敬称略

名誉会長 佐野 正一 (株)安井建築設計事務所		
顧問 *中田 誠 (独)都市再生機構		
会 長 香西喜八郎 (株)東畑建築事務所		
副会長 設楽 貞樹 (株)安井建築設計事務所 会長職務代行 編集・研修担当		
副会長 *浦島 澄男 (株)きんでん 会勢・事業担当		
副会長 天野 直樹 (株)竹中工務店 企画・財務担当		
副会長 大井 昇二 (株)大林組 会勢・事業担当		
副会長 *領木 康雄 大阪ガス(株) 総務・事務局担当		
副会長 本多 友常 摂南大学 編集・研修担当		
理事 ◎印は常任理事及び委員長		
(総務) 5 名		
大林 剛郎 (株)大林組	池内 哲郎 (株)野里電気工業(株)	
栗原 信英 (株)栗原工業(株)	蔦田 守弘 (株)鴻池組	
佐野 吉彦 (株)安井建築設計事務所	小橋 鴻三 清水建設(株)	
立野 純三 (株)ユニオン	近藤 徹 不二熱学工業(株)	
◎山形 政昭 大阪芸術大学	*山口 哲永 戸田建設(株)	
(財務) 3 名	藤井 實 エスケー化研(株)	
奥村太加典 (株)奥村組	藤原 富男 (一社)大阪建設業協会	
*今西 邦夫 (株)今西組	福田 泰造 福田泰造建築事務所	
*石井 祐司 東リ(株)	高松 隆夫 広島工業大学	
(編集・出版) 8 名	中井 進 (株)日建設計	
*◎西 博康 清水建設(株)	(事業) 4 名	
*押味 至一 鹿島建設(株)	◎児玉 謙 (株)日建設計	
佐藤 榮一 (一社)日本建築材料協会	城口 俊雄 (株)大阪城口研究所	
竹中 統一 (株)竹中工務店	伴 治人 西松建設(株)	
立成 良三 (一財)大阪住宅センター	澤邊 繁克 (株)熊谷組	
*松本 眞一 関西電力(株)	(研修) 5 名	
吉村 英祐 大阪工業大学	岩橋 貞雄 八千代電設工業(株)	
◎米井 寛 (株)東畑建築事務所	上林 研二 地域生活空間研究所	
(会勢) 11名	山田 文啓 大成建設(株)	
浅沼 健一 (株)浅沼組	千種 幹雄 (株)昭和設計	
	永原 穰 王建工業(株)	
常務理事 森本 勉 理事合計44名		
監事 三木 徹 (株)安井建築設計事務所		
2 名 前田 隆司 (株)前田商会		

注：*印は新任

平成25年度

日本建築協会評議員

議長：三木 敏男

副議長：嘉納 秀一

平成25年 6 月 1 日現在・順不同・敬称略

技術 2	三木 敏男 (株)サングROUP 村上幸三郎 村上デザイン事務所	
総合 12	*数内 昭男 (株)浅沼組 川本 勝一 安藤建設(株) 赤松 千州 (株)竹中工務店 村田 俊彦 (株)大林組 山本 清彦 戸田建設(株) 中道 正伸 (株)中道組 原 眞一 コーナン建設(株)	肥後 行人 (株)鴻池組大阪本店 浅野 博光 (株)奥村組西日本支社 重見 法人 三井住友建設(株) *田中顕三郎 田中建設(株) 伊藤 忠昭 (株)金山工務店
電気 4	河島 秀光 (株)きんでん 森 博明 三和電気土木工事(株)	嘉納 秀一 三宝電機(株) 嶋田 雅景 (株)クリハラント
空調 3	安原 和利 (株)精研	*大島 宏介 (株)三冷社西日本支社 若林 尚史 若林設備工業(株)
建材 2	森村 泰明 森村金属(株)	深江 隆司 アスワン(株)
中国 3	國澤 幹男 國澤企画・監理 嶋津 孝之 広島大学	村重 保則 村重保則現代建築設計事務所(株)
東海 6	小宮 三辰 三辰設計 河田 克博 名古屋工業大学 芳山 明久 東海支部 幹事	後藤 利秋 (南)和光建築計画研究所 中村 哲士 アトリエ-N1 級建築士事務所 篠原 佳則 (株)安井建築設計事務所
京都 3	長瀬 博一 (南)長瀬建築研究所 高田 光雄 京都大学 山田 昌次 花豊造園(株)	

35人 *印は新任

平成25年度

日本建築協会支部長 (順不同・敬称略)

中 国 高松 隆夫 広島工業大学

東 海 福田 泰造 福田泰造建築事務所

京 都 上林 研二 地域生活空間研究所

平成25年度
日本建築協会委員

■編集委員会

会誌「建築と社会」の企画・編集

◎米井 寛／東畑建築事務所

○勝山 太郎／日建設計

●特集小委員会

計画分科会

〈計画系〉

飯田 匡／大阪大学大学院
鈴木 克彦／京都工芸繊維大学大学院
高橋 和也／大阪市計画調整局
田中 直人／島根大学大学院
不動 剛志／東畑建築事務所
紅谷 昇平／神戸大学大学院
松田奈緒子
三宅 次郎／阪神電気鉄道
△守井 辰／日建設計
吉村 英祐／大阪工業大学

〈建築計画系〉

荒木 宏之／大成建設
△大西 広朗／東畑建築事務所
静 茂夫／大建設
下坂 浩和／日建設計
野田 隆史／竹中工務店
*三谷 帯介／鹿島建設
矢嶋 陽平／鴻池組
米山 剛史／UR設計
*渡部 剛／安井建築設計事務所
〈インテリア・住宅〉
川合 隆之／積水ハウス
黒柳 亮／竹中工務店
酒井 雅男／大林組
谷垣 浩一／日建スペースデザイン
*塚口眞佐子／大阪樟蔭女子大学
ベリー史子／大阪産業大学
△間淵 一博／安井建築設計事務所
*森岡 拓也／都市再生機構西日本支社

構造分科会

秋田 智／安井建築設計事務所
石田 大三／日建設計
岸本 光平／竹中工務店
小芝 淳一／ZEN建築構造事務所
志摩 好宣／鴻池組
瀧野 敦夫／奈良女子大学
△角田 耕一／大林組
橋本 宗明／北條建築構造研究所
松村 健／東畑建築事務所
向井 洋一／神戸大学大学院

設備分科会

△赤澤 正治／竹中工務店
岩城 憲治／大林組
梶井 宏修／近畿大学
北野 勝也／きんでん
樺田 輝生／大阪市都市整備局
谷野 太志／新菱冷熱工業
夏井 重行／元・富士ネオ工業
野崎 正二／大阪市都市整備局

橋本 直樹／日建設計
福谷 周／安井建築設計事務所
梶井 貴廣／総合設備コンサルタント
宮崎ひろ志／関西大学
村上幸三郎／村上デザイン事務所

施工材料分科会

*萩原 友貴／鹿島建設
桜井 和男／竹中工務店
高橋 秀一／大和ハウス工業
中野 敬史／大林組
△藤丸 啓一／清水建設
渡邊 聡／日本建築総合試験所

法令分科会

岩見 吉剛／兵庫県住宅建築局
河野 学
小松 輝樹／堺市建築都市局
△吉岡 忠／奈良県県土マネジメント部
平山 英／大阪府建築指導室
井上 久明／京都市建築指導部
田中 幸夫／神戸市建築指導部

作品作風小委員会

居内 章夫／徳岡昌克建築設計事務所
池上 明／エーアイアーキテクトスタジオ
▲稲垣 和江／イナガキケンチクケンキュウシヨ
井上 雅祐／大林組
加嶋 章博／摂南大学
菊池 浩輔／安井建築設計事務所
倉橋 尉仁／東畑建築事務所
倉渕奈千子／田中啓文総合建築研究所
澤田 純一／兵庫県県土整備部
輦野 敦司／竹中工務店
豊田 充広／高松建設
鳥居 久人／昭和設計
西田 佳代／日建設計
芳谷 晴彦／清水建設
増田 敬彦／増田敬彦一級建築士事務所
廻 はるよ／京都造形芸術大学

広告企画小委員会

大谷 金由／大林組
小川 雄介／竹中工務店
小山 昭／東畑建築事務所
権代 晃／清水建設
*藤田 昌宏／安井建築設計事務所
▲前田 衛／日建設計
山辻 直樹／大成建設

■事業委員会

見学・講演・説明・展示・懇親会などの企画及び実施

◎児玉 謙／日建設計

●情報見学小委員会

石井 太志／日建設計
伊藤 好之／清水建設
岩下 智／鴻池組
大喜多孝哉／大林組
河合 哲夫／竹中工務店

下記のとおり各委員会委員を委嘱しました。

◎委員長 ○副委員長 ▲小委員会委員長 △幹事 ☆顧問 *25年度新委員
(所属名は略称 順不同・敬称略)

北野 勝也／きんでん
小平 弥史／昭和設計
瀬戸川 葆／関西住宅品質保証マネジメント
田崎 祐生／武庫川女子大学
梶田 豊／ジェイアル西日本コンサルタンツ
寺西 興一／摂南大学

▲豊田 充広／高松建設
夏井 重行／元・富士ネオ工業
樋上 新治／ラシンブラニング
三浦 憲／大林組
南 次郎／元・浅沼組
*宮田 淳仁／鹿島建設
森 雅章／安井建築設計事務所
脇田 隆史／東畑建築事務所

●U-35 (準備委員会)
上野山貴嗣／安井建築設計事務所
榎 恭志郎／大建設
△駒井 陽次／昭和設計
下田 康晴／東畑建築事務所
白波瀬智幸／竹中工務店
中村 祐記／大林組
松島 将太／大建設
横川 彩香／東畑建築設計事務所
若江 直生／日建設計

■出版委員会

建築に関する図書の企画・編集・刊行、ならびに講座の企画・実施
井上まるみ／住まいの研究室
上原 正行／U建築工房
神谷 剛／竹中工務店
菅原 敏晃／竹中工務店
田中 正司／C.T.I
玉水 新吾／ドクター住まい
仲本 尚志
◎西 博康／清水建設
藤本 暢子／神田建築工房
藤山 宏／造景空間研究所
森根 義久／日建設計
☆山田 修／修建築事務所

■教育委員会

建築教育についての調査・研究・講習会の企画・実施ならびに工高生デザインコンクールなどの企画および実施
◎山形 政昭／大阪芸術大学

●講習会小委員会

池内 昌志／藤浅沼組
大村 泰正／清水建設
勝野 哲博／戸田建設
門野 陽／鴻池組
笹田 秀幸／大林組
松下 嘉宏／竹中工務店
山下 敏彦／鹿島建設
吉永 英樹／松村組

●工高生教育小委員会

宇都 直人／大阪市立都島工業高等学校
加治 大輔／大阪芸術大学
門脇 裕之／大阪市立都島工業高等学校
▲谷口 幸雄／日建設計コンストラクション・マネジメント
寺地 洋之／大阪工業大学
中村 眞二／東畑建築事務所
永島 敏郎／安井建築設計事務所
●大阪府住まいづくり教育普及協議会
大喜多孝哉／大林組
川上比奈子／摂南大学

■100周年関連事業委員会

100周年に向けた記念企画実施

●関西の建築界／群像

◎本多 友常／摂南大学
黒川 祐記／日建設計
中村 圭祐／竹中工務店
藤原 芳寿／昭和設計
三谷 勝章／大林組
三宗 知之／東畑建築事務所
神田 泰宏／竹中工務店
清原 健史／安井建築設計事務所
駒井 陽次／昭和設計
中川 卓／日建設計
三矢 大祐／東畑建築事務所
*岡村 吉展／大林組
*野口 伸／竹中工務店
*真鍋 翼／昭和設計
*吉永 規夫／office for Environment Architecture

●史料研究会 (再読 関西近代建築)

◎山形 政昭／大阪芸術大学
安達 英俊／安達英俊建築研究所
石田潤一郎／京都工芸繊維大学大学院
植松 清志／大阪人間科学大学
梅宮 弘光／神戸大学大学院
桐浴 邦夫／京都建築専門学校
酒井 一光／大阪歴史博物館
橋寺 知子／関西大学
吉田 高子
和田 康由／大阪市立都島第二工業高校
☆坂本勝比古／神戸芸術工科大学名誉教授

●10年委員会

◎設楽 貞樹／安井建築設計事務所
赤木 隆／日建設計
門野 陽／鴻池組
川上比奈子／摂南大学
熊田 将男／安井建築設計事務所
△菅原 幸也／日建設計
△中村 文紀／東畑建築事務所
○前川 治彦／前川治彦建築研究所
*松下 嘉宏／竹中工務店
三井 達雄／大林組

建築と社会

Architecture and Society

7 | NO.1096 | 2013
日本建築協会

■特集予告

- 8月号／グランフロント大阪
- 9月号／素材としての建築

今月の表紙

神奈川県立近代美術館 (鎌倉館)

設計：坂倉準三
竣工：1951年
所在地：神奈川県鎌倉市



池上に浮遊する白い展示室。繊細な鉄骨で持ち上げられたピロティは境内の林泉に溶け込んでゆく。戦後間もない時期、限られた材料と予算、借地権に対し、工場加工品と簡素な納まりで応えた名作は、時を経て幾分汚れたが、歴史ある地に見事に調和する。同時代の建築が抱える苦悩を前に、大谷石の積まれた隙から、建築の行く先に思いを馳せる。

(東畑建築事務所／大西広朗)

デザイン：嘉村知紀 (東出清彦写真事務所)
撮影：嘉村知紀 (東出清彦写真事務所)

J o u r n a l o f t h e A r c h i t e c t u r a l A s s o c i a t i o n o f J a p a n

特集●第60回青年技術者

■設計・計画部門ー

- 雨宮 廣明●京橋OMビル 18
伊藤 昭裕●宇治黄葉学園宇治市立宇治小学校・宇治市立黄葉中学校、大分市医師会立アルメイダ病院、淑徳短期大学4・5号館 19
白波瀬智幸●仮設×低コスト×既製品利用 竹中工務店姫路営業所、「都市の中の森」を創る 20
大阪木材仲買会館
塚島 健●うめきたシッポ・うめきた広場・グランフロント大阪、田島大阪ビル、本町ガーデンシティ、未来メッセ・蓄熱フェア2009 nikkenブース 21
中村 幸恵●みなと医療生活共同組合 宝神生協診療所、みなと医療生活共同組合 高畑生協診療所 22
西川 秀樹●構想づくりから具体的な事業推進まで、各段階に応じたまちづくりの推進 23
西森 史裕●ウミノ製作所新工場、ショーエイコーポレーション大阪第2センター 24
柱 健太郎●紀北町立相賀小学校、京都市立朱雀第四小学校（環境省「学校エコ改修と環境教育事業」モデル校）、（仮称）豊田市立第2浄水小学校（ワークショップ業務） 25
日吉 良平●武蔵カントリークラブ豊岡コースクラブハウス、株式会社ニシヤマ大阪支店、早稲田大学本庄高等学院95号館 26

丸山 将彦●東京都立松沢病院 27

■構造部門ー

- 池田 直子●兵庫県立淡路医療センターー100m×100mの平面形状を有する免震病院の構造計画ー 28
奥野雄一郎●本瓦葺の屋根の下に透明感のある回廊が配される史料館の設計 29
佐藤 朋成●数々の新技術に挑戦したテナントビル/oak omotesando、空間イメージに合わせた混合構造による全体架構計画/獨協大学学生センター 30
山田 祥平●ファサードデザインと一体化した構造計画 31

■設備部門ー

- 梅本 武志●建築主の想いの具現化、メンテナンス性・操作性・更新性に優れたシステムへの取り組み～体感温度制御による放射空間システムの構築～ 32
君塚 尚也●総本山知恩院 和順会館・参道整備計画「環境と共生する設備計画」、東大谷高等学校泉ヶ丘校舎「使用者に配慮した環境性能の高い学び舎」 33
田辺 慎吾●グランフロント大阪 ～高層テナントビルでのボイドを用いた自然換気～ 34
名倉 宏明●医療品製造施設における空調設備計画～目標品質を満足するシステムの実現に向けた取り組み～ 35
宮崎 裕輔●マルイト難波ブルーエネルギーセキュリティと省エネルギー技術ー、小松製作所テクニカルセンターアトリウム解析とタスクアンビエント空調の採用ー 36
森山 洋平●小学校における環境配慮・防災対策の設備計画について 37

■施工部門ー

- 市野 俊充●市街地における超短工期の居ながら大規模改修工事の計画と実施 38
佐藤 俊介●フラットビーム免震構造による次世代集合住宅の施工計画・実施と展開 39
山本 訓久●低炭素型のコンクリート「クリーンクリート®」の現場への適用 40

会告 定時総会議決のお知らせ。通常理事会議決のお知らせ。臨時理事会議決のお知らせ。定時評議員会議決のお知らせ。平成24年度事業報告。平成24年度決算報告。平成25年度事業計画。平成25年度収支予算。平成25年度正味財産増減予算。平成25年度日本建築協会役員会務分掌。平成25年度日本建築協会評議員。平成25年度日本建築協会支部長。平成25年度日本建築協会委員。ダイビル本館見学会。 1

作品作風 兵庫県立淡路医療センター 12
ノーリツコンタクトセンター 14

gallery Re-Branding Renovation [Tradition×Innovation]●藤井崇司 16

法令コーナー 神戸市における老朽危険家屋対策●上田真己 41

構造の頁 機能美と構造美に配慮した台形柱梁ラーメン構造ー立教大学新座キャンパス新教室棟ー●原田公明 42

再読 大阪株式取引所●山形政昭 43

関西近代建築 関西の建築界 47

群像 奥谷繁礼●奥谷繁礼建築研究所 47

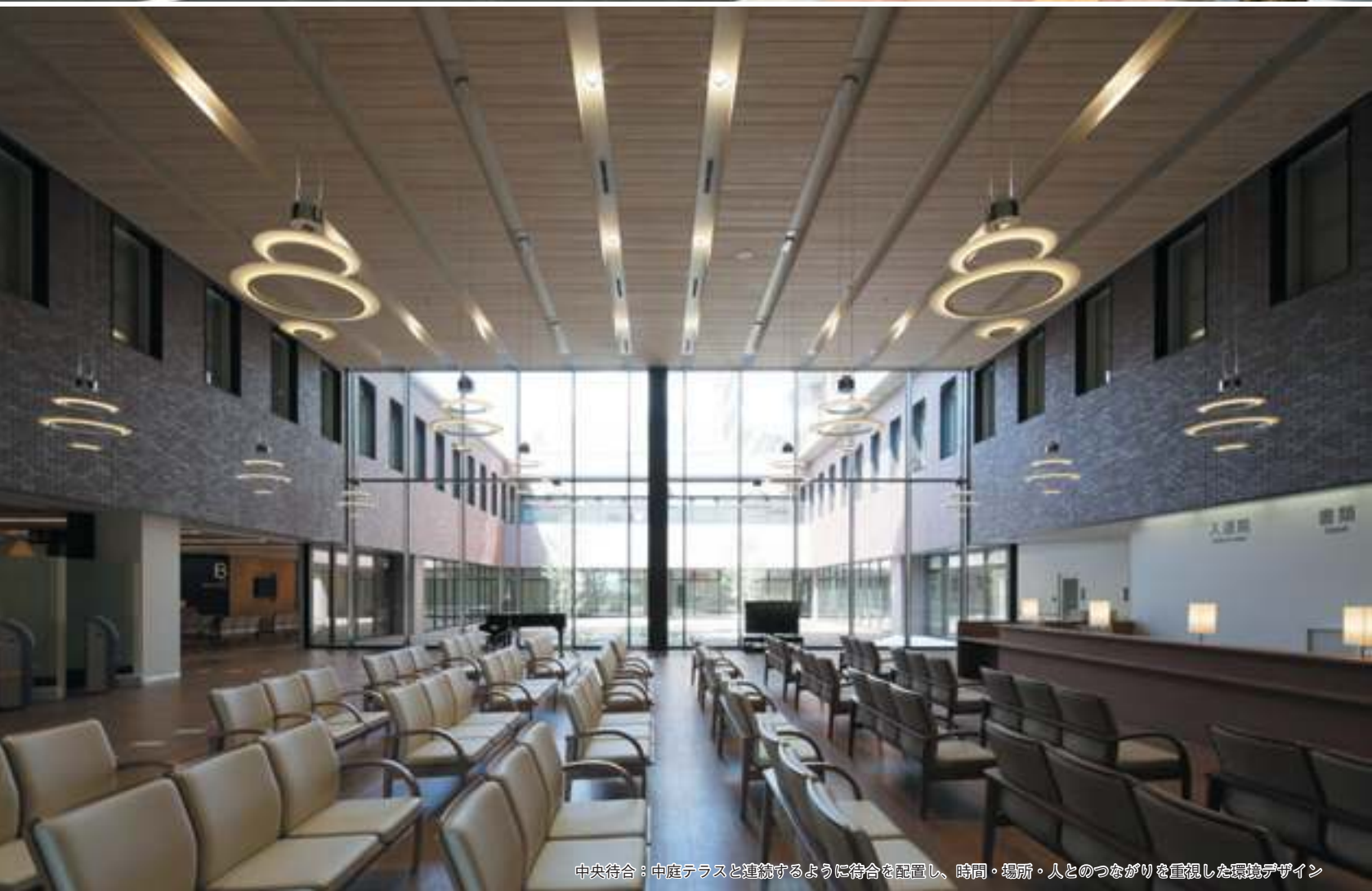
入賞発表 第12回読者と選ぶ「建築と社会」賞入賞発表 48

information マリー・アントワネット物語展。特別展 エヴァンゲリオンと日本刀展。2013年NHK大河ドラマ 特別展 八重の桜。2013年夏季特別展 ファインバーグ・コレクション展 江戸絵画の奇跡。体感妖怪アドベンチャー GeGeGe水木しげるの妖怪樂園。第15回 堺市景観賞 あなたのお気に入りの「堺」を募集 54

月間の動き 平成25年 5月 61



南東側からの全景：歴史を継承する赤煉瓦・煉瓦調タイルの外壁・煉瓦スクリーン・淡路瓦による構成で地域景観をリード



中央待合：中庭テラスと連続するように待合を配置し、時間・場所・人とのつながりを重視した環境デザイン

建築主 兵庫県
設計・監理 兵庫県県土整備部住宅建築局営繕課・設備課
安井建築設計事務所
施工 (建築) 戸田・村本・前川JV
(電気) きんでん・JFE電制・谷電気JV
(空調) 大気社・伊丹産業設備・堀川JV
(衛生) 朝日・圓奈・ツダJV
(受変電) 西部電工・カデックスJV
(昇降機) フジテック
(ガス) 洲本瓦斯

兵庫県立淡路医療センター

淡路地域の急性期医療を提供する中核病院の計画である。敷地周辺は赤煉瓦の風情ある紡績工場跡の街並みが残り、近年建築された図書館や体育館とともに洲本市の玄関口として魅力ある景観を形成している。計画地は緑豊かな山並みや雄大な大阪湾を望むことができ、樹齢100年を超える生命力豊かなユーカリが患者を優しく迎え入れてくれる。今回計画ではこの歴史ある景観の継承と、公園島淡路にふさわしい自然豊かな療養環境の提供、救命救急センターを中心とした高度先進医療の提供が求められた。さらに着工5ヶ月後におこった東日本大震災により、計画が見直され津波対策の強化が求められた。

高齢化社会における療養環境のあり方

高齢化が進む地域における療養環境の充実として、外来患者利用ゾーンを1階ワンフロアに集約させ移動の軽減を図っている。中央待合とホスピタルストリートに面して明るい中庭テラスを配置し、患者をわかりやすく誘導する。病棟は45床を基本とした2看護単位の構成で、スタッフステーションを病棟中央に配置したダブルコリドー型とし、患者の見守りを強化している。PCaPC構造による12.6mの大スパン化の実現で、フレキシブル性を高めている。歴史ある景観とのつながり、地域や人とのつながりを重視し、煉瓦や県産木材、淡路瓦など地域になじみの深い素材を採用している。病室で提案した木の温もりのある設えは、家庭的な環境提供につながり、せん妄対策の一つとして患者のQOLを支える。

BCP対策を踏まえた災害に強い病院

阪神・淡路及び東日本大震災の教訓から、免震構造やヘリポートの採用をはじめとして災害や地震に強い施設整備を徹底し、災害後ただちに自立して運営継続できる計画を行っている。空調熱源・電源幹線・無停電電源装置の二元化など、ライフライン途絶時の安全性を高めている。自家発電の強化としてコジェネや太陽光発電(150KW)を導入し、最低限の病院機能を守る。救命救急センター前に屋根のある広いトリアージスペースの確保やホスピタルストリート・大会議室にトリアージ用医療ガスの設置、建物周囲に浸水防止壁や防潮扉の設置など浸水対策を実施した。地域医療の拠点として災害時や非常時に救急を中心とした機動力を発揮し、淡路地域の県民の健康と生命を守る医療の砦として、将来に渡って地域から信頼される病院であることを願っている。

(寺岡宏治、楠敦士、赤川貴世友、山本善宏／安井建築設計事務所)

所在地——兵庫県洲本市塩屋1丁目
敷地面積——27,792.06㎡
建築面積——11,165.11㎡
延床面積——35,333.58㎡
構造規模——PCaPC造(免震構造)、地上8階
工期——2010年10月～2013年3月
撮影——エスエス大阪 津田裕之



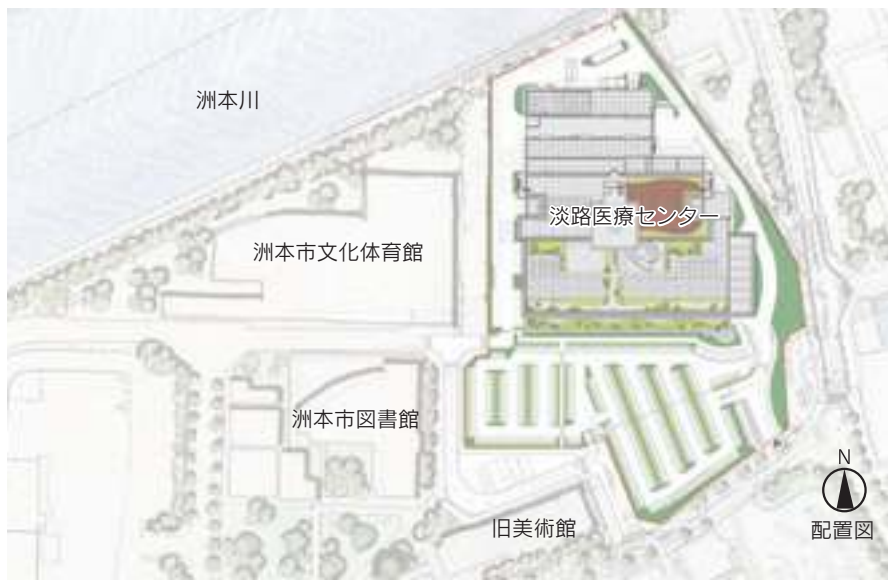
南東側上空から敷地全景を俯瞰



中庭テラス：外来患者の憩いに配慮した修景



ホスピタルストリート：プロック受付で構成し、集約配置した外来



SS：病棟中央に配置し、患者に近い看護を提供



所在地——兵庫県明石市硯町2丁目
 敷地面積——1,810.20㎡
 建築面積——747.85㎡
 延床面積——2,940.91㎡
 構造規模——S造 地上4階 塔屋1階
 工期——2012年8月～2013年3月
 最寄駅——山陽電鉄本線 西新町駅
 撮影——エスエス大阪 内山雅人



ノーリツコンタクトセンター

「お風呂は人を幸せにする」を創業の原点とした湯まわり設備メーカーのお客さまとメーカーを繋ぐ、CS創造工場としてのビルである。

眺望の良い南北に開き東西に閉じた筒状の形は人をやさしく包み込む。東側のコアウォールは水からお湯に沸くさまを表現し、内部のボイド階段に優しい光を差し込ませる。

電話のオペレーション業務を中心としたコンタクトセンターは、アメニティの充実を図ると共に、床しみ出し空調、ボイドにおける重力換気、高効率機器のコージェネ、GHP、自社製太陽光発電、全館LEDやエネルギーの見える化等々、約8割を占める女性ワーカーや環境に優しい建物とした。

(吉野 博史・鶴 潔・竹安 智恵／KAJIMA DESIGN)



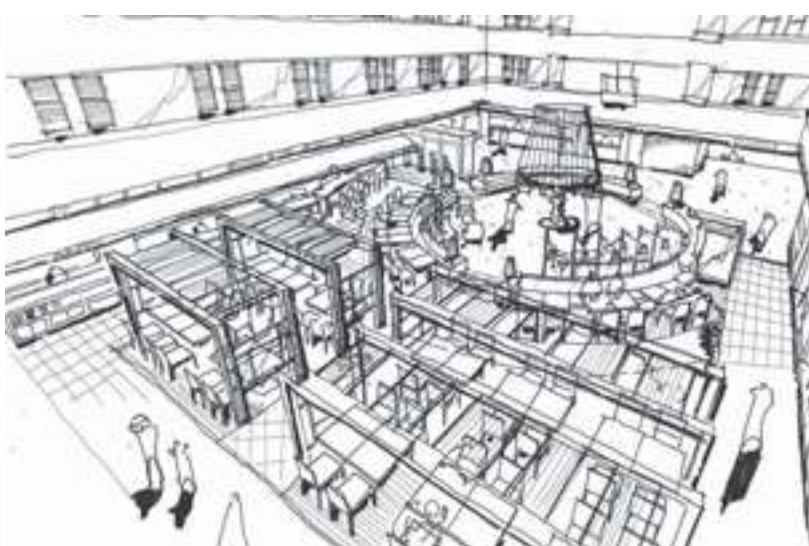
gallery

「京都」の玄関口、開業30年のホテルのリノベーションプロジェクト。

様々な出会い・会話・食材・技術・情報、そして過去・現在・未来の時間が交差する際にうまれる新しい驚きや発見・価値を共有できる場であればよいと考えた。

古き良きホテルとしての香りを残しつつ、現代的なデザイン要素や伝統工芸の技術を掛け合わせ、ノスタルジックでかつモダンな空間構成とした。

国際観光都市京都の玄関口に建つホテルの責務として、京都の伝統的な美術や工芸を現代的な形で世界に発信し、未来に繋ぐことを強く意識した。



Re-Branding Renovation [TraditionXInnovation]

インテリアデザイナー

藤井 崇司

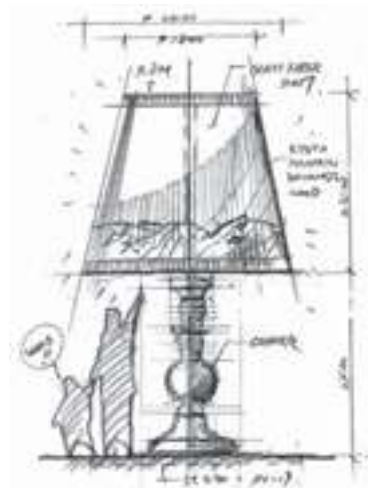


■かんじんの京灯り

かんじん（最も大事なものを）を忘れず、奢らず、伝統工芸の原点とその日々の進化や未来を伝え続ける灯り。30mある吹抜空間をリノベーションするにあたり、空間のイメージ転換をする為に圧倒的なボリュームの光がアイレベルにあることが必要と考えた。

何度も現地に足を運び、高さ4.8m 直径2.4m という寸法を決定した。

支柱は仏具の金工職人による銅のヘラ紋り、シェードの外周は木工職人により手作業で姫小松を3次曲面で切抜き、送り火のシルエットを含む京都の山並みを表現しました。シェード内側は京都の華をモチーフにした絵地図文様を西陣織で織上げ、灯具はLEDを使って京行燈の職人の手によって造りあげた。



藤井 崇司（ふじい たかし）

1976	大阪府生まれ
2000	京都市立芸術大学卒業
2002	京都市立芸術大学大学院修了
2003～	日建スペースデザイン
2006～2009	京都市立芸術大学非常勤講師
2010	日本建築家協会優秀建築選／和島興産十番丁ビル
2011	京都デザイン賞2011 入選／ホテル近鉄京都駅
2012	京都デザイン賞2012 入選／京都センチュリーホテル

企画編集 菊池浩輔（作品作風小委員会）

■設計・計画部門——

雨宮 廣明 安井建築設計事務所

伊藤 昭裕 佐藤総合計画

白波瀬智幸 竹中工務店

塚島 健 日建設計

中村 幸恵 竹中工務店

西川 秀樹 日建設計

西森 史裕 大林組

柱 健太郎 東畑建築事務所

日吉 良平 鹿島建設関西支店

丸山 将彦 昭和設計

■構造部門——

池田 直子 安井建築設計事務所

奥野雄一郎 竹中工務店

佐藤 朋成 大林組

山田 祥平 日建設計

■設備部門——

梅本 武志 竹中工務店

君塚 尚也 竹中工務店

田辺 慎吾 日建設計

名倉 宏明 大林組

宮崎 裕輔 鹿島建設

森山 洋平 昭和設計

■施工部門——

市野 俊充 竹中工務店

佐藤 俊介 竹中工務店

山本 訓久 大林組

部門別50名順

応募の状況と結果

部門	応募数	入選数
設計・計画	11	10
構造	4	4
設備	6	6
施工	3	3

第60回青年技術者選考委員

米井 寛／東畑建築事務所大阪事務所副所長

吉岡 聡司／大阪大学大学院キャンパスデザイン室
准教授佐々木 栄／昭和設計執行役員建築部門
建築設計部統括八木 康行／スタジオオエイトアーキテクト代表
高梨雄二郎／竹中工務店開発計画本部長
(西日本担当)山浦 晋弘／安井建築設計事務所構造部長
辻 聖晃／京都大学大学院工学研究科
建築学専攻准教授高山 眞／日建設計設備設計部門設備設計部長
町澤真一朗／清水建設関西事業本部
設備設計部グループ長山辻 直樹／大成建設関西支店建築部
購買管理室課長阪井 聡／大林組大阪本店建築事業部
生産技術部部長青年技術者選考委員会
選評

選考委員長 米井 寛

35歳以下の優秀な建築技術者を顕彰する青年技術者表彰は、今年で第60回となりました。齢を重ね、還暦を迎えたわけです。初回からの受賞者名簿には、関西の、いや日本の建築界を支えてきた錚々たる顔ぶれを見ることができます。今では建築に携わる若手のいわば登龍門として定着してきたといえるでしょう。また、近年は、受賞者が一堂に会する表彰式も行なわれるようになりました。これは、受賞者の栄誉を称えるとともに、受賞者同士の交流の機会を設けることも意図されています。時にはライバルともなる若手同士が、志を共有する仲間として、立場や所属を越えて交流し活動する場を提供することも建築協会の重要な役割であろうと考えています。

さて、第60回の審査についてです。今年は、昨年より多い24名の応募がありました。その全員が組織設計事務所や大手建設会社に属する方であり、アトリエ事務所や大学等の研究機関に所属する方がいなかったのは残念でしたが、設計・計画、構造、設備、施工の各分野で選考を行なったところ、最終的に23名が選出されました。選考上のポイントは、応募者が紹介するプロジェクトの技術的、計画的、デザイン的水準だけではなく、本人がどこまでプロジェクトに主体的に関与しているか、また、本人の建築に対する取り組み姿勢や将来への展望が表現されているか、という点にあります。今年の応募者は、全員がプロジェクトの水準については高く評価されましたが、本人の関与のし方を審査者が十分理解できたかどうかは採否を分けることとなりました。

紹介されたプロジェクトや本人の取り組み姿勢を見ると、防災、環境配慮、省エネ、地域貢献などの現在の建築に課せられるテーマが的確に反映されているだけでなく、設計プロセスにおけるユーザーとの対話や協働、運用後まで責任をもつ意志なども提示されており、これらは、建築を社会との関わりの中かでつくっていくという問題意識の表れとして評価できました。複雑な社会環境の中かでこれからの建築界を支えていく青年技術者の今後に期待したいと思います。■設計・計画部門／多様化する時代のニーズを受けて、都市や建築の企画・計画・設計では一段と多岐にわ

たる課題を解決することが求められるようになっていきます。都市再生手法を活用した企画やコストコントロールも含めた難度の高い事業成立性の構築、環境への配慮や先進的な医療や教育への対応など課題は様々です。今回選出された方はそれらの課題を真向から受けとめ、青年技術者として熱く全力で立ち向かっておられる姿勢が表現されており高く評価できました。自身の将来展望を堅持しながらもまずプロジェクトの目指すべき姿を明確にしてコンセプトワークを行い、利用者との密度の濃いワークショップや建築主との度重なる打合せ等をそれぞれの分野で貫徹しておられます。残念ながら選からもれた方も十分に素養をお持ちですが、自身の建築に対する考え方や将来的展望を読み取ることができませんでした。捲土重来を期していたきたいと思います。

応募規定では「分野を特定しない」とあります。上述の通り多様なニーズにこたえるべく計画・設計に携わる者が幅広い分野で活動し、その活動成果で積極的に応募されることを期待します。(高梨雄二郎)

■構造部門／今年度は構造部門への応募が4件であり、昨年度から1件増加した。審査では、応募者がプロジェクトの中でどのような役割を果たしたか、プロジェクトにおける問題点や困難点をどのように解決しようとしたか、それらが応募書類に的確に書かれているかどうか、について、一定の基準に到達しているかどうかを見た。いずれも高いレベルで審査基準を満たしているとの結論に達したため、すべてを入選とした。応募書類では、1つのプロジェクトに関して詳細に設計のプロセスや特徴を述べたものと、複数のプロジェクトに対する応募者の取り組みを述べたものが見られた。いずれの応募書類においても、応募者の建築構造に対する情熱が感じられたが、強いと言えば前者のスタイルの方が、より明確に応募者の構造設計に対する考え方が伝わってきた。

構造設計における困難点を克服する方法としては、既存技術の組み合わせにより解決方法を見出すアプローチと、新しい技術を積極的に開発してプロジェクトに取り入れるアプローチが見られた。建築構造技術のいっそうの発展には、この両方のアプローチが必要であり、この意味で、本年度の受賞者の建築構造技術の今後の発展への貢献に、大いに期待したい。(辻 聖晃)

■設備部門／今年度の設備部門への応募は6件と昨年を大きく上回るものでした。

審査では、示される技術レベル、プロジェクトの中での応募者の立場、さらには応募者自らが主体的にかかわっているものか否かについて着目しました。

応募の内容は、計画とその具現化、現場段階の工夫、技術提案と検証など多種にわたるものした。

クライアントの建築にかかわる見方が、単に快適性の維持とコストだけでなく、地球環境問題への配慮を重視するに至り、設備に従事する方々の意識と実力が向上していることもあってか、すべての応募が一定の水準に達しており、みなさんを入選としました。

一方で、少々辛口の感想を付記するとすれば、オリジナリティーを持ちながら、わかりやすい言葉で丁寧につづられた応募資料もありましたが、過半はどこかで見たことのあるように感じてしまったことも事実です。多くの情報が驚くべき速さで展開する昨今、独自性を確立することは大変難しいことではありますが、技術の進歩を図るためにそのような観点から物事をとらえていただき、さらなるご活躍を期待したいと思います。(高山 眞)

■施工部門／本年の施工部門の応募3件を入選レベルに達していると評価しました。1件目はRC造での鉄筋の配筋の納まりの整理による施工性の向上を図った施工管理を実施したものである。このテーマは目新しいものではないが施工性向上のために重要な課題であり、本人の取り組みに対する熱意を感じることができる。改善策は具体的で、改善効果も明確であり、他現場へも水平展開できる点が評価できる。2件目は今後ますます増える内外装リニューアル工事での『居ながら施工』に積極的に取り組んだものである。新築工事に比べて騒音・振動・粉塵への対策が重要となる。本件は汎用機械を使用方法的工夫した利用による施工計画と、超短工期対策として天候の影響を最小限とできる工夫で、派手さは無いが高く評価ができる。3件目は最近建設業界が注力している環境に配慮したコンクリート素材に関するものである。本件は建設現場と技術研究所と生コン製造工場の間の調整に主体的に関与し、実際に試験練りから現場打設までの実務を担当し、今後の建設業界の環境対策面でも評価できるものである。(山辻直樹)



あめ みや ひろ あき
雨宮 廣明

生年月日 1981年7月山梨県生まれ
最終学歴 2006年日本大学大学院
理工学研究科建築学専攻
前期博士過程修了
業務経歴 2006年㈱安井建築設計事
務所入社
現在、東京事務所設計部
主任

●担当した主なプロジェクト
2006年 東京国際大学社会福祉棟
2007年 タカラスタンダード三重支店
2007年 グロブナープレイス神園町
2008年 阪急阪神交通社HD建替計画
2012年 京橋OMビル新築工事

■青年技術者のことば

私は建築の設計にあたり常に「世に問う建築」というものを意識し、日々の設計業務に取り組んでいます。私の目指す「世に問う建築」とは単に表層的なデザインやロケーション、プロジェクトスケールといったものに左右されるものではなく、その建築を通して大小問わず何か1つでも新しい発見や社会に問える事項を含むものとして考えています。

これは与条件に左右されるものではなく、設計者である本人の意識や熱意によって成り立つものとして捉えています。

これから数十年と生き続ける建築に対して、建築主といかに対話を行い、その内容を建築というかたちに置き換えることができるかが重要であると考えます。

ここに紹介する「京橋OMビル」でも上記のテーマの追求に努めました。建築の設計プロセスにおいて設計者の経験や実績による提案に頼らないフラットな意思決定方法の提案を行いました。結果として建築設計におけるブラックボックスをあからさみにした「設計の見える化」というものとして置き換えられました。

この設計プロセスは建築主との対話を円滑にし、迅速な意思決定につながっていったのではないかと考えています。

これからの設計活動においてもテーマの追求を行い、高い意識を持ち続け建築と向き合っていきたいと思います。

■すいせん者

上枝真二
安井建築設計事務所
東京事務所 設計部長



京橋OMビル

本計画は東京都中央区京橋1丁目におけるオフィスビルの建替プロジェクトである。工事中に3.11の東日本大震災を経験し、今後の社会における建築のあり方を再度検証した。プロジェクトテーマである「高い環境性能を兼ね備えたエコビル」に対し膨大な情報の収集と検討を行い、高い知識と技術の集約によって成し遂げられた計画である。環境技術の集約により、環境性能指標であるPAL低減率及びERRに関し、省エネルギー性能評価書制度における最高ランクに位置する「AAA」を十分に満足し、国内最高水準と同等レベルの「エコビル」を実現している。



この建築は私にとって分身であり、子供のような存在であった。常に共に歩み建築と対話をしてきた。設計のプロセスを積み重ねるごとに人格が形成され、命が吹き込まれていく瞬間に立ち合ってきた。これらの時間／プロセス、全てを共にしてきた存在である。工事が進むにつれて徐々に現れてくる姿を見ながら親元を離れていく姿に寂しさを感じていた。建築として社会に求められる責任を果たし、立派に育ってほしいと願っている。



撮影／エスエス東京



いとう あきひろ
伊藤 昭裕

生年月日 1980年2月兵庫県生まれ
最終学歴 2004年神戸大学大学院自然科学研究科建設学専攻博士課程前期課程修了
業務経歴 2004年佐藤総合計画入社
現在、同社関西事務所主任担当
●担当した主なプロジェクト
2007年 淑徳短期大学4・5号館
2008年 大分市医師会立アルメイダ病院
2012年 宇治黄檗学園

■青年技術者のことば

建築の設計をするということ、それは与えられた条件の中でクライアントと課題を共有し、新たな提案をしていくことであると考えている。幸いなことに設計の仕事に携わるようになって間もない頃から、自ら提案した内容をクライアントに説明し、実施設計としてまとめ、設計監理の現場で多くの関係者と調整をとりながら設計意図を実現し責任をもつ、という建築のプロセス全体をまとめる役割に積極的に関わることができた。そのなかで近年の社会の変化は、これまで「あたりまえ」とされてきた考え方・常識が通用しない局面にあり、建築家には社会が求める新しい「カタチ」「概念」を創造し提案することが求められていると強く感じている。特に教育・医療の分野は制度そのものが大きな転機をむかえている。小中一貫校の取り組みは全国一律ではなく地域ごとに独自に確立されてきており、プロジェクトの中で様々な関係者、児童・生徒とのワークショップや調査により基本構想段階からの課題の共有をすることができた。また、病院のプロジェクトでは、最先端の医療環境と地域医療の拠点としてのニーズをいかに実現するかを共に議論することができた。これからの時代において、建築家には計画力・デザイン力のみならずコーディネーターとしての役割もおおいに期待されており、常に時代を見据えながら「対話」を通じて建築と向かい合っていきたいと考えている。

■すいせん者

吉田諭司
佐藤総合計画関西事務所
執行役員関西事務所長



宇治黄檗学園

宇治市立宇治小学校・宇治市立黄檗中学校

宇治黄檗学園は、宇治市初の施設一体型小中一貫校として平成24年4月に開校した。黄檗山萬福寺を背景とした風致地区の植生や山並みの風景を活かし、高さを抑えて敷地に沿ったゆるやかな弧を描く校舎配置とした。本校は、小・中学校の義務教育9年間で前期（小1～4年）、中期（小5～中1）、後期（中2～3年）の3つのステージに分け、それぞれの指導目標のもと、「きずな」で育む9年間の学びを取り組んでいる。



大分市医師会立アルメイダ病院（上）

医療・保健・福祉・教育を包括的に担ってきた施設群「アルメイダ・メディカルセンター」の核となる医師会立病院の建替計画である。「人間愛の精神」に基づいたアメニティと、3次救命救急センター・地域医療支援病院・災害拠点病院としての機能性を実現した、免震構造の病院である。

淑徳短期大学4・5号館（右）

建学の精神「共生」を実現のため、キャンパス全体の交流の中心（コミュニティカレッジ）をつくり、学生同士や教員の交流を促す仕掛けを設けた。学生ホール・食堂は、「S構造」「膜屋根」による明るく軽やかな空間とし、実験室・実習室は改修・リニューアルの容易なPC構法による大スパンと、メカニカルシャフト・二重床システムを採用した。

小中一貫校の顔となるアプローチの空間「まなびのみち」により正門から昇降口までのアプローチの空間を創出し、教室やグラウンドなど日常生活空間からも見える関係性とした。交流空間「交流ホール」「スポーツストリート」を中心とした施設構成とし、昇降口に面したカーテンウォールの吹き抜け空間から、内外の活動の様子が感じられる構成とした。子どもの発達段階に合わせた学習空間や、教師ステーション等の提案をおこなった。





しら は せ とも ゆき
白波瀬 智幸

生年月日 1978年3月京都府生まれ
最終学歴 2002年神戸大学大学院
自然科学研究科
建設学専攻修士課程修了
業務経歴 2002年(株)竹中工務店入社
現在大阪本店設計部主任
●担当した主なプロジェクト
2004年 第二吉本ビルディング
2005年 竹中工務店姫路営業所
2005年 (仮称)城下町ホール
公募型エスキスコンペ
2008年 Hyundai Motor
Manufacturing Czech
E計画
2010年 高雄国際フェリーターミナル
コンペ
2013年 大阪木材仲買会館

■青年技術者のことば

私は目の前にある、ありふれたもの・当たり前のものを常に斜めや裏側から見ようと心がけている。ありふれたものでも、条件（設計と件）をもって向かい合えば、小さな変化が生まれ、ありふれたものが唯一のものになったりする。そして建物に反映して実現することで、小さな変化であっても唯一の個性をもったものが生まれていくと信じている。だから、私はありふれたものに対するその小さな変化を積み重ねていこうと思う。これから手がける建物の規模が大きくなっていくと、用途が多岐に渡ったとしても、その小さな変化の積み重ねこそが私にしか実現できない唯一のものにつながるのだと考えるからだ。

■すいせん者

増田 俊哉
竹中工務店大阪本店設計部
設計第4部長



仮設×低コスト×既製品利用

竹中工務店姫路営業所

短期間使用する事務所を、経済的かつ景観的にも優れたものとして計画することが求められた。プレハブ外壁の外側を、建築資材ではなくコンベアなどの心材に用いるガラス繊維を樹脂コーティングした既製品のファブリックで覆っている。全幅を持ったものと、カットした半分の幅を持ったものの2種を、前後2つのレイヤーとして建物に纏わせることで、シンプルな素材ながら、重なりや陰影による映り込み、時の移ろいにより、外部からも内部からも多様な表情をもったファサードを実現した。



「都市の中の森」を創る 大阪木材仲買会館

木は人に温もりと安らぎを与えてくれる。鉄とコンクリートのビルがあふれる都市に、既存の桜を囲むように生まれた木の温もりを持ったこの耐火木造ビルは、技術革新やエコ・木の情報発信にとどまらず、ビルのワーカーだけでなく都市にも安らぎを与え、これからの「都市」と「人」と「木」の関わり方を示す手掛かりになると考えている。



つかしま けん
塚島 健

生年月日 1981年1月神奈川県生まれ
最終学歴 2005年法政大学大学院

工学研究科建設工学専攻
修士課程修了

業務経歴 2005年株式会社日建設計入社
現在大阪オフィス設計部

●担当した主なプロジェクト

2005年 タキロンメディカル研究所
2006年 中兵庫信用金庫
2006年 フェスティバルタワーコンペ選定
2006年 ベトナム歴史博物館コンペ選定
2007年 本町ガーデンシティ
2008年 田島大阪ビル
2009年 未来メッセ蓄熱フェア日建ブース
2013年 グランフロント大阪
2013年 うめきた広場
2013年 うめきたシップ

■青年技術者のことば

物事には原理・原則があり、それが環境・デザイン・図面の線やディテールにもつながっていくことが建築であり、人や機能と接することができる唯一だと考える。さらに環境をテーマにすることで、必ずや建築が自然に還元できる力を、自然が建築に還元できる力を発揮してくれると信じている。環境・構造・設備・デザイン・建物プログラムが一体となった建築を目指し、それによって資本が生み出され社会へ還元できる建築を残していきたい。

それは機能の融合、つまり機能の排除を目指す。

実作の内、代表作を並べたが、細かな繰り返しのデザインを見ることが出来る。これは融合させるための一つの手法と考えている。大きな理論を細かなものに変換することで融合が起こりやすくなると考えたからである。これらは「環境と建築」「知的創造と消費空間」「過去と現代」「新素材と展示」「外装と構造と環境」の融合を図ってきた。これまで融合が反映されたとき、その部分は社会性のある固有の建築作品ができたと思う。次のプロジェクトではどのような融合を図るか、それをいつも自分のテーマに考えている。

■すいせん者

岡田耕治
日建設計 設計部門部長



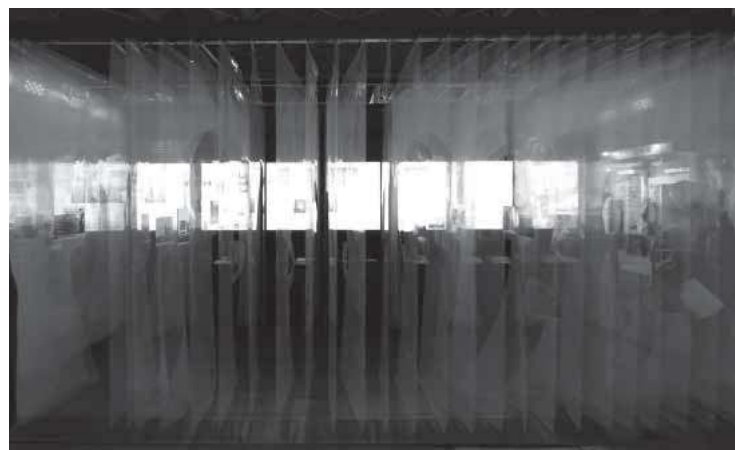
うめきたシップ・うめきた広場・グランフロント大阪



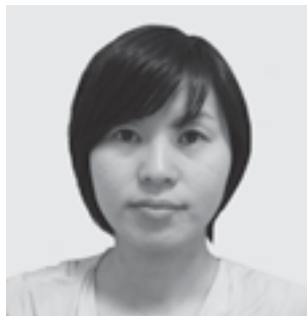
田島大阪ビル



本町ガーデンシティ



未来メッセ・蓄熱フェア2009 nikkenブース



なか むら さち え
中村 幸恵

生年月日 1981年11月新潟県生まれ
最終学歴 2007年東京理科大学
大学院理工学研究科
建築学専攻修了
業務経歴 2007年㈱竹中工務店入社
現在、名古屋支店設計部
●担当した主なプロジェクト
2009年 みなと医療生活協同組合
宝神生協診療所
2009年 刈谷看護学校改修
2010年 テクニカフクイ新社屋
2010年 名古屋商科大学名東寮
2010年 みなと医療生活協同組合
高畑生協診療所
2012年 加藤学園幼稚園
2013年 ナガシマ立体駐車場
●受賞
宝神生協診療所：
2009年度グッドデザイン賞
第17回愛知まちなみ建築賞
作品選集2011
高畑生協診療所：
第7回愛知県建築士事務所協会建築
賞優秀賞

■青年技術者のことば

一見矛盾している条件・要件をいかに同時に解決し応えていくかを考え抜くことで、その個別解がその建築その建築でしか実現できないような魅力になる。
建築は必ずなんらかの影響を周辺に与える存在である。単体で閉じて成立するのではなく、積極的に周辺環境とどう繋がっていくかを模索することで周辺環境や地域社会から互いに影響を受け、より高次元で有効に機能していき建築の可能性が拡げられるのではないかと考える。建築主はもちろん、エンドユーザーや地域の人たちが建ってよかったと感じてもらえることが重要だ。
今後のプロジェクトにおいても、建築と人の新たな繋がり方を深耕し追求していこうと思う。そのためには設計に活かせる様々な経験を蓄積していくとともに、新たな視点で問題点や常識とされていることが重要だと考える。そして、個別の解決方法を関係者とともに作り上げていくことで問題点を付加価値に変えることで新たな魅力を生み出していきたい。

■すいせん者

薄田 学
竹中工務店名古屋支店設計部
設計部長



みなと医療生活協同組合 宝神生協診療所 一人のつながりを出る診療所と街の新しい関わり方—
敷地の向かい側のトラックターミナル等の喧騒から適度な距離を保つために正面に対しては壁を設け、斜めに開くように配置。
断面的な隙間の開口からは自然光を内部に取り入れ、平面的な隙間の開口からは内部と外部がつながって感じられる拡がりのある空間としている。



みなと医療生活協同組合 高畑生協診療所 一天気図の等圧線のように街に開かれた診療所—
診療所の中心となる診察室から天気図の等圧線のような曲面壁を矩形の中に導入し、待合室と複数の諸室が自然に接点を持つことができるコンパクトでありながら明快で機能的なプランとして使いやすい医療施設とするとともに、限られた敷地の中で奥行と拡がり・街との繋がりが感じられる。

にし かわ ひで き
西川 秀 樹

生年月日 1979年5月福岡県生まれ
最終学歴 2004年九州大学大学院

人間環境学府 都市共生
デザイン専攻修了

業 歴 2004年株式会社建設計入社
現在、大阪オフィス
プロジェクト開発部門
企画開発部所属

●担当した主なプロジェクト
2007年 We Love 天神協議会
まちづくりガイドライン
中之島プロジェクト
2007年 中之島プロジェクト
2008年 梅田3丁目プロジェクト
2009年 中之島西部地区調査
2010年 大阪駅周辺地区調査
2010年 岡崎地域活性化ビジョン
2011年 熊本桜町花畑周辺地区基本
構想・基本計画
2012年 大阪駅周辺地区等エリア防
災計画調査

■青年技術者のことば

まちづくりのシナリオを描く際に常に心がけていることは、夢物語で終わらない実現性を踏まえたものとするということと、逆に実現性に捉われ過ぎず、時にはその理屈を超えて人々の心を前に動かせるような夢のあるものとする、ということです。

私の目標は、そのようなまちのビジョン（将来像）、プランニング（計画・デザイン）、プログラム（実現方法）をセットとして、計画的視点と事業的視点の全体最適を実現する開発事業を構想し、プロジェクトに仕立て上げ、責任を持って推進できるプランナーのプロフェッショナルとなることです。地域再生のきっかけをつくり、事業として動かしていくためには、そこに関わる多様な人々の立場と、経済や社会動向なども含めた他分野への幅広い理解が欠かせません。建築・都市計画という自らの拠り所となる技術力を高めつつ、関連分野の理解の裾野を広げられるように意識的かつ継続的に取り組んでいきたいと考えています。

■すいせん者

来住竜一
日建設計 プロジェクト開発部門
企画開発部長

構想づくりから具体的な事業推進まで、各段階に応じたまちづくりの推進

基礎的な調査や検討を通し、“まちづくりの可能性を探る”段階

地区の現状や課題、ポテンシャル、民間需要／投資意欲、社会動向等の情報を収集・整理分析し、地区整備の具体的な方針を検討。戦略的なシナリオを持って個々の課題に取り組むとともに、民間投資を促す都市計画等による規制誘導のあり方などの処方箋もあわせて提案し、まちづくりの可能性を探索する。



開発イメージ（検討パターンのひとつ）

関係者の想いをひとつにし、“まちの将来像やまちづくりの戦略を定め共有する”段階

行政や住民、地権者や民間事業者などの関係者が、具体的なまちの方向性や将来イメージを共有することが出来る指針や、事業化に向けた方策などを検討。委員会などの検討組織を設置し、関係各方面との細やかな協議や合意形成のプロセスを積み重ねながら、関係者が納得できる夢のあるビジョンや、多様な立場を踏まえた現実的かつ実効性があるアクションプランを提案する。



賑わい施設を配した二条通沿いのイメージ

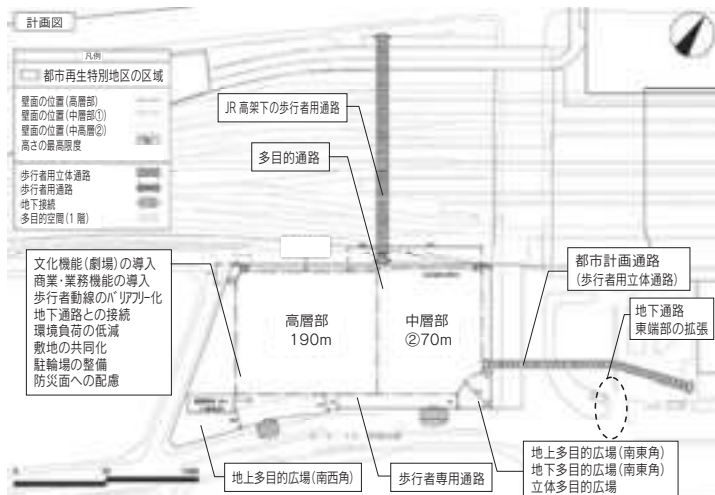
散策路を整備した琵琶湖疏水沿いのイメージ

都市計画等を通して事業推進を支援し、“まちの将来像を実現していく”段階

地区の機能更新による良好なストックの整備、民間投資による公共施設の整備や更新、建設活動を通じた地域経済への寄与など、地域社会にプラスになる事業について、都市計画手法等の適用により事業環境を改善し、事業の円滑な推進をサポート。公共と民間事業者のWin-Winの関係を念頭に置きつつ、事業者が公共貢献としてなすべきことと、その対価となる容積割増しなどのインセンティブを定め、その枠組みを都市計画として担保する。



先行開発された東地区（撮影：竹中工務店）



都市再生特別地区（大阪駅西地区）※計画図に公共貢献内容を加筆

大阪駅周辺地区調査

大阪駅北地区の2期開発区域を主な対象とした、公民連携による魅力的なまちづくりのあり方とそれを実現するための民間誘導方策の検討。開発の前提となるオープンスペースについて、配置や規模設定、立体的なまちづくりの考え方などを整理した。民間開発については、用途ごとの将来需要を予測し、開発可能用途・規模について複数の開発フレームを設定した上で、配置パターン及び地価負担力算出による実現性の検証を行った。あわせて民間事業者の意向にあわせた柔軟な都市計画制度の適用や将来の事業コンペを想定した開発ガイドラインの骨子などについて提案した。

京都岡崎地域活性化ビジョン

様々な施設や資源を一体的に活性化に活用し、岡崎地域を京都が世界に誇る文化・交流ゾーンとしてブランド化していくための再整備に向けた将来像と推進方策の策定。公園区域指定（都市公園法）を踏まえた新たな賑わい施設整備等の施策の立案を行うとともに、一部施設の文化財指定や高度地区、風致地区の指定状況を踏まえ、老朽化が進む各施設の更新時に支障をきたさないよう都市計画的対応（地区計画、特別修景地域の指定）を検討した。また、総合特区制度と連携した戦略の提案や、ポータルサイト立ち上げによるエリアマネジメント組織の設立支援を行った。

朝日新聞中之島プロジェクト

四つ橋筋沿道のホール、朝日新聞社等を順次複合ビルとして建て替える計画に伴う都市計画・関連コンサルティング業務。公共的空間を民間投資で整備充実させ、地区の機能更新を含めて地域の環境改善を実現させながら、不動産事業として成立させる都市再生特別地区を活用した事業の枠組みを策定した。



敷地内の公共的歩行者空間

梅田3丁目プロジェクト

大阪中央郵便局等の再開発に伴う都市計画・関連コンサルティング業務。都市再生特別地区や地区計画、都市施設など4つの都市計画を成立させるため、都市計画スケジュールを踏まえた関係者のマネジメントや関係部局・地元との協議、必要図書の作成、交通・風害などの影響検討などを総合的に行い、事業推進を支援した。



開発イメージ



にし もり ふみ ひろ
西 森 史 裕

生年月日 1979年5月香川県生まれ
最終学歴 2005年大阪大学大学院
工学研究科建築工学専攻
博士課程前期修了

業務経歴 2005年㈱大林組入社
現在、大阪本店設計部

●担当した主なプロジェクト

2007年 台場ガーデンシティ
2011年 ショーエイコーポレーション
大阪第2センター
2012年 久御山物流センター
2013年 ウミノ製作所新工場
2014年 大阪機工新M工場（予定）
2015年 イシダ滋賀事業所（予定）

■青年技術者のことば

一素直で寄り添うデザインー
建築をつくるということは、風景をつくることでもある。人を惹きつける建築は、記憶の風景として、人の心に残る。
しかしながら、建築そのものが記憶の対象になるのではなく、その建築が記憶の中の背景となり、生活に彩を与える存在であって欲しいとわたしは願う。
建築は主役でなく、脇役が良い。脇役の建築をつくるのが、わたしの仕事だ。その為に、わたしはできるだけ素直でありたいと考える。

建築が建つ場所に対して
建築が果たす機能に対して
建築が表現する美しさに対して
建築が持つ経済性に対して

素直で無理のないデザインを追及することで、建築が、その時代・その環境・その人々に寄り添う存在になれると信じている。

遠い昔からその建築があったかのような感覚・その建築が不思議と身体に馴染む感覚

風景や生活に建築が溶け込むシーンを夢見ながら、図面に記される1本1本の線に想いを込めて、素直で寄り添える建築・風景を作っていきたい。

■すいせん者

刃金国雄
株式会社大林組大阪本店
建築事業部建築設計部部長



ウミノ製作所新工場



ショーエイコーポレーション大阪第2センター



はしら けん た ろう
柱 健 太 郎

生年月日 1978年 8 月大阪府生まれ
最終学歴 2004年大阪大学大学院
工学研究科地球総合工学
専攻建築工学コース修了
業務経歴 2004年(株)東畑建築事務所
入社
現在、名古屋事務所設計
部主任技師

- 担当した主なプロジェクト
(WSはワークショップ業務)
- 2008年 紀北町立相賀小学校
- 2009年 富山県広域消防防災センター
- 2010年 京都市立朱雀第四小学校
(仮称) 豊田市立第2浄水小
学校 (WS)
- 2012年 (仮称) 豊田市立第2梅坪台
中学校・交流館 (WS)
- 受賞
- 2011年 中部建築賞入選 (紀北町立
相賀小学校)
- 2012年 中部建築賞入選 (富山県広
域消防防災センター)
- 2013年 京都市京環境配慮建築物一
般建築物改修部門優秀賞
(京都市立朱雀第四小学校)

■青年技術者のことば

今日、設計者に対しては、建物としての設計能力に加えて、様々な要望や条件を総合的に判断しまとめる「コーディネート力」が求められていると感じる。建築とそこに関連する、環境、文化、生活、人などとの結びつきがより重要視されてきている。設計時にさまざまな主体とのコミュニケーションを図り、場所としての条件と合わせて形に落とし込むことで、その場の持つポテンシャルを最大限に引き出すその設計プロセスが重要になってくる。

私の設計プロセスの特徴にワークショップが挙げられる。建築をつくることに合わせたプロセスでは、ただのソフトづくりとは違い、建築の理解力が重要と考える。設計を知っているからこそその専門的アドバイスや、ハードとソフトを結びつけた提案・発想ができる。建築づくりをスタートとして、さまざまな人や活動、まちがつながる「きっかけ」をつくること、それらの活動や想いをまとめて建築で表現すること、そのキャッチボールの姿勢が私の設計に対するオリジナルなスタンスである。

■すいせん者

瓦田伸幸
東畑建築事務所
名古屋事務所 設計部長



紀北町立相賀小学校

まちとつながる路地・縁側空間を校舎に沿ってつなげ、屋内と屋外、学校とまちの連続性を意識した。校舎は中庭を中心として回遊性を持たせ、小規模校の特性を活かした密度の高い空間構成となっている。衝突防止マークは児童作成の押し花を用いた手づくり。



京都市立朱雀第四小学校 (環境省「学校エコ改修と環境教育事業」モデル校)

老朽化した校舎に環境配慮技術を付加して蘇らせ、さらには環境教育との連携を図る、ソフトとハードが一体となった設計プロセス。一部増築したシンボル空間「あかしやホール」は屋外と連続した環境学習の場になる。設計段階から教職員とのワークショップを重ねた。



(仮称) 豊田市立第2浄水小学校 (ワークショップ業務)

人口増加による分離新設校の計画。設計者とは別の「ワークショップ担当」として、設計プロセスと連動し、学校と地域をつなぐ新たな関係づくりを目指して地域住民とのワークショップを重ねる。活動を通じて地域の意識を高め、住民主体の任意団体の設立へとつながった。



ひ よ し りょうへい
日 吉 良 平

生年月日 1978年4月京都府生まれ
最終学歴 2005年早稲田大学大学院
理工学研究科建築学専攻
修士課程修了

業務経歴 2005年鹿島建設株式会社
現在、鹿島建設関西支
店建築設計部

●担当した主なプロジェクト

2003年 前橋の住宅
2005年 武蔵カントリークラブ
高坂カントリークラブ
2006年 醤油会館
2007年 小岩北澤ビル
2010年 早稲田大学本庄高等学院95
号館
2012年 ㈱ニシヤマ大阪支店
IDEC本社研究所

■青年技術者のことば

初めて設計に携わってから10年、
設計者としてのこれまでの経験は
「建築行為は人との関係を構築す
る」・「人との関係が建築を生む」
このような貴重な価値観を私に与
えてくれました。

建築の世界はめまぐるしく進化し、
設計行為に様々な高度技術が必要
になってきています。それらに対
応するための環境は大きく変化し
ようとも、根幹に根付く価値観で
ある「人との関係」が、建築との
関係性の中でも私の設計行為の中
核に位置するようになりました。
今までの設計行為において、施
主・施工者・業者・官公庁関係者・
構造設備設計者など、まず「人との
関係」を構築し、その関係性の中
から建築が育ち、そして建築完
成後には建築が人を育ててゆく。
そのような、より良い循環が生ま
れる場面を目の当たりにしてきま
した。

それはとても衝撃的で貴重な経験
として、私の目指すところを照ら
してくれたように思います。
「人との関係」を中核に設計をお
こなう私には、設計者としての人
格も必要であり、いつも誠実に、
謙虚に、確実に、そして新しいも
のへ挑戦する姿勢も持ち合わせる
ようにしたいと思っています。

■すいせん者

菅野忠司
鹿島建設 関西支店
設計部長



武蔵カントリークラブ 豊岡コース クラブハウス

撮影：齋藤さだむ



株式会社 ニシヤマ 大阪支店

撮影：福澤昭嘉



早稲田大学本庄高等学院 95号館

撮影：解良信介



まる やま まさ ひこ
丸山 将彦

生年月日 1979年2月大阪府生まれ
最終学歴 2004年大阪大学大学院

工学研究科建築工学専攻
博士前期課程修了

業務経歴 2005年㈱昭和設計入社
現在、建築設計部

●担当した主なプロジェクト
2007年 スペインパレンシア
国際コンペ

丹波市立柏原中学校

2008年 東京都立松沢病院

2010年 耳原総合病院

■青年技術者のことば

建築設計の業務に携わり、8年が経過しました。業務に携わる中で「イメージする」ことの重要性を感じています。

私たちが設計するときに「イメージする」のは建築を形づくる物と物、物と人、人と人との関係性だと思います。そして「イメージする」中で見えてくる課題に、丁寧に一つひとつ向き合い、対話を重ね、設計を進めていく。その積み重ねが、建築をつくるのだと思います。

業務に携わるようになった当初は、知識の不足から不安を感じることもありましたが、今は、「知らない」ことを、過度に不安に感じることはないと考えています。それは、業務を通して「知っている」ことよりも「イメージする」ことこそが、重要なのだと実感できたからです。

これから、研鑽を重ね、技術者として経験を積み、人間性を磨いていきたい。そうすることで「イメージの精度」を高め、真摯に建築に向き合っていきたいと考えています。

■すいせん者

千種幹雄

昭和設計

専務取締役



東京都立松沢病院





いけ だ なお こ
池田 直子

生年月日 1983年1月京都府生まれ
最終学歴 2008年京都工芸繊維大学
大学院工芸科学研究科造
形工学専攻前期博士課程
修了
業務経歴 2008年(株)安井建築設計事
務所入社
現在、大阪事務所構造部
●担当した主なプロジェクト
2010年 京都工芸繊維大学
KITHOUSE
2010年 近畿大学 総合社会学部校舎
2010年 近畿大学BLOSSOM CAFE
2010年 光華女子学園70周年記念棟
2011年 和歌山大学観光学部校舎
2012年 大阪総合保育大学 新棟
2013年 兵庫県立淡路医療センター
2013年 近畿大学 記念会館別館

■青年技術者のことば

大学では構造力学や鉄筋コンクリート造、鉄骨造などを教科書や実験を通して学んでいました。社会人になってからはひとや街の安心・安全、それに日常生活の場となる空間について日々考え学ぶことが多いと感じます。現実には建物の計画を行うことで、ますます具体的に身近なものとして建築を感じるようになりました。構造設計という立場から建築に向き合うとき、まずは「安全」であることが第一と考えています。その上で、個別の条件に合わせた「魅力」をどれだけ実現させることができるのか、それが構造設計の醍醐味であると私自身は感じています。それぞれの建物の魅力を最大限活かしながら、ひとや街の命・財産を守るという重責を担っている意識を常にもちながら、一つひとつ丁寧にプロジェクトを進めていきたいと思っています。先人の知恵や経験は大事にしながら「新しいことに挑戦する」こと、それと「本質を見失わない」ことを心がけて設計に取り組んでいこうと思っています。

■すいせん者

山浦晋弘
安井建築設計事務所 構造部長

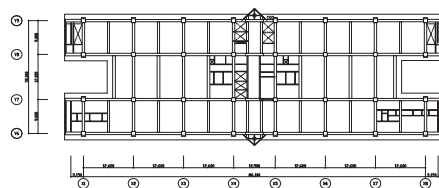
建物は、兵庫県洲本市に計画された災害拠点病院である。検査・診療部門が入る低層部の平面形状は117.0m×98.7m、3階以上の病棟部分は30.0m×86.1mであり、建物北側にはエネルギーセンターが計画されている。平面形状のフレキシビリティを確保するため、X方向のスパン長は12.6m、Y方向のスパン長は12.0mを基本グリッドとした。また、上部架構の応答を減少させるため、建物周期を4秒以上程度に伸ばすことが有効であると予備応答解析により判明していたため、スパンを拡げ免震装置を集約することで免震層の水平剛性を小さくし、建物の長周期化を図った。上部構造はプレキャストプレストレスト鉄筋コンクリート造とし、圧着工法により両方向共純ラーメン架構を構成することで12m程度のロングスパンを可能とした。敷地周辺にクローラクレーンが設置できる施工ヤードがあることもPCa化する上で大変重要なポイントである。PCa部材の圧着工法を採用するにあたり、各方向とも全長が100m程度と長く、PCケーブルの緊張力により、柱はり強制変形を受け付加応力が発生する懸念があった。そのため、X方向では中央スパンを挟んだ両側で二次緊張を行いその後中央スパン部分を架設し三次緊張により全体を一体化した。Y方向については、重機が走行するスパンの梁をあと施工の鉄骨造とし、収縮の緩衝帯を設けることで解決を図った。

また、免震装置には、環境に配慮し錫プラグ入り積層ゴム支承、天然ゴム系積層ゴム支承、および直動転がり支承を採用し、1階柱下と基礎の間に配置した基礎免震構造とした。錫プラグ入り積層ゴムは鉛プラグ入り積層ゴムと比較して、初期剛性が高く減衰能力が1.7倍程度高いため台数を削減することができコストメリットが生じる。レベル2の地震動に対する建物Y方向の地震応答解析結果を右下図に示す。免震層の変形は41cm程度であり、耐震性能目標の性能保証変形以内にある。また、最大応答層せん断力係数は、主剛床・副剛床ともに部材の許容応力度確認用に用いた層せん断力係数以下となっており、十分な免震効果が発揮されていることを確認した。病室階の応答加速度についても、医療機器等の転倒を防ぐため、250gal以下に抑えることとし、応答解析の結果、最大応答加速度はレベル2の地震動に対して、X・Y方向共220gal程度であることを確認した。さらに、津波により免震ピットが浸水する可能性に対しては、設計時の現状地盤より1mマウンドアップすることに加え、免震ピットの浸水により免震機能を失った場合でも震度5強の余震に対して上部架構が弾性限内にとどまるように配慮し、部材断面に余裕をもたせている。

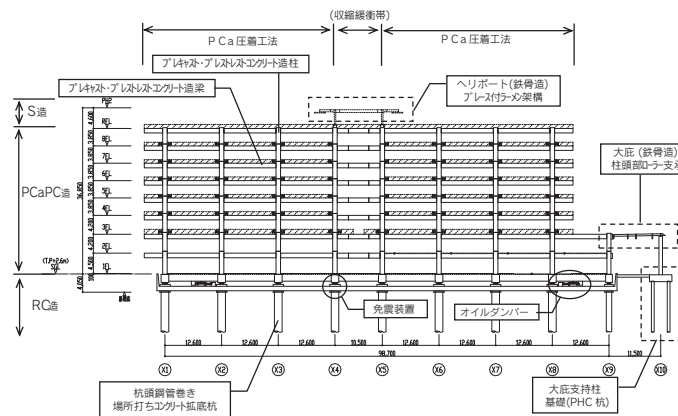
兵庫県立淡路医療センター -100m×100mの平面形状を有する免震病院の構造計画-



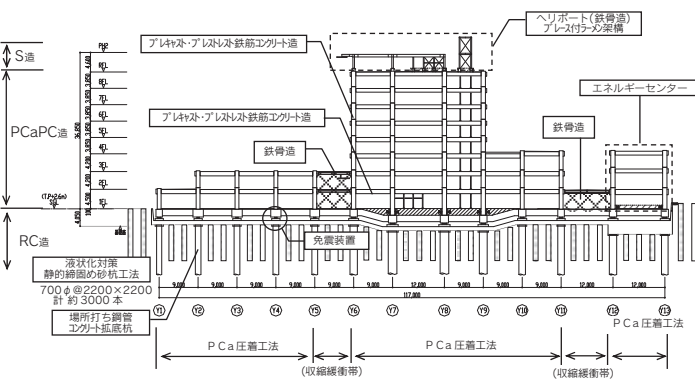
撮影/エスエス大阪



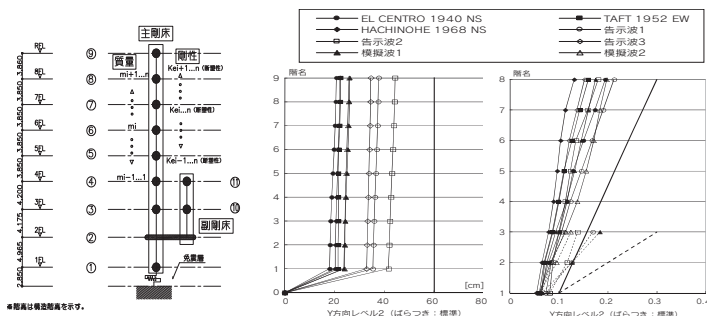
高層階床梁伏図



X方向架構断面図



Y方向架構断面図



振動解析モデル

時刻歴応答解析結果



おくの ゆう いち ろう
奥野 雄 一 郎

生年月日 1979年 8月兵庫県生まれ
最終学歴 2004年京都大学大学院
工学研究科建築学専攻
修士課程修了

業務経歴 2004年株式会社工務店入社
2005年大阪本店設計部
2013年同設計部主任

●担当した主なプロジェクト

2005年 イオン奈良北登美が丘SC
2006年 たけびし本社増築
2007年 産経新聞社美原印刷工場
2007年 神戸松蔭女学院5号棟
2008年 清荒神清澄寺史料館
2009年 GSユアサ長田野工場
2010年 三洋電機徳島工場技術棟
2011年 (仮称) JR姫路駅NKビル
2011年 天一食品スバリゾート雄琴
2012年 日本GT龍野工場
2012年 (仮称) 梅田Mタワー

■青年技術者のことば

魅力ある建築空間を創造することは、構造設計者にとって大きなテーマである。意匠・設備と調和し、単純明快ですっきりとした構造計画がそれを可能にすると思う。多種多様な技術をやみくもに用いるのではなく、洗練された技術を適材適所に用いることが重要である。

紹介する建築は、内部に構造体コアを設け、跳出梁で屋根を支持するというシンプルな架構から成り立つ。美しい屋根の反りを実現させるために「丸桁」という伝統木造の考え方を抜粋して取り入れている。伝統木造の架構技術の一部を現代のRC造に組み込み、浮遊する屋根建築を生み出すことができた。

昨今において、解析手法が高度化し複雑な解析も可能となったが、私は単純明快なソリューションを目指して構造設計を行うことを意識している。意匠設計者・設備設計者・施工管理者とともに発想と工夫を凝らし、建築主の想いを具現化する、魅力あるものづくりをこれからも行っていきたい。

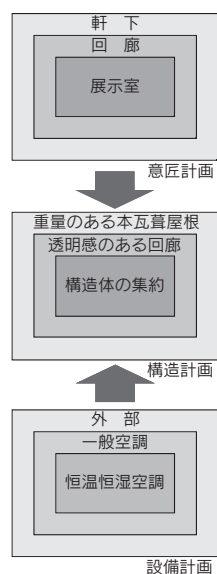
■すいせん者

村上陸大
竹中工務店大阪本店
設計部構造部門統括部長

本瓦葺の屋根の下に透明感のある回廊が配される史料館の設計

1. 建築計画

本プロジェクトは、「宗美一体の理念」に基づき、歴史や文化に親しむ場を提供するというコンセプトのもと、端正な本瓦葺屋根の下に透明感のある回廊を有し、屋根が浮かび上がる外観デザインとした史料館である。中央に配置された展示室は、恒温恒湿空調が必須であり、展示室周囲の回廊については、外壁を高透過複層ガラスとして、庭との一体感を高めている。



2. 構造設計におけるテーマのブレイクダウン

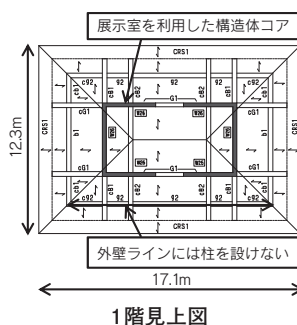
本建築計画を実現させることが構造設計におけるテーマであったが、そのブレイクダウンとして、以下の4つの命題が挙げられた。

- ①外壁ラインをすっきりと開放的に見せる。
- ②本瓦葺屋根の水平荷重をどう処理するか。
- ③本瓦葺屋根の鉛直荷重をどう支持するか。
- ④外壁の変形に対する安全性を確保する。

3. 各命題を解決する技術的アプローチ

命題①「外壁ラインをすっきりと開放的に見せる」

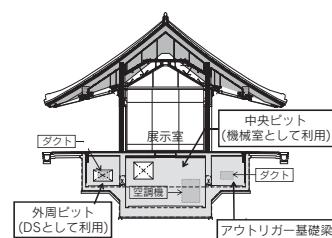
⇒柱不要の中央集約型構造体コア
上記命題を実現するため、中央に耐力壁を集約したRC造壁式構造として計画し、外壁ラインには柱が不要であることを意匠設計者に提案した。この壁は構造体のコアになるとともに、展示室内の気密性を維持することにも利用される。



命題②「本瓦葺屋根の水平荷重をどう処理するか」

⇒転倒を防止する設備融合アウトリガー基礎梁

本建物は壁のスタンスが短いため、耐力壁による地震時の転倒モーメントが大きく、転倒に対する安全性の確保が不可欠である。そこで、空調機械室を1階床下ビットに配置することで基礎構造のスタンスを大きく確保し、転倒モーメントに抵抗する計画とした。

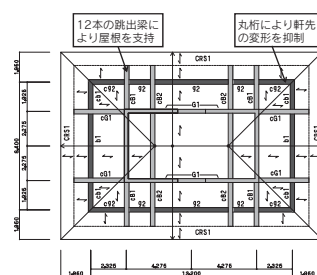


断面図

命題③「本瓦葺屋根の鉛直荷重をどう支持するか」

⇒伝統木造の架構を応用したRC屋根構造

浮遊する屋根を実現するため、伝統木造の考え方を取り入れたRC屋根構造を計画した。本建物の深い天井懐と展示室周りの鉄筋コンクリート造壁を利用して1200mm成の跳出梁を12本設けるとともに、先端から約2m控えた位置を「丸桁」で繋ぐことにより、軒先の変形を抑制することで優雅な反りを表現した。



屋根伏図

命題④「外壁の変形に対する安全性を確保する」

⇒安全・安心ガラスファサードの実現

本建物の外観デザインを実現させるためには、構造体の変形を予測し、ガラスに影響を与えないクリアランスを確保する必要がある。軒先および丸桁の弾性たわみを算出し、クリープ等による長期たわみを予測することで外装材のクリアランスを適切に設定し、安全・安心かつデザイン性に優れたガラスファサードを実現することができた。

弾性たわみ 解析値(mm)	サッシ取り付け部のたわみ 予測値(mm)	弾性たわみ 実測値(mm)	サッシ取り付け後に起こると 予測されるたわみ(mm)
軒先 2.6	15*	15	25
丸桁 1.4	6*	5	10



長期たわみの予測と実測値



清荒神清澄寺史料館

さとうともなり
佐藤 朋成

生年月日 1980年11月神奈川県生まれ
最終学歴 2006年東北大学大学院
都市建築学専攻博士課程
前期課程修了

業務経歴 2006年㈱大林組入社
2006年大森共同住宅新築
工事工事事務所
2007年本店建築設計部
2010年東京本社構造設計部
2012年大阪本店構造設計部

●担当した主なプロジェクト

2008年 梅田阪急ビル
2009年 グランフロント大阪南館
2010年 大久保三丁目西地区開発計画
2010年 oak omotesando
2011年 獨協大学学生センター
2011年 PROUD船橋
2012年 神戸製鋼所加古川製鉄所内
建屋

■青年技術者のことば

構造設計者は、重力との戦い、さらに日本においては地震力との戦いからは逃れることはできない。特に、東京や大阪の直下型地震や南海・東南海地震などの発生が叫ばれる昨今、構造設計者に求められる技術者としての安全性へのハードルは日々高まっている。一方でより魅力的な、環境や人に優しい建築を目指していきたいという社会的要求もあり、如何にして建物の安全性を確保しつつも質の高い空間を設計していくかが重要なテーマとなっている。この2つを両立するため、構造設計者としての能力をもってしなければ出来ない新しい発想やアイデア、進むべき方向性を示していくことが重要だと感じる。そのために構造設計者は、自らの専門分野である、力学的な感覚による判断のスキルや、振動など動的なイメージ、法的な理解といった部分を日々高めていくとともに、そのスキルがあるからこそ実現可能な構造アイデアを磨くため、デザインや環境、今社会が何を求めているのかといった部分に対する見識を広げ、自らが提案者として建築の可能性を広げていく役割を担っていく必要があると思う。私はそんな構造設計者になっていきたいと考えている。

■すいせん者

安井雅明
大林組 大阪本店
建築事業部構造設計第三部 部長

数々の新技術に挑戦したテナントビル／oak omotesando

本建物は、東京都港区の表参道に面した複合テナントビルで、店舗である1～2階の基壇状の低層部とオフィスである3階以上の高層部の構成となっている。地下2階では東京地下鉄表参道駅とExp. Jを介して連結している。

●全体構造計画

1, 2階の低層部は階高が高いため、CFT柱を用いて剛性と耐力を確保している。比較的小さい東西方向の大梁に対しては梁端部を拡幅した形状のウイングビームを用い、現場溶接部の安全性の確保、鉄骨数量の削減に努めている。基礎は地下階の耐震壁を利用した布基礎形式としている。また、3階以上の事務所部分は環境負荷低減のためのダブルスキンと太陽光パネル・緑化壁外装フレームを設け、これらを新しい制振システムとして採用したHMS (Hula Mass damper System) の付加質量とすることによる制振構造として耐震性能を高めている。

●クリーンクリートの利用

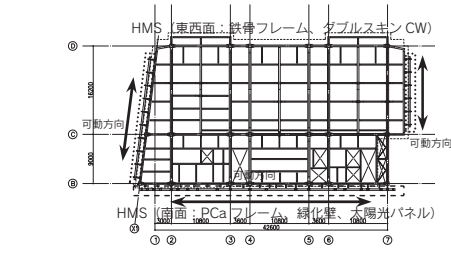
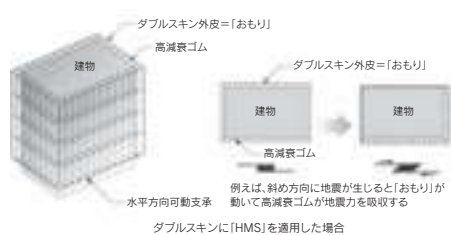
地下部分には通常のコンクリートと比較して硬化までの二酸化炭素発生量を80%低減できる低炭素型コンクリート（＝クリーンクリート）を初めて躯体に利用した。

●スリムクリートの利用

表参道に面したオフィスエントランス底には超高強度繊維補強コンクリート（＝スリムクリート）による先端厚み50mmのシャープな形状の底を実現した。

●HMS (Hula Mass damper System)

HMSは、外装材を高減衰ゴムを介して水平方向に動くように建物に取り付けることで、建物の揺れを打ち消す「おもり」としてTMD効果を持たせた新しい制振システムである。環境性向上のための装置やファサードデザインのための外装材の重さが必要性能の向上にも融合する。また、建物内部への制振デバイスの設置が不要となることによって建築計画の自由度が向上する。さらに、通常のTMDは屋上階に錘を設置するのに対して、大きな見付け面積のある外壁に分散してTMDとしての錘を配置できることから、地震に対しても有効となる大きな重さを確保することが出来る。



北側ファサード（表参道より）



スリムクリート底

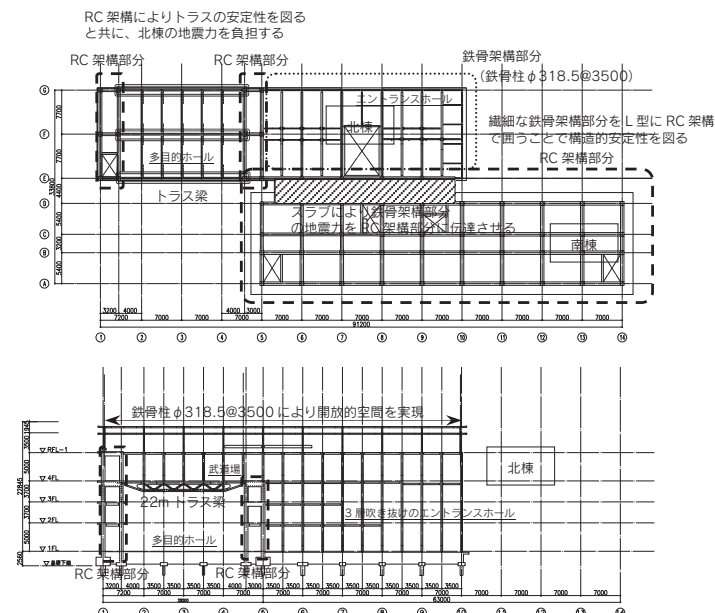
空間イメージに合わせた混合構造による全体架構計画／獨協大学学生センター

本建物は、埼玉県草加市の松原団地より徒歩5分の立地にある獨協大学の敷地内に建つ地上6階、塔屋1階の学生センターである。建物は南棟と北棟の2棟構成で、南棟は主に部室やスタジオ・事務室、北棟は3層吹き抜きのエントランスホール・22m無柱の多目的ホールとその上部に武道場、練習室で構成されている。

建物用途が北棟と南棟で大きく性格が異なることから、その空間イメージを強調できるような全体構造計画を考えた。北棟は鉄骨柱φ318.5を3.5mピッチに配置した開放的な空間とし、南棟はRC架構と外装RCルーバーにより落ち着いた空間を表現した。この空間イメージを成立させるため、両棟を構造的に一体として、開放的な鉄骨架構部分をL型のRC架構で囲むことにより構造的安定性をとり、鉄骨架構部分の地震力をRC架構部分で負担する計画とした。多目的ホール上部は22mスパンの両端ピン接合のトラス梁とし、耐震要素ともなる両端のRC架構によって応力进行处理している。また、直交小梁の方柱を利用することで鉛直たわみの制御、床振動の抑制、外装材から下弦材への風荷重への抵抗要素として利用した。



北東側より（2棟の対比） 南側より（多目的ホールと武道場） エントランスホール（鉄骨架構部分）





やま だ しゅうへい
山田 祥平

生年月日 1982年9月静岡県生まれ
最終学歴 2007年京都大学大学院

工学研究科
建築工学専攻修了
業務経歴 2007年株式会社設計
東京オフィス構造設計室
2008年大阪オフィス構造設計室
現在、構造設計部門
構造設計部

●担当した主なプロジェクト

2009年 インフォコム新横浜事業所
2009年 京都産業大学14号館・第5研究室棟
2010年 京都府医師会館
2011年 創価学会阿南文化会館
2013年 赤坂センタービル
建設中 北播磨総合医療センター
建設中 医療法人須藤会 土佐病院
建設中 広島修道大学新3号館
建設中 大塚製薬 大阪本部新ビル

■青年技術者のことば

構造設計者として歩き始めた新人の頃、ある上司が言っていた言葉を時々思い返す。「山田君、構造設計者には必要な三つの学がある。それは、『数学』『哲学』『美学』だよ。」当時この言葉を聞いた時は、何ともロマンのある格言だと感じたが、一方で、自分が歩き始めた道に対してどこか心が躍ったことを覚えている。構造設計に携わりはじめて今年で7年目となり、色々な建物と巡り合うことができた。そして、これからも様々なプロジェクトに巡り合っていきたいと思うが、この言葉を反芻しながら設計に取り組んでいきたいと思っている。

一つの建物を創りあげるまでには、実に多くの人達の協働が必要であることを実感する。良い建物を創りあげるには、そこに携わる人達と想いを共有することが何より大切だと思っている。色々な人達と想いを共有できる構造設計者になっていきたいと思っている。また、近年構造設計者の果たす役割は多岐に広がっている。その社会的要請に応え、より良い建物を創りあげられるよう、ひたむきに設計に取り組んでいきたい。

■すいせん者

吉澤幹夫
日建設 構造設計部長

ファサードデザインと一体化した構造計画

本建物は、大阪市内に計画された事務所である。建物のファサードは、三角形の外装サッシと構造躯体を一体化させたオリジナリティのある外観とし、柱・梁を三角形に組むことで柱断面を小さくし、奥行きが浅い敷地平面形状を最大限活用できるようにしている。

架構計画は、X方向、Y方向共にブレース付きラーメン架構とし、建物南側のコア部に配置した制振部材（座屈拘束ブレース：LY225使用）および耐震ブレースと、外周の斜め柱・梁フレーム（以下、ダイアゴナルフレームと呼ぶ）を耐震要素とした制振構造としている。建物の外観を特徴づけるダイアゴナルフレームは、WH-250mm×150mmの溶接組立H形鋼を三角形に編み込むことで長期荷重と地震力を負担しつつ、外装サッシ受けともなりファサードデザインを形成している。フレームの一部には、制振部材を組み込むことで局所的な柱に軸力が集中しすぎるのを避けつつ、建物全体としての制振効果を高めている。

●構造計画

長期荷重と地震力を負担する構造部材でありつつ、三角形の外装サッシと如何に一体化させてオリジナリティのある空間を創るかが建築計画・構造計画のテーマであった。その中で、構造設計者として最初から最後まで取り組んだのは、構造部材を細かく編み込むことで、柱の断面をどこまでスレンダーに見せることができるかということであった。ダイアゴナルフレームの柱は長期軸力部材であるため、設計の当初から大地震時においても塑性化させないという方針を持っていた。しかし一方で、建物全体としては大地震時にどこかの部位でエネルギー吸収できる構造計画にしたいと考え、制振構造を採用した。

●構造設計の課題

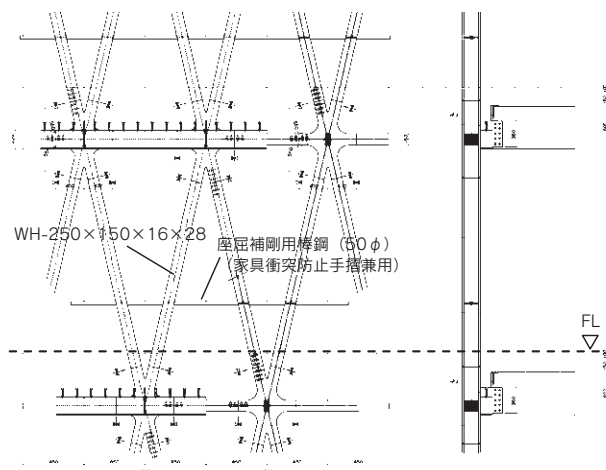
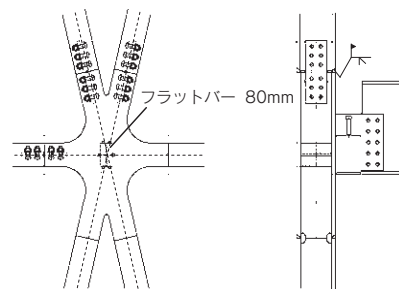
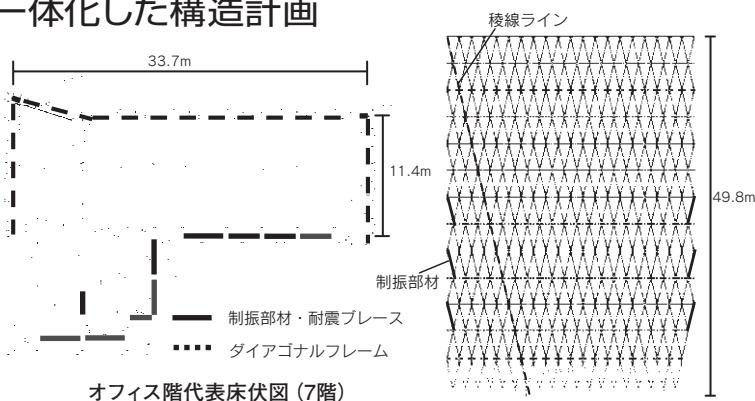
①、ダイアゴナルフレーム接合部の検討
本建物の三角形フレームの形状の特徴は、「縦に長い、スレンダーな三角形」をしているということが挙げられる。また、サッシと構造部材を一体化させるには、サッシと構造部材の角度を合わせる、つまり、部材を1点で交差させる必要があった。この2点を踏まえ、初期段階の検討において、いくつかの接合部形状の検討を行い、最終的には右上図のような納まりを提案した。接合部の溶接施工性から、柱・梁共にH形鋼を基本とし、6枚のウェブが取合ってくる交点にフラットバーを入れて軸力をスムーズに流すことを考えた。

②、ダイアゴナルフレーム柱の座屈に対する検討

ダイアゴナルフレーム柱の中間部には、柱弱軸方向の座屈を抑えるために座屈止め材（50φの無垢材）を入れているが、この座屈止め材は、家具衝突防止の手摺と兼用するため、ダイアゴナルフレームの交点レベルをFLから725mmさげることで、両者の目的を達成した。ダイアゴナルフレーム柱の断面は大地震時の応力により断面が決まり、大地震時に弾性耐力以下かつ軸力比0.65以下となるように決定した。設計においては、柱の軸力と座屈耐力の関係について慎重に設計を行った。

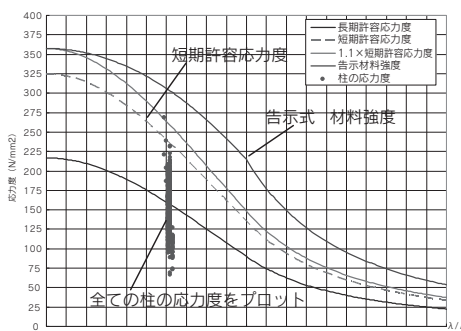
③、各種接合部詳細の検討

ダイアゴナルフレームの設計にあたっては、一般部以外に特殊な接合部（稜線部、隅角部など）が出てきた。その接合部の課題に対し、一つひとつ解決策を模索し、詳細を詰めていった。



稜線部の検討模型

隅角部の鋼鋼形状



ダイアゴナルフレーム北面軸力図 (Ds=0.50相当)



三次元CADによる隅角部の検討



うめ もと たけ し
梅本 武志

生年月日 1982年1月奈良県生まれ
最終学歴 2005年関西大学工学部
建築学科卒業

業務経歴 2005年株竹中工務店入社
2006年大阪本店設計部
2007年大阪本店設備部
2008年大阪本店設計部
2009年大阪本店設備部

●担当した主なプロジェクト

2007年 大阪第一生命ビル・新大阪
第一生命ビル設備更新
2009年 淀屋橋ガーデンビル
2010年 関西大学堺キャンパス
2011年 関西大学国際交流会館
白鷺特殊鋼板島工場
2012年 ボーjest中央漁具本社
遠藤照明東大阪テクニカル
センター
2013年 関西大学北陽高中体育館
大塚製薬大阪本部新ビル

■青年技術者のことば

設備施工担当者として、「設計段階からの計画（建築主（ユーザー）の想い）の確認」→「具現化への取り組み・検討・改善」→「引き渡し」を実践していくという当たり前のことが、建築主（ユーザー）の立場に立ってのもののづくりの原点であると思う。これまで担当させていただいたプロジェクトにおいて、ものづくりの原点という当たり前のことが、いかに難しいかを学ばせていただいた。

設備施工担当者は計画内容をそのまま施工し、品質を確保するだけではなく、設計段階からの計画を何度も繰り返し確認し、建築主（ユーザー）と共有し、メンテナンス性・操作性・更新性を向上していくことが重要であると思う。今後も設備施工担当者として、今まで以上に建築主（ユーザー）の立場に立って、よりきめ細やかにプロジェクトを進めていけるように自己研鑽を図り、社会に貢献していけるように努力する所存である。

■すいせん者

吉川 淳
株竹中工務店大阪本店設備部長

建築主の想いの具現化、メンテナンス性・操作性・更新性に優れたシステムへの取り組み～体感温度制御による放射空調システムの構築～

当プロジェクトは、釣具業界をリードし続ける老舗企業である中央漁具（株）、（有）エバーグリーンインターナショナルの「更なる飛躍への決意」を表現するシャープなデザインの新社屋である。新社屋は商品の荷捌き、商品企画スペース・事務所・倉庫・住宅といった用途が1つになったものである。設計段階より、環境に対する新たな取り組み（省エネ）や従業員の職場環境（快適性）を考慮した計画であった。それら建築主の想いをいかに具現化するか、さらにメンテナンス性・操作性・更新性に優れたシステムを構築していくことが設備施工担当者としての私の役割であった。その中の一環である「体感温度制御による放射空調システムの構築」の中で私が取り組んできた内容について説明する。



・外観写真



・執務空間全景写真

●体感温度制御による放射空調システムについて

ベッドフォードの体感温度の式を用いて体感温度及び風速、平均放射温度により、最適室温の演算を行う体感温度制御の採用を行うことで省エネ制御を行った。これにより快適性を損なわず、実際の室温が28℃であっても、体感温度として26℃に感じるといった温度制御を目指した。また執務空間（常時座っての業務）では天井吹出口より気流が直接身体に当たるといったのを避けたい、空間を均一に空調したいという快適性への要望があったので放射空調システムの採用を行うことで快適性を図った。

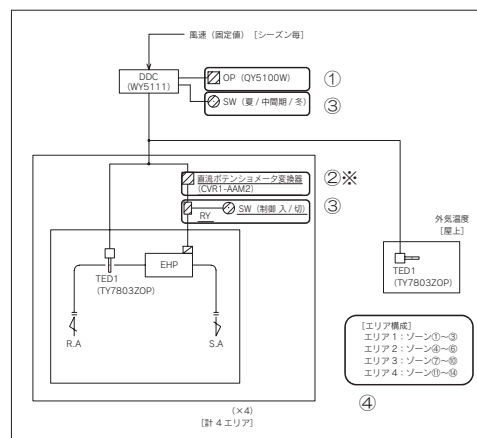


・放射空調シュミレーションモデル

●体感温度制御における取り組み

設計者と協議の上、下記内容の検討・改善を行うことでメンテナンス性・操作性・更新性の向上を行った。

- ①設定器の設定値（体感温度・窓面補正温度など）を可変型に変更
→メンテナンス性・操作性の向上
- ②エアコンの改造をないように直流ポテンショメータ変換機を設置
→更新性の向上
- ③体感温度制御ON/OFF、季節切替スイッチ追加
→メンテナンス性・操作性の向上
- ④制御ゾーンの集約
→メンテナンス性・操作性の向上



・体感温度制御概略系統図

※エアコンは温度制御信号の4～20mAのアナログ信号を直接取り込めないの
で汎用変換機（直流ポテンショメータ変換機にて信号を変換器）を採用。

●放射空調システムにおける取り組み

空調吹出口の性能検証（実際の天井納まりを再現し、工場にて温度気流条件を試験）を行うことでシステムの具現化・快適性の検証を行った。

- ・パネル面風速を0.05m/s程度で天井内で広く拡散する形状の検討
- ・吹出口直下での気流を抑える形状の検討
→試験用としてパンチンググリルサイズ（2パターン：400×400と500×500）、パンチンググリル開口率（2パターン：19%と29.6%）、遮蔽板サイズ（3パターン：無とφ150とφ200）、合計12/パターンを作成し検証し、吹出口の選定を行った。



・放射空調性能検証モデル全景および空調吹出口の試験体写真

●体感温度制御による放射空調システムにおける取り組み

体感温度制御による放射空調システムの動作検証（ソフト内容と実際の空間における比較検証）を行うことで、実際の空間における温湿度計測・風量測定と制御内容の比較を行うことで計画内容の具現化ができていたことが確認を行った。その結果、体感温度設定値26℃の演算室温27.3℃と同等の室内温度を計測でき、風量・風速の測定においても事前検証内容と同等であることが確認できた。体感温度制御・空調吹出口形状併せての性能検証により、体感温度制御による放射空調システムの構築ができた確認が行えた。体感温度としては26℃であるが、実温度は27.3℃であることから約10%の省エネが図れるとともに、不快ではなく快適な温度条件となった。取り組みによりシステムの具現化・省エネ性能・快適性の検証を行えたことで、我慢をして省エネをするのではなく、快適な省エネをできる空間であることと、今後は体感温度の値を変更することで、更なる省エネを図れることを建築主（ユーザー）と共有できた。

●成果と将来的展望

「体感温度制御による放射空調システムの構築」への取り組みにより、環境に対する新たな取り組み（省エネ）や従業員の職場環境（快適性）を考慮した新社屋を具現化できた。また、汎用品やすでにあるシステムを組み合わせて構築した体感温度制御による放射空調システムは、今後いろいろな空間でも水平展開できる内容であると思われる。

※ベッドフォードの体感温度の式

$$teq = 0.522 * ta + 0.478 * MRT - 0.21 * \sqrt{va} * (37.8 - ta)$$
 ta: 最適室温、teq: 体感温度（シーズン固定値）、MRT: 平均輻射温度、va: 風速（固定値）



きみ つか なお や
君塚 尚也

生年月日 1978年7月千葉県生まれ
最終学歴 2003年早稲田大学大学院
理工学研究科建設工学専攻修士課程修了
業務経歴 2003年㈱竹中工務店入社
2004年～大阪本店作業所
設備担当
2008年～大阪本店設計部
●担当した主なプロジェクト
2009年 東洋製罐滋賀工場
2009年 パナソニック液晶ディスプレイ
姫路工場
2011年 総本山知恩院和順会館・参
道整備
2011年 南禅会館建替計画
2012年 神戸女学院 メアリー・アン
ナ・ホールブルック記念館
2012年 相愛大学本町学舎1号館
2013年 東大谷高等学校泉ヶ丘校舎

■青年技術者のことば

現代建築において設備設計者が担う役割とは、高度な専門知識・技術を駆使して建築主のニーズを具現化することはもちろんのこと、室内環境・景観・地域環境・地球環境といった、あらゆる「環境」との共生を図り「環境建築」を創造することであると考える。私は「総本山知恩院和順会館・参道整備」「東大谷高等学校泉ヶ丘校舎」という2つのプロジェクトを通して、様々な建築主のニーズに応えつつ、「環境」との共生を目指した設備設計を実践することができた。

「環境」との共生を目指すことは、設備設計者の永遠のテーマではないかと感じている。高度な技術・専門知識の習得はもちろんのこと、様々な建築主のニーズや年々深刻化する環境問題、刻々と変化する社会情勢等、あらゆる「環境」に対して、敏感かつ柔軟な設備設計者となれるよう、日々精進していきたい。

■すいせん者

隅 和弘
㈱竹中工務店大阪本店設計部
設備部長

2011年に迎えた浄土宗宗祖法然上人800年大遠忌記念事業として、知恩院道の参道整備と、信徒施設和順会館を広く一般客も利用できる開かれた宿泊施設として再生する計画である。浄土宗の教義でもある「共生（ともいき）」をキーテーマとし、「自然との共生、社会との共生」を基本コンセプトとして、設備設計に取り組んだ。

●多種多様な使用状況にもフレキシブルに対応できる設備計画

信徒会館（宿坊）という特性上、多数の信徒が訪れる法要等の催事には、一時的に一般のホテルとは比較にならない急激なピーク日の発生が予想されたため、通常期をベースとしながらも変動する負荷に合わせてフレキシブルに対応できる計画とした。圧力スイッチによる受水槽水位可変制御、5台のモジュラー式ボイラーによる給湯熱源の群管理制御・ローテーション運転制御、COPの高い個別分散エアコン（EHP）の全面採用等により、負荷追従性と同時に、省エネ性・信頼性向上にも貢献している。

●豊富な地下水脈を生かした井水の有効活用

法然上人ゆかりの「吉水」の地に因んで、旧和順会館では活用されていなかった井水を活性利用することを考えた。水脈と周辺井戸の調査、また現地での試掘により、水質の良い地下100mより取水し、敷地内水景・屋外散水・トイレ洗浄水に活用している。更に夏期の電力ピークカットを目的とした空調室外機への散水にもこの井水を活用し、環境負荷低減に貢献している。



●参道を優しく照らす環境共生照明計画

歴史ある参道を現代に蘇らせる整備計画の中で、歩行者空間としての安全性・景観への配慮・省エネの両立を目指した。色温度3000KのLEDを全面採用し省エネを図ると共に、生垣や植栽を効果的にライトアップすることで、華美ではない柔らかな光で空間の明るさ感を演出した（写真-1）。歩道の水平面照度は、今回新規で製作した車止め兼用のLED参道灯により確保している。



写真-1 LEDによる参道の照明計画に導入し、環境負荷低減に努めた。開館初年度（2011年度）のエネルギー消費実績としては、各種文献値の5割程度と非常に低く抑えることができていた（図-1）

●地球環境との共生

前述以外にも、北山杉間伐材の木製キータグ差込み式省エネスイッチ採用による電力消費抑制、センサー照明制御等、高効率機器・システムを積極的

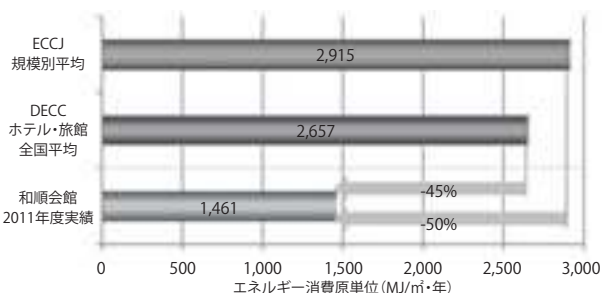


図-1 和順会館と各種文献のエネルギー消費原単位比較

東大谷高等学校泉ヶ丘校舎 「使用者に配慮した環境性能の高い学び舎」



私立高校の共学化に伴う移転プロジェクトである。建物使用者である生徒や教職員の視点を重視し、利便性・快適性・安全性・信頼性への配慮を心掛けると同時に、建物環境性能の向上が環境教育・啓発活動に繋がると考え、計画を行った。一般の方が容易に扱える汎用品・標準品をベースとしたシステム構成としながらも、環境要素技術の積極採用により、平成23年8月より新設となった「CASBEE堺」において初となるSクラスを取得することができた。

●芝生グラウンド散水への雨水利用

約5,800㎡のグラウンドへの自動散水のため、雨水利用システムを導入している。年間散水量の約3割を雨水にて賄うことが可能と試算している。

●講堂空調方式の検討と実施

高天井の講堂（写真-1）の空調方式には、アンダーフロア空調を採用した。導入に際しては、気流シミュレーションによる検証（図-2）により、

風量・吹出口配置等の調整を行った。RAバイパスによる吹出温度制御、外気冷房制御、CO₂制御を導入し快適性と省エネの両立を図った。



写真-2 講堂内観写真

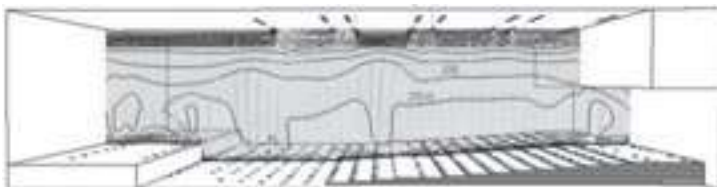


図-2 気流シミュレーションによる検証



た な べ し ん じ
田 辺 慎 吾

生年月日 1979年6月大阪府生まれ
最終学歴 大阪大学大学院

業歴 建築工学科 修士
2005年株式会社建設設計入社
設備設計室所属

●担当した主なプロジェクト

2006年 日本生命／淀屋橋計画
2006年 百十四銀行新研修会館
2006年 出雲市新庁舎
2007年 田島ルーフィング大阪支店
2007年 アキムラCIX／南船場
2007年 グランフロント大阪
2009年 新見市立思試小学校
2010年 Infosys E&R、SDB10、SDB11
2010年 広島修道大学 講堂改修
2010年 ベトナム国立歴史博物館
2011年 富田林医師会館休日診療所
2012年 三井住友銀行大阪本店改修

■青年技術者のことば

近年、省エネルギー・低炭素化やクライアントの多岐にわたる要望と内容の深度化が進み、設備設計者の役割が増えつつある。そのような中でも、私は以下の4つのテーマを持って担当するプロジェクトを進め、クライアントおよび社会の要求に合致した建築設計を目指している。

1：クライアントの「思い」を正しく理解すること、2：クライアントの「思い」を超える提案を行うこと、3：一般に建物を使う居住者にわかりやすく容易なシステムとすること、4：建物を運営する管理者には多少複雑でもカスタマイズできるシステムとすることである。

こうした考えのもと、空調・衛生・環境技術者として主体的な立場で実践した「グランフロント大阪」では自然換気システムなどの施主の思いをかたち、+αの提案、その実証実験を確実にし、考えたベストな計画と検証ができたと考えている。

今後もここで得られた経験と知見を基により良い設備計画を提案できる設計者でありたい。

■すいせん者

本多 敦
株式会社 日建設計
設備設計部門副代表

グランフロント大阪 ～高層テナントビルでのボイドを用いた自然換気～

グランフロント大阪は、西日本最大の交通拠点である大阪駅北エリアに魅力ある都市環境を創造し、関西経済再生の一躍を担うプロジェクトである。複数の街区を一体的に開発するメリットを活かした管理・運営組織の設立や持続可能な省CO₂活動の推進などソフト面での新たな取り組みも検討されている。建築計画においても機能・デザイン的に工夫したパッシブ手法や実効性の高いアクティブ技術や積極的に導入し、広く社会に環境意識を高める情報発信を続け、関西圏における「環境ショーケース」を目指した。

～自然換気の取り組み～提案

自然換気は近年多くのビルで採用されているが、本社機能の建物や低層の建物で採用されることが多い。これは、「自然換気」が安定した効果が得にくいこと、大きな平面を持つテナントビルではフロア貸しではなく分割されることが多いこと、高層になれば外部風速が大きく扱いづらいことによる。これらに対して、以下の方針で解決策を提案し、高層のテナントオフィスビルでありながら安定した自然換気が行えるシステムを作った。

1：ボイドを用いた重力換気とすることで外部風の小さい条件でも自然換気を可能とする、2：ボイドを想定テナント割ごとに用意し、風の「入口」と「出口」を設ける計画とする、3：自然換気口に十分なクランクを設け、突風対策を行い、自然換気可能時間をより長くする。さらに、4：自然換気の可能条件の一つであるテナントが最低取入れ外気温を選択可能とし快適性と省CO₂を両立する（カスタマイズ）、5：自然換気排気装置（コーナーボイド）は周辺から見える形とし環境配慮建築をアピールする。以上のような重要な種々仕掛けにより、自然換気を有するテナントビルの「モデル」となることが期待される。

計画・設計

テナント内のパソコンにより「自然換気モード」と「空調モード」の2モードを週間・日スケジュールで設定できるシンプルな構成とした。空調モードは「完全空調」「外気冷房」「ハイブリット空調」（自然換気を行いながら空調も行うシステム）で構成され、ビル側で自動判断しもっとも省CO₂となるように運転される。また、テナントにはパソコン上で自身の消費した電力・冷暖房熱量・CO₂排出量などの推移をグラフ化、本プロジェクト内の平均値との比較を確認できるシステムとする。これら見える化により現状把握と比較による競争意識を促し、テナントの省CO₂意識向上への足掛かりとなり、それがビル全体の省CO₂につながる仕組み作りを行った。



建物外観（多くの緑化と自然換気装置の見える化）

実証実験

自然換気取入れ部の形状

自然換気が行われる中間期において、一般に冷房が必要となるのは室内の中央付近の人口密度が高く、内部負荷の大きいインテリアゾーンとなる。自然換気取入れ口は天井面から一段下げた構造で横吹き出しとし、コアング効果により、天井面に沿ってより遠く到達する形状とした。

実験室での計測、現地での可視化、風速等の測定を行い、実験室と現場ともインテリアまで十分気流が到達すること、居住域での風速は小さい（ドラフトフリー）ことが検証できた。

自然換気効果検証手法の確立

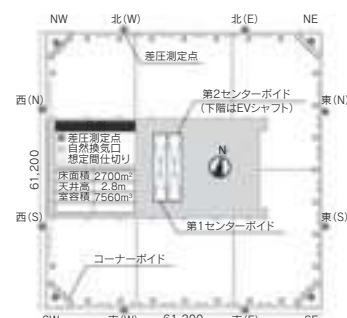
これまでの建物では自然換気時に各テナントに流入する新鮮外気量を常時測定することは困難であるが、本プロジェクトでは各方位の室内外差圧の記録を行い、その差圧と自然換気装置の換気性能曲線から新鮮外気流出量を算出し、年間を通して自然換気の効果検証を行うこととした。なお、竣工前に条件別（強風時、弱風時、ボイド有り、無しなど）にトレーサースガス法による自然換気量の計測を行い、差圧によって算出された自然換気量との間に差異がないことを確認した。

ボイドを有する効果

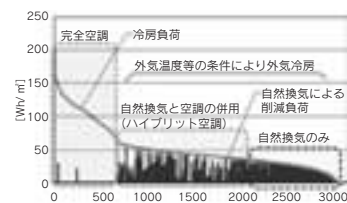
差圧法による換気量算出からボイドの有無による差異を1か月分の実績データより分析を行った。換気量ごとの頻度分布からボイドを設けることで換気量の底上げ（外部風が小さい場合にも安定した換気が得られる）と同一開口量とした場合でも換気量の増大が見込めることが検証できた。

今後の展望

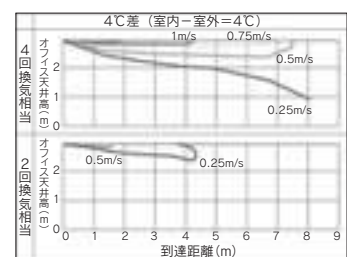
今回で自然換気量を定量的に求める手法の確立と自然換気量の予測が可能となることの証明ができた。今後運用が開始され、自然換気の効果及び空調設備との関係を明確にし、それぞれ要望の異なるテナントに合わせた自然換気システムの使い方・設定条件を確立させたい。



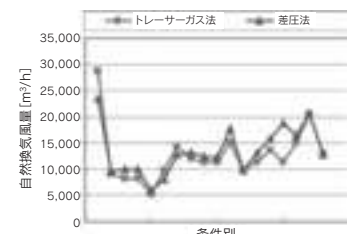
基準階平面図と差圧測定点



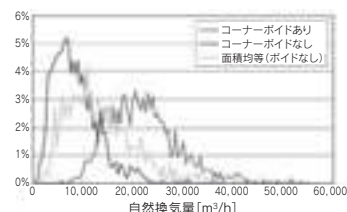
負荷頻度分布と空調モード



自然換気口からの風速分布



自然換気量の算出法別比較



ボイドの有無による自然換気量



な ぐら ひろ あき
名 倉 宏 明

生年月日 1980年3月愛知県生まれ
最終学歴 名古屋大学大学院環境学
研究科修士課程修了
業務経歴 2005年株大林組入社
2006年本店CS南芦屋JV工
事事務所
2007年本店明石医療セン
ター工事事務所
2008年本店設備部
2008年コーニング堺工事
事務所
2008年本店設備設計部
2010年本社設備設計部
2012年大阪本店設備設計部

●担当した主なプロジェクト

- ・某無菌製薬工場（新築）
- ・某シリコン製造工場（新築）
- ・某工場クリーンルーム（改修）
- ・大阪美術倶楽部収蔵庫（改修）
- ・御堂筋センタービル（改修）
- ・双日堺筋本町ビル（改修）

■青年技術者のことば

医薬品製造施設の計画では、GMPと呼ばれる指針に基づいて、いつ誰が作業しても「常に同じ品質」かつ「高い品質」の医薬品を製造できる環境を提供するために、あらゆる外乱や人的ミスを排除するシステムを構築する必要がある。しかしながらGMPには概念的な記載が多く、個々のシステムに対する明確な答えは示されていない。そのため設備の計画という狭い範囲にとらわれることなく、“施設が安全・品質に対してどうあるべきか”を総合的に考え、最適解を模索しながら設計する必要がある。今回、無菌製剤を製造する某製薬工場の設備設計の主担当を務める機会を得て、計画から引渡しまでの全期間でプロジェクトに携わることができ、より論理的・体系的に課題を解決できるようになったと感じる。ここで得た数々の貴重な経験が生かせるように、今後の設計業務に従事していきたい。

■すいせん者

梶原和男
大林組 大阪本店
建築事業部 設備設計部長

医薬品製造施設における空調設備計画 ～目標品質を満足するシステムの実現に向けた取り組み～

外乱に強い室圧制御システムの実現に向け、通常運転中や起動時、外風圧を受けた場合、および扉の開閉に対する制御安定性について、様々な状況を想定しながらシステムの検討を行い、給気・還気ダクト内圧力の最適化制御や電気錠とのドアインターロック制御を用いてシステムを構築した。

●要求条件（客先・GMP）

- ・清浄区域は外部に対して常時陽圧を保持する。
- ・異なるグレードの室間差圧はいかなる状況でも逆転しない。
- ・フィルタの目詰まりなど経年変化による室圧変動を引き起こさない。
- ・品質確保を優先し、かつ工期の短縮を図る。

●目標設定

- ・室圧を安定的に制御し、室間差圧の逆転を防ぐ。
- ・外乱の影響を整理・評価してシステムを構築する。

●対策検討

室圧制御の安定化のために、循環型空調ダクトフローを2案立案し、室圧制御システムを計画する上で最も重要となる外乱の影響を検討した（表-1）。（B）空調機+レタンファン方式は、給気・還気ダクト内圧力の最適化制御を組み込むことで室圧制御の安定化が図れる。設備費は高くなるが試運転にかかる工期を圧縮できるため、品質・工期・経済性の面で客先要求に合致すると判断し、この方式を採用することとした。

運転モード移行時の室圧制御性

一般的に無菌製薬施設では、生産期間中、施設を常に清潔に保つために定期的な清掃や除染が行われる（表-2）。除染中、空調システムは一旦停止するが、除染完了後には、清浄化された室内環境を維持しながら、室間差圧が逆転することなくシステムを立上げる必要がある。本施設では室圧・室間差圧は除染後の空調システム起動中から厳格に管理されており、システム起動等のモード移行中は、ファンと室圧制御装置（PCD）が同期して、互いの制御が干渉し合わないよう緩やかに立ち上げていく必要があった。（A）の方式ではこういった制御ができないため不適当と判断した。

フィルタ目詰まりによる経年変化

室の排気フィルタが目詰まりを起こすとPCDは開方向に動作し、室圧をコントロールする。フィルタの目詰まりが進行すると、PCDの制御可能域を外れるため室圧が成り行きになる。システムが経年変化の影響を受けないようにするために、通常運転中もPCDの開度情報をフィードバックし、ファンの回転数を調整する制御を行う必要があった。（A）の方式はこの制御ができないため不適当と判断した。

外風圧の影響

外気取入口や排気口への外風圧の影響を最小限とする対策として、どの

（表-1）室圧制御の安定性検討

方式	(A) 空調機+排気ファン方式 (給気ダクト内圧力制御)	(B) 空調機+レタンファン方式 (給気・還気ダクト内圧力制御)
システム概要		
概要	・給気ダクト内圧力：インバータによる一定制御 ・還気ダクト内圧力：成り行き ・排気ダクト内圧力：インバータによる一定制御	・給気ダクト内圧力：インバータによる一定制御 ・還気ダクト内圧力：インバータによる一定制御 ・排気ダクト内圧力：成り行き
特徴	・給排気風量バランスを重視したシステム ・給気ダクト内圧力は成り行き ・排気ファン風量を小さくできる	・給気・還気ダクト内圧力制御を重視したシステム ・給排気風量バランスはCAVで調整される ・還気ファン風量＝空調機風量となる
通常運転時	・問題なし	○
システム起動時	・給気ダクト内圧力の最適化制御を行うと還気側がつかれて変動する ・制御パラメータの調整に時間を要する	△
フィルタ目詰まり時（経年変化）	・還気ダクト内圧力が成り行きのため、フィルタが目詰まりを起こすと制御不能となる恐れあり	△
外風圧の影響	・外気取入口や排気口の形状による	—
扉の開閉時	・ドアインターロックシステムとの連動有無による	—
その他	・排気ファン風量が小さく、設備費・運転費が小 ・経年変化に応じて都度調整を行う必要があり、維持管理費が膨らむ恐れあり	○
経済性	○	○
総合評価	△	◎

（表-2）無菌製薬施設の運用サイクル

生産状況	長期	生産期間		停止期間（準備期間）	
	短期	生産	休止	生産	休止
空調運転モード	通常運転	通常運転	停止	通常運転	停止、試運転
除染運転モード	停止	除染運転	停止	除染運転	停止、試運転

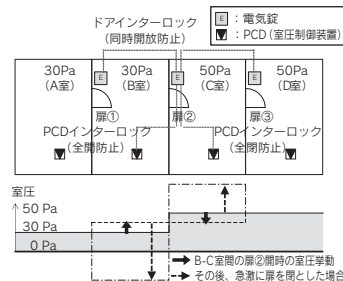
方角からの風でも開口部への風圧が一定となるように、給気塔には全周ガラリを設け、排気塔は屋上に設置して上向き排気とした。また、吸込面風速が小さい外気取入口には強風時の対策として周囲に防風壁を設置した。

扉開閉時の室圧変動

扉の開閉は人が行う操作のため、作業員に対する教育訓練が重要であるが、本施設では室間差圧を乱すような人的な行為・行動をできるだけ排除するようなシステムとするため、電気錠と連動した制御を行った（図-1）。差圧を設定した室（図中B、C室）の扉は全て電気錠として、同時開放できないようインターロックを設け、インターロックの解除には室圧の回復時間を考慮して遅延タイマーを設けた。差圧を設定した室間の扉（図中扉②）の開放時には、両室の室間差圧は実質ゼロとなり、圧力の高い室から低い室に向かう気流（図中C室→B室）で汚染防止を図ることとなるが、扉の開放時間が長ければPCDは元の室圧を維持しようとして全開・全閉状態となる。この状態で急激に扉を閉めると、室圧が過剰に変動して負圧を引き起こしたり、系全体の室圧の序列を崩すため、扉の開放時間を制限する警報を設置するとともに、PCDの全開・全閉を防止するためのインターロックを設けた。

●機能確認

施工期間中は、現場事務所に常駐してバリデーションを実施することで、



（図-1）ドアインターロック制御概念図

設計で意図した機能が確実に確保されているかを検証した。FAT（工場出荷試験）、IQ（据付時適格性評価）、OQ（運転時適格性評価）の計画書作成時には検査項目を立案し、検査実施時には現地立会いを行った。発見できなかった不具合の中には設計時に予測できなかったものもあった。不具合は、システム起動時の、空調機廻りのダンパーを開けてからファンが回転を始めるまでのわずかな時間に室圧が負圧となることだった。これは屋上に給排気塔を設置したこと、煙突効果によってダクト内に室内側から屋上へ向かう気流が発生したことが原因であった。対策として制御ロジックを見直し、ダンパーとファン起動のタイミングを調整することで要求条件を満たすことができた。現場に常駐できたことで早期の不具合発見、迅速かつ確実な対策が実施でき、目標品質を満足する室圧制御システムを実現することができた。



みやざき ゆう すけ
宮崎 裕 輔

生年月日 1979年3月大阪生まれ
最終学歴 2003年京都大学大学院
工学部環境工学科修了
業務経歴 2003年鹿島建設入社
設備設計部所属
2009年

●担当した主なプロジェクト

2004年	タカラトミー本社ビル
2005年	マルチト難波ビル
2006年	サンルートホテル有明
2007年	ウィンザーホテル洞爺
2008年	アパホテル成田
2009年	小松製作所大阪テクニカルセンタ
2010年	CHAS&A茶屋町
2011年	立命館中高一貫校

●受賞

2012年	空気調和衛生工学会振興賞 技術振興賞（マルチト難波）
-------	-------------------------------

■青年技術者のことば

社会のニーズは変化に富んでおり、省エネや節電、エネルギーセキュリティなど幅広い分野において、施主より様々な要望を受ける。その中で設備設計として最適な方針を決定し、仕様を積み上げていく必要がある。設備は運用後1年間を経験しないことから、私が多量に手掛けるようにしていることは、竣工後の計測やヒアリングを行い、設計時点の回答が運用面においても正解だったかを、施主と関わり確認する姿勢である。施設を利用する側の意見を取り込み、自分が築いたスペックへのフィードバックを行うことで、技術は磨かれ新しい技術に結びつくと考える。環境配慮技術を導入しながら、運用後まで責任を持ち、顧客と最適な運用について話し合える、そんな設計者を目指している。

■すいせん者

菅野忠司
鹿島建設株式会社
建築設計部長

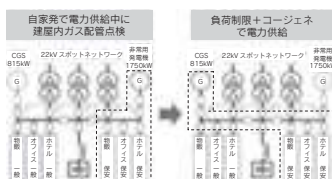
マルチ難波ビルはホテル、貸事務所、商業施設の大規模複合用途ビルである。設計当初からエネルギーセキュリティ、省エネルギー、エネルギーサービス利用の3本柱がテーマとなった。竣工後、その内容について評価を頂き、第26回空気調和・衛生工学会 振興賞技術振興賞を受賞した。



【マルイト難波外觀】

●エネルギーセキュリティ

エネルギーセキュリティを高めるため、22kVAスポットネットワーク、非常用発電機、コジェネレーションを利用したバックアップシステムを構築した。エネルギーの危機管理を行うことで、災害時帰宅難民となった人々を収容するホテル機能を維持できる計画とした。



【電源供給フロー】

小松製作所テクニカルセンターアトリウム解析とタスクアンビエント空調の採用－

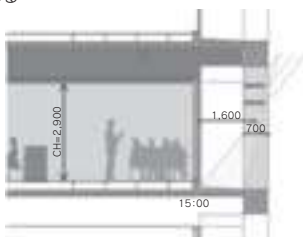
小松製作所テクニカルセンターは重機メーカーの小松製作所大阪工場に計画されたオフィスである。世界トップクラスの会社にふさわしい省エネルギー手法を採用するよう建築設備計画を効果的に融合させた。



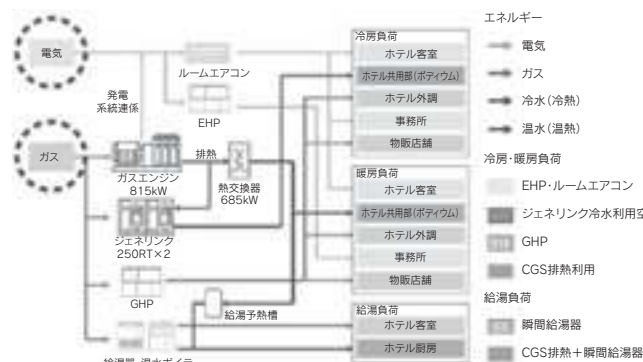
【小松製作所外觀】

●ファサードエンジニアリング

外部フレームの構造躯体を利用した日射遮蔽を計画。夏至・冬至における太陽高度から、遮蔽効果を検討。躯体だけでなく水平ルーバーのライトシェルフ効果を含めた最適形状を建築・構造・設備が協力して追究した。またスリット状に自然換気窓を設置することで、窓廻りの快適環境を創造している。



【ファサード断面】



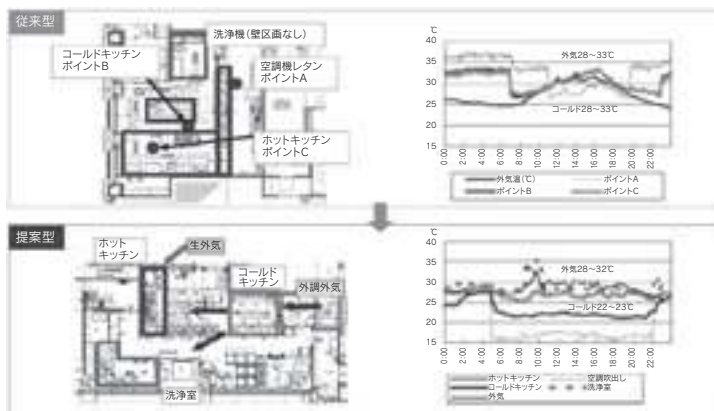
【熱源エネルギー利用計画】

●エネルギー利用バランス

電気と中圧ガスを熱源とし、オフィス、ホテル、物販の空調や給湯に利用している。計画段階で電気・ガスともに使用量をシミュレーションし、料金体系でメリットのある大口契約ができるよう配慮した。

●廚房溫熱環境改善

ホテル部分の厨房においては、既存施設の問題点をシェフからヒアリングし、特に問題となっていたコールドキッチンの温熱環境安定に務め設計を行った。換気フローを改善し、竣工後の性能検証では改善状況を確認。またシステムの省エネルギーについても検証できた。



【厨房改善計画】



【外壁の自然換気ガラリ】

●自然換気アトリウム

省エネルギー技術として、アトリウムを介した自然換気を計画した。重力換気では、上層階に下層階の熱気が逆流することがよく問題になる。また、吹き抜け部の位置が各階異なることも検討を必要とした。可視化シミュレーションを用いて、各階の換気開口とトップライト部分の開口面積を調整することで、気流が意図通りに流れる換気計画を行った。



【自然換気イメージ】

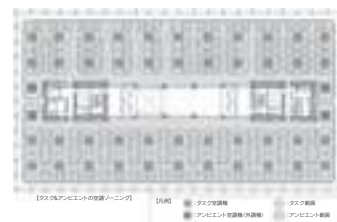


【自然換気シミュレーション】

●タスクアンビエント空調

休日や時間外、離席率の高いオフィス等では離席場所でも空調を行っている場合がある。そのような状況で省エネ効果のある、タスクアンビエント空調方式を採用し、省エネルギーに務めている。各季節における、外調機アンビエント空調の温度設定値と、人感センサー連動のタスク空調室内機配置を検討し、下記のようにプロットした。

竣工後、夏冬 の環境性能調査を行い、タスクアンビエントの効果を実証。空調入力を極力無くした、無駄のない空調計画となっていることを確認した。



【タスクアンビエント空調イメージ】



もり やま よう へい
森 山 洋 平

生年月日 1979年6月神奈川県生まれ
最終学歴 2002年日本大学理工学部
土木工学科卒業

業務経歴 2002年株式会社西原衛生
工業所入社
2009年株式会社昭和設計
入社

●担当した主なプロジェクト
東京駅JR東海改良工事
以上、西原衛生工業所での主な担当
業務

世田谷区立上北沢小学校改築工事
仙台少年鑑別所新築工事
特別養護老人ホーム ル・ソラリオン
西新井新築工事
みどり園改築等PFI事業
都立江戸川と区別支援学校増築工事
都立足立都税事務所改築工事
石巻港湾合同庁舎新築工事
以上、昭和設計での主な担当業務

■青年技術者のことば

大学を卒業し、サブコンで7年、設計事務所です。4年経過した。この計画は設計事務所に転職し、初めて関わったプロジェクトであり、基本設計から竣工まで関わることができた。このプロジェクトを通して、様々な貴重な経験を得ると共に設備施工業者の設計部と設計事務所のスタンスの違いを感じながら仕事を行うことができた。設備設計者の役割は今後更に多岐にわたると共に責任が大きくなると考えられるので、この経験を活かし、利用者等が省エネルギーでも快適に過ごし、メンテナンス性の優れた長期間使用される建物に数多く関わられるような技術者になれるように今後も精進していきたいと考えている

■すいせん者

谷口勝則
株式会社昭和設計
設備設計部 部長

小学校における環境配慮・防災対策の設備計画について

本計画は「世田谷区教育ビジョン」に基づく学校改築計画の一環として行われた。

設備設計者として以下の3点に配慮して設計を行った。

- ・生徒が快適に、そして安全に過ごすことができる設備とすると共に、環境配慮及び環境教育の推進に配慮
- ・災害時の避難所機能の確保及び水害の防止等の災害防止拠点として計画
- ・管理者が簡単に機器・配管を維持管理できるようにメンテナンス性に配慮

■環境配慮への取り組み

- ①建物の使用用途に合わせて、EHPとGHPをベストミックスで組み合わせることで省エネルギーを図った
- ②全熱交換器を用いて教室の温気をカスケード利用することで廊下等の共用部も快適となるように配慮した
- ③体育館は床吹出し・天井吸込みによる全館換気を行うことで体育館上部の熱溜りをなくし、快適な生活環境を確保した
- ④雨水をろ過・消毒し、便所洗浄水として再利用すると共に、各便所に表示を行い、生徒への啓発を行った
- ⑤厨房用ファンを使用時間の異なる調理系統と洗浄系統を分けることでエネルギーの無駄を無くす計画とした機械設備以外の環境配慮
- ⑥ライトシェルフ+昼光利用センサー
- ⑦LED照明の一部採用
- ⑧人感センサー制御
- ⑨太陽光発電
- ⑩屋上緑化



外観

■設備による防災・減災対策

- ①受水槽に災害用緊急遮断弁を設置し、受水槽に水栓を設置することで災害時の飲料用水を確保した
- ②避難場所である体育館の横に災害用井戸付のマンホールトイレを設置することで災害時でも使用できる水洗式のトイレを確保した
- ③グラウンド下部に約460tの容量のプレキャストコンクリートの雨水貯留槽、また、校舎周辺に約300mの浸透管を設置することで60mm/m²の雨水を貯留・浸透し、敷地周辺への雨水を流出防止することで浸水被害の軽減を図った



災害用井戸

■メンテナンス性に優れた設備

- ①空調機器等は汎用品を使用することで維持・更新に配慮すると共に天井点検口の位置はフィルター交換が簡単に行えるように配慮した
- ②配管は天井内・ピット内配管とすることでメンテナンス・更新を行いやすいようにするとともに、水漏れ等が起きた際もすぐに気付くように配慮した
- ③雨水再利用及びプールで使用するろ過機はシステムを比較し、メンテナンス性・ランニングコストに優れたシステムを採用することで維持管理に容易性に配慮した



マンホールトイレ



いちのとしみつ
市野 俊 充

生年月日 1983年9月 埼玉県生まれ
最終学歴 東京工業大学大学院情報理工学研究科情報環境学専攻

業務経歴 2008年 株式会社 中工務店入社
同年 大阪本店設計部構造設計を経て大阪本店技術部

●担当した主なプロジェクト
2008年 堂島1丁目プロジェクト作業所
2009年 堂島1丁目プロジェクト作業所ホテル棟
2010年 大阪中部FMセンター
2011年 パソナ大阪オフィス改修工事

■青年技術者のことば

入社して初めに担当した物件を新築からメンテナンスまで行うことで、様々な観点から建物について考えることが出来た。お客様の想いを竣工後にクレームがないレベルまで施工中に汲み取り、反映させていくことの難しさと重要性を学び、当社の経営理念である「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」が我々の満足のための言葉ではなくお客様のための言葉であることを改めて認識した。5年間の経験は私にとって大きな財産となり、今回の改修工事においても大いに役に立った。担当としてお客様と接することが多い中で「お客様が求めること」を常に感じるよう意識し、「お客様の想い」を形にできるよう技術者として様々な提案をし、努力することによってお客様との信頼関係も築くことが出来た。その結果お客様に満足していただける建物が出来上がり、一つの最良の作品を完成させ、社会に貢献できたのではないかと思います。今後はさらに知識と経験を身に付けて、「お客様の想い」をより良い形にしていけることが出来る技術者を目指し、社会に貢献できるように精進していく所存である。

■すいせん者

青木 利信
(株)中工務店 大阪本店 技術部
プロダクトグループ
グループリーダー

市街地における超短工期の居ながら大規模改修工事の計画と実施

本工事は大阪のメインストリートに面した築44年のオフィスビルのリニューアル工事である。建物を使用しながら内外装の改修工事を行うため、建物利用者に迷惑を掛けずにお客様最大のニーズである「早期営業開始」に応える超短工期での施工が課題であった。計画段階から参画し、これまでの経験を活かし、作業員の意見も取り入れてより効率的で安全な施工法を検討し様々な工夫を行った。ここでは解体工事と外壁改修工事での課題と対策・工夫について述べる。

●工事条件と課題

本工事は2か月の工期短縮と工期中のテナント先行入居を実現するため工事中も当社エリア外で別工事会社が内装工事を行えるよう配慮が必要とされた。先行入居後は建物利用者の安全と快適性にも配慮をする必要があった。

●工程・周辺環境に配慮した解体工事計画

■工程を考慮した解体ガラ搬出方法
外壁解体は足場上の狭いスペースでのガラ搬出方法の効率化が工期短縮の要となると考えた。検討の結果、足場レベルまでミニコンテナを持ち上げてガラを投下することで揚重効率を向上させ、受けたガラを再生専用コンテナに直接投入することで水平運搬の効率化も図れる回転フォークリフトを採用した(図1)。採用に



写真1 建物全景 (改修前)



写真2 建物全景 (改修後)

当たってフォークリフトの爪が挿せる専用ミニコンテナを製作し、ミニコンテナに目印を入れることで最大荷重以下とできるように見える化を図り安全に配慮した。

■環境に配慮した粉塵対策

作業エリア毎が半外部のために集塵機では周囲を負圧に出来ず効果がないと考え、熱中症対策用のミストファンを採用した。微粒子の水を噴霧することで空気中の粉塵を吸着し沈下させることが出来、粉塵低減の効果が得られた。

●工期短縮とテナントに配慮した外壁改修工事計画

■高層部・低層部同時施工を可能にする外部足場計画

外壁改修工事は当初工期の約5.5か月から約2か月短縮するため高層部と低層部での異なる工事を同時に施工することで工期短縮を図った。高層部作業のガラ落下等による低層部への影響をなくするため、仕上げ切り替え位置をコンパネで養生し、足場の各段に水平ネットを設け、また作業毎に個別に養生することで落下危険性に配慮した(図2)。また上下同時作業が生じないように工区を分けることでより安全性に配慮した。最上段に足場を覆う仮設テントを設置、作業エリア毎に個別の雨養生を行うことで天候に左右されずに工程を消化可能な環境を整備した。

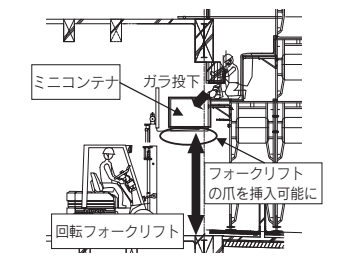


図1 ガラ搬出方法概略図

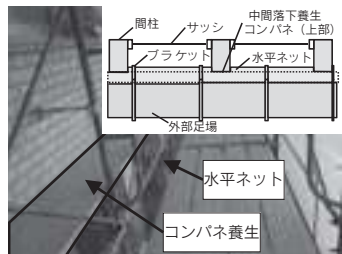


図2 落下養生概略図

■作業性を考慮した外装パネルの検討と提案

設計段階から検討に参画し、当初軽鉄ボード貼であった仕様を耐風圧・耐候性上の問題と作業員不足を考慮し、耐力的に優れた作業性も良い下地鉄骨+スチールパネルを提案し採用された。パネルは工場でユニット化することで現場での作業効率向上を図った。(写真3)

■テナント従業員の快適性への配慮

外壁改修工事は臭気を伴い、テナント部の外壁での作業となるため、テナント休業日のみに実施し、作業開始前に窓の閉鎖状況の全箇所確認を徹底した。また送風機を作業場所に設置し下階工事エリアに排気することで給気口から臭気の吸込みがないよう配慮した。共用部では改修工事の経験を活かし養生を工夫し、工事完了後も綺麗に使用していただけるよう配慮した。また定期的に養生をやり替えることで清潔に保ち、工事中も建物利用者が快適に利用できるよう配慮した。(写真4)

●まとめ

工事条件を的確に把握し、協力会社と協力することでテナント先行入居と2か月の全体工期短縮を実現し、無事故・無災害・ノークレームで工事を完了させた。また、お客様からも高い評価を得ることが出来た。



写真3 ユニットパネル取付状況



写真4 共用部養生状況

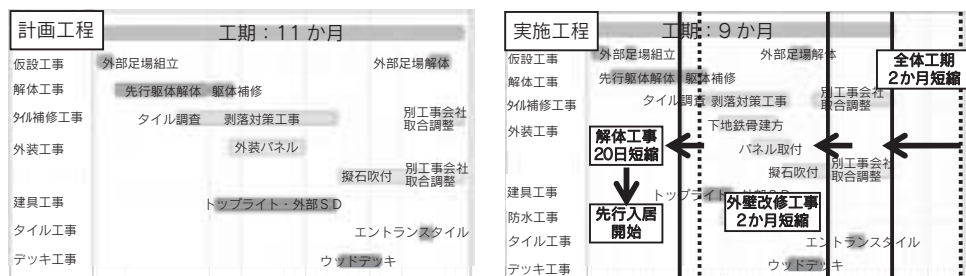


図4 工程短縮の結果



さとう しゅんすけ
佐藤 俊介

生年月日 1978年11月長崎県生まれ
最終学歴 2003年山口大学大学院理工学研究科・感性デザイン工学専攻修了

業務履歴 2003年(株)竹中工務店入社、大阪本店作業所、大阪本店設計部、広島支店生産統括部、広島支店作業所、大阪本店作業所、東北支店災害対策本部、現在大阪本店技術部主任

●担当した主なプロジェクト

2005年 住友生命中之島セントラルタワー
2006年 天理市聖苑
2008年 ダイキンアレス青谷
2008年 日東電工尾道事業所N1棟
2010年 ザ・千里レジデンス
2011年 震災復興東洋製罐仙台工場
2012年 大淀北1丁目計画（施工中）
2013年 JR高槻駅北東地区開発事業複合B棟（施工中）

■青年技術者のことば

現場における品質の確保は、施工管理を行う人間の誠実で地道な努力と正しい施工を行うプロの技術者としての確かな技量が求められる。本プロジェクトを通して、品質をつくり込むための技術者としての気構えと能力が向上し、その後の自分の糧となっている。技術者として10年以上が経ち、施工管理業務を中心に様々なプロジェクトに従事してきた。作業所は建築主、設計者をはじめ工事を担当する元請会社や協力会社すべての人の思いが結集され、建築としてかたちになる場である。直面する困難な課題を乗り越え、お客様に満足のいく建物を引き渡すことを信念に、今後も自己研鑽を行いながら、やりがいと誇りをもって仕事に従事していきたい。

■すいせん者

菅原敏晃
(株)竹中工務店 大阪本店
技術部課長 計画1グループ長

フラットビーム免震構造による次世代集合住宅の施工計画・実施と展開

ザ・千里レジデンスプロジェクト（2011年竣工）は、2005年から始まった一連の千里中央再整備事業の最終プロジェクトである。北側にS造の商業施設、南側にRC造17階の免震構造の住宅棟を配置、RC造とS造の異種構造をEXP. Jで繋ぐ複合免震集合住宅であった。新築後の車輛動線は敷地高低差を生かし、国道423号線から3階へのアプローチ計画となっており、施工ヤード確保と共に工事車両が課題となる難しい工事であると感じた。住戸は開放的で眺望のよい計画とするため梁せいが小さいフラットビーム構造で、角住戸の柱は丸柱を採用している。着任して初めて図面を見た時、躯体の品質確保のためには過密で変則的な配筋をいかにして納めていくかが鍵であると感じた。



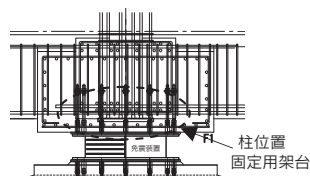
●課題の設定と課題解決計画の立案と実行

本工事計画の問題点や躯体品質の確保のための施工計画上の問題点の内、躯体の品質確保に直結している鉄筋工事について課題解決を図った点について、以下（1）～（3）に示す。

- （1）基礎配筋が過密で柱筋位置精度の確保が困難
- （2）柱主筋位置の改善断面が大きく変わる柱筋の施工
- （3）屋上階柱頭とフラットビーム梁筋の納め方

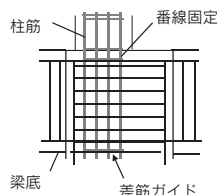
（1）免震装置と基礎配筋の納まり検討と柱主筋位置の改善

基礎鉄筋量と免震装置の種類・数が多く、柱主筋の位置精度の確保が課題となった。柱主筋を正確に検討した位置を施工時確実に実施するため、柱位置固定用架台を用いて柱筋を納めることを考えた。施工時は、柱位置をさけるようにアンカーと基礎梁を配筋して、最後に柱を梁上から差し込み固定する計画とすることで、柱筋の位置精度を確保した。



基礎配筋納まり図

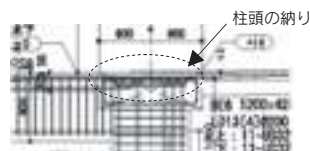
（2）断面が大きく変わる柱筋の施工
4階からの住戸階の柱筋断面は、下階の柱寸法から、断面寸法が小さい矩形、丸柱が採用されている。柱主筋は径、位置ともに異なるため、主筋はほぼ全て差筋となる。柱筋を正規の位置に差筋し、打設時に柱筋がコンクリートに流されない固定方法が必要となった。そこでフープ筋を利用して円形差筋ガイドを製作し、梁筋施工前に仕口内に取付け、梁組み後に差筋をガイドに固定させる方法で問題の解決を図った。



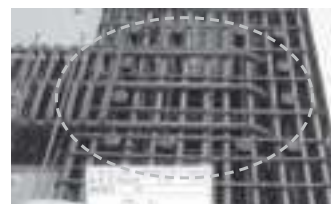
4階床コンクリート施工状況

（3）屋上階の柱頭と梁筋の納まりの改善

基準階の梁は、幅広でせいが極端に小さいフラットビーム（1400mm×400mm）であった。この梁の施工には非常に苦労した。だが施工上最も頭を悩ませたのは、最上階の柱頭フックと梁筋との納まりである。あばら筋は柱断面内も配筋するため、柱の形状及び主筋本数によってはフックの向きをどう変えても梁主筋が通る隙間がなくなる。この課題を解決するため、柱頭の納まりに後付けの定着プレートを使用することとした。必要な定着を確保するためには、柱頭鉄筋をあるレベルに正確に施工しなければならない。最上階の柱継手にはCB溶接を採用し、異形鉄筋からネジ鉄筋に変えて、柱頭のレベルを管理することで必要な定着を確保できた。



最上階配筋納り図(断面)



柱頭と梁筋の施工状況

●現場での施工計画通して見えた川上での計画の作り込みの大切さ

本プロジェクトの躯体の品質確保に直結している鉄筋工事の各課題（1）～（3）について、事前に十分な検討と綿密な実施計画を立案し、精度の要求される施工を確実に実行することで課題を解決し、躯体の要求品質を確保することが出来た。しかしながら、躯体の生産性効率の面では課題が残っていると感じた。そこで、品質の確保・向上を図ると共に、施工生産性を高めるために、川上の計画段階の作り込みに注力することとした。現場管理においてはQCDS（品質，コスト，工期，安全，環境）の5つの要素を全て要求レベルに到達することが求められる。現場品質を確保するため、施工管理に全精力を注ぎ、良い躯体を構築するために、生産段階におけるムリ・ムダをなくした効率的な生産プロセスを計画することを推し進めている。

現在配属している技術部では、集合住宅での施工経験を活かし、生産の川上段階で生産性を設計へ織り込むための構工法の検討や施工計画の立案を行っている。特にPCa工法や鉄筋の先組工法^{※1}を中心に構工法技術の水平展開や技術開発、改善を行っている。また、集合住宅の施工経験を活かし、「集合住宅チーム」という集合住宅分野に特化したチームの技術担当として生産性向上のための計画の作り込みや「集合住宅プロマニュアル（プロ仕様の業務マニュアル）」の品質確保のための技術資料の作成を行っている。現部署での私の課題は、建築生産を通して培ってきた技術やノウハウを設計にフィードバックし、川上段階（企画、設計段階）で生産性向上目的とした最適な施工計画を設計へ織り込むことである。



※1 地上で鉄筋を地組して揚重する鉄筋先組工法の例

●今後の展望

技術者としての専門性をさらに高め、従来の施工方法の改善に力を入れると共に、高効率、高生産性を実現する新しい構工法の技術開発にも積極的に取り組んでいきたい。



やま もと のり ひさ
山本 訓久

生年月日 1978年4月奈良県生まれ
最終学歴 大阪大学大学院工学研究科
建築工学専攻 修了
業務経歴 2004年株式会社大林組入社
2011年大阪本店建築事業
部生産技術部計画第2課

●担当した主なプロジェクト

2004年 キヤノン(株)宇都宮新工場新築
2005年 キヤノン下丸子新開発棟新築
2006年 キヤノン下丸子ホール棟新築
2008年 OSSプロジェクトガラス工場新築
2009年 淀屋橋共同ビル計画
2009年 社会医療法人愛仁会リハビリテーション病院新築

■青年技術者のことば

建築生産技術部計画課主任として、当社技術研究所生産技術研究部が開発した「低炭素型のコンクリート：クリーンクリート」を実際の現場において適用するため、技術研究所と共同による試験練りの計画、および実施を担当した。新しいコンクリートの適用に際して、通常の計画業務と全く異なるコンクリートの調査検討や材料についての知識を習得する必要があるが、適用に伴う4つの課題(①使用材料の検討、②強度発現、③施工性、④調達体制の整備)を明確にし、個々の課題の解決にあたった。環境配慮が切望される現在、混和材を高含有したコンクリートは、二酸化炭素排出量削減の観点から、環境に優しい材料としてその利用が期待される。クリーンクリートに限らず、今後も新しい取り組みに対する挑戦意欲と熱意を持って建築施工技術の向上に寄与していきたいと考える。

■すいせん者

笹田秀幸
大林組大阪本店建築事業部生産技術部
計画第3課長

低炭素型のコンクリート「クリーンクリート®」の現場への適用

地球温暖化に影響を及ぼす二酸化炭素(CO₂)排出量の削減は、全産業に課せられた重要な課題となっている。コンクリート分野においても、土木学会より「コンクリートの環境負荷評価」、日本建築学会から「鉄筋コンクリート造建築物の環境配慮施工指針(案)・同解説」がそれぞれ刊行され、環境問題が注目されている。ここで、コンクリート分野のCO₂排出量の削減対策として、セメント製造の観点からは、省エネ設備の導入、エネルギー代替廃棄物の使用拡大による化石由来エネルギーの低減が挙げられる。使用材料の観点からは、高炉スラグ微粉末やフライアッシュなどの副産物を使用した混合セメントの利用、混和材を高含有したコンクリートの検討がある。また、コンクリート製造(レディーミクストコンクリート工場)の観点からは、生産システムの効率化による電力消費量の低減、運搬効率の向上や低燃費化、車両の軽量化による積載量のアップなどが検討されている。

●クリーンクリートの概要

低炭素型のコンクリート：クリーンクリートの概要を下記に示す。

(1) 低炭素型社会の構築

地球温暖化対策として、各分野で二酸化炭素(CO₂)排出量の削減の取組みが進められている。2008年の世界のエネルギー起源のCO₂排出量は294億トンと推計されており、そのうち日本のCO₂排出量は約11.5億トンとされている。ここで、日本のCO₂排出量の内訳(図-1)を見ると、建設関連によるCO₂排出量が全体の約43%と非常に高い割合となっている。また、図-1に示す資材生産時に排出されるCO₂に着目し、その内訳を図-2に示す。この結果から、セメント製造時のCO₂排出量が全体の約60%と非常に高い割合を示している。このように、低炭素型社会の構築のためには、建設分野が果たす役割は極めて大きいものと考えられる。

(2) 建設分野における低炭素型のコンクリート

コンクリート1m³あたりのCO₂排出量(材料起源)は、調査によっても異なるが、250から300kg程度とされる。ここで、コンクリートに起因するCO₂排出量の総計は2,800万トン/年程度であり、日本全体の年間CO₂排出量の約2.2%を占めている。大林組では、普通ポルトランドセメントのみを使用したコンクリートに比べて、CO₂排出量を最大80%低減した低炭素型のコンクリート(クリーンクリート®)を開発している(図-3参照)

(3) 低炭素化および低発熱化のポルトランドセメントの使用量低減

一般に、コンクリートは、セメント、水、骨材および化学混和剤で構成されている。この中で、製造時に高温で燃焼して生産されるセメントのCO₂排出量は極めて大きいことがわかる(図-4参照)。これに着目して、クリーンクリートではポルトランドセメントの一部を高炉スラグ微粉末、フライアッシュなどの副産物で置換することでCO₂排出量を低減している。

また、ポルトランドセメントの使用量が低減できれば、ポルトランドセメントの水和反応も低減され、低発熱化が実現できる。なお、一般のコンクリートとクリーンクリートの材料構成の比較イメージを図-5に示す。また、単位水量を低減することによっても単位結合材量、単位ポルトランドセメント量を低減することができ、低炭素化および低発熱化に寄与する。

●現場への適用

今回、関西での建築分野における初の取組として、昨年、某事業所にクリーンクリートのプレゼンを行い、某事務所ビル建設工事の外構立上り壁および某工場建設工事の機械基礎にクリーンクリートを適用している。打設量としては合計で約270m³である。なお、クリーンクリートの打設時期は、某事務所ビルが2012年11月と12月の計4回、某工場が2012年10月に2回実施している。今回の実験および試験練りの実施フローを図-6に示す。試験練りにおける確認項目を以下に示す。

[フレッシュ性状]

- (1) 最適な単位水量を確認する
- (2) 所定のフレッシュ性状であることを確認する。

[硬化性状]

- (1) 各種養生(標準養生、簡易断熱養生)による強度発現性を確認する。
- (2) 強度補正值を確認する。

●試験練り結果

①フレッシュ性状

フレッシュ性状は普通コンクリート同等であった。また、単位水量の低減効果が確認された。

②硬化性状

調合については、レディーミクストコンクリート工場との協議により、製造者の責任で決定したが、施工者側でも強度式が、実験により得られた回帰式より適度に安全側であることを確認した(図-7参照)。

③簡易断熱養生におけるコンクリートの最高温度

材齢28日までの平均気温は28.0～28.4℃であり、夏期の最高温度として比較すると、中庸熱セメント同等の結果を得た。

④強度補正值

下記の実験で全て6N/mm²を下回っていることからJASS5の28S₉₁と同様とした。

⑤中性化検討

既往の研究結果をもとに中性化深さを算出した結果、設計がぶり厚さ以下であることを確認した。

●適用結果

コンクリートの打設は、ポンプ車のブームにより行った。通常のコンクリートより粘性は若干高くなる傾向にあるが、ある程度の単位水量を確保していることで対応可能である。また、神戸市内の現場適用時の材齢と圧縮強度の関係を図-8に示すが、材齢28日で調査管理強度(Fc+S)を満足する結果が得られた。今後、技術提案を伴う入札案件を中心に実績を増やすことが重要であると考えられる。



図-1 日本のCO₂排出量の内訳

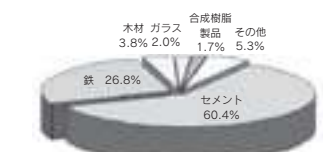


図-2 資材生産時(建築関連)のCO₂排出量の内訳



図-3 クリーンクリートのCO₂排出量のイメージ

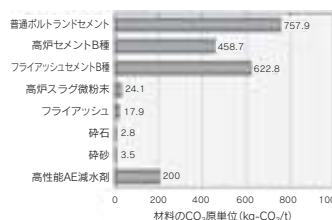


図-4 コンクリート用材料のCO₂排出量原単位

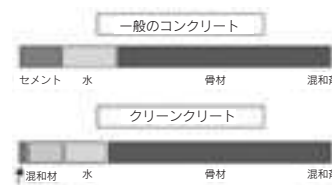


図-5 コンクリート構成材料の比較イメージ

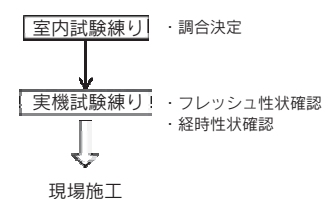


図-6 実施フロー図

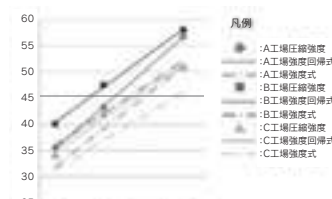


図-7 圧縮強度と結合水比の関係

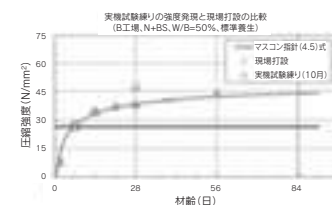


図-8 強度発現状況

神戸市における 老朽危険家屋対策

上田真己

神戸市都市計画総局安全対策課担当課長

近年、高齢化や核家族化の進展に伴い、全国で管理不全の空き家が増加し、社会問題となっている。空き家は老朽化により建築物自体が危険であることに加え、防火・防犯面や環境面など、複数の課題がある場合が多い。このため、全国の自治体において、いわゆる「空き家条例」を制定し、空き家全般に関する総合的な対策として実施するケースが増えている。

本市においても他都市と同様の課題を抱えているが、一方で、これまで特定行政庁として、空き家に限定しない「老朽危険家屋」を対象として取り組んできた経緯も踏まえ条例を検討してきたので、その概要を報告する。

建築基準法による対応

■建築基準法に基づく命令・代執行

建築基準法（以下、「法」という。）では、第8条で建築物の所有者等による適正な維持保全の努力義務が規定されている。また、第10条第3項で、既存不適格かつ著しく保安上危険な建築物の所有者等に対し、保安上必要な措置を命令し、措置されない場合は行政代執行ができることとなっている。

行政実務上は、著しく保安上危険であることの認定や命令における必要最小限の措置の範囲等が課題となるが、本市で過去に代執行を実施した5件の事例では、いずれも不特定多数の市民に迫っている危険を回避するためにやむを得ない最小限の措置との判断に基づき実施している。

例えば、相続放棄された事務所ビルの外壁が道路・公園に落下する危険があった事例では、ビルへのネット掛けを簡易代執行として実施した。また、台風で斜面地にある木造建物の擁壁部分が流され、建物が通路に向かって張り出す状態となった事例では、建物解体除却を所有者に命令のうえ、行政代執行に至っている。



行政代執行により老朽危険家屋
解体撤去した事例

神戸市建築物の安全性の確保等に関する条例の改正

■条例改正の趣旨

本市では、老朽危険家屋に関連する問題に対し、敷地に繁茂した雑草については環境美化条例に基づく区役所による措置、道路への危険性については道路管理者による安全措置、防火面については火災予防条例に基づく消防局による措置など、各所管部局の役割分担と連携により取り組んでいる。

これらを踏まえ、主に建築物自体の危険性がある場合の対応について規定するため、「神戸市建築物の安全性の確保等に関する条例」（以下、「条例」という。）を平成25年3月29日に改正した（平成25年7月1日施行）。

今回の改正では、法を基本としながら法に基づく命令や代執行等に至らない案件に対する措置の部分を補完することを目指している。

■条例改正の概要

条例では、「老朽危険家屋等に対する措置」の節を設け、以下の各項目を規定している。

- ・建築物の維持保全に関する所有者等の義務の明確化
- ・危険な状態にある建築物の所有者等に対する指導、助言および勧告
- ・勧告に従わない所有者等の氏名等の公表
- ・勧告等に従って必要な措置をとる所有者等に対する技術的援助又は経費の一部助成
- ・建築物の所有者等を確知できない場合の土地所有者等への協力要請
- ・建築物の所有者等を確知できず、緊急の必要がある場合の市による必要最小限の措置（応急危険回避措置）
- ・建築物の維持保全の状況確認および所有者等の確知のための調査等

- ・警察その他の関係機関への協力要請、自治会その他の地域団体との連携

これらの規定は、基本的に所有者による自主的な解決を促すことを目指しているが、実際にはこれまで所有者が確知できていない案件も多く、応急危険回避措置等に対する市民のニーズは高いものと思われる。

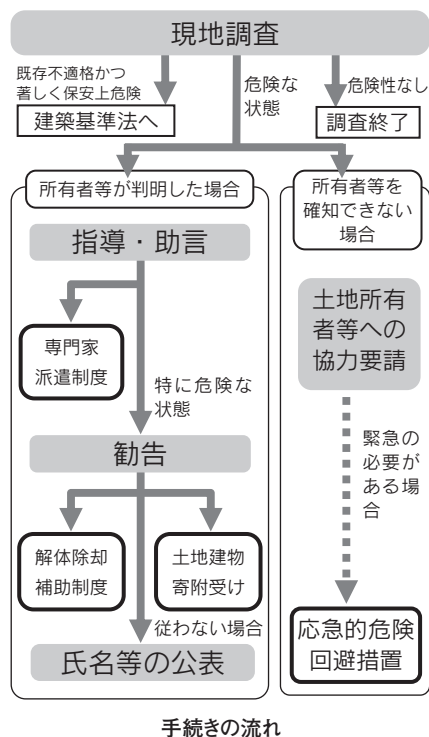
■支援制度

条例の施行にあわせて、以下の支援制度を設けた。

- ・解体除却補助制度：勧告に応じて所有者が老朽危険家屋を除却する場合に、除却費用の一部を補助
- ・土地建物寄附受け：自力での対応が困難で、かつ跡地管理について地域団体等の協力を得られる場合、市が土地建物の寄附を受け老朽危険家屋を除却
- ・専門家派遣制度：自主的解決をはかろうとする所有者に対し、法律、建築、不動産等の専門家による相談を実施

おわりに

今後、法・条例とこれらの支援制度を有効に活用し、老朽危険家屋対策を推進していきたい。



手続きの流れ

（う えだ まき）

●上田真己

1967年生まれ。京都大学大学院工学研究科修了。1991年神戸市役所入庁。

機能美と構造美に 配慮した台形柱梁 ラーメン構造

—立教大学新座キャンパス新教室棟—

原田公明

株式会社日建設計 構造設計部門 技師長

本建物は、中庭を介して中低層2棟の建物を南東・北西に向き合うように配置した学校建築である。外壁面の架構は、建物の顔づくり、骨格づくりに加え日射制御の環境面に対しても配慮が必要である。

本設計では外壁面の架構自体が、日射遮蔽を可能とし、水平力にも抵抗するRC造台形状の柱梁ラーメン構造を追及した。RC構造の一度型枠を組めば自由形態の構造体を構築できる特徴にも着目し、異形断面を格子状に組む架構とした（写真1、3）。

台形状の柱梁架構

南東・北西を長辺とする2棟構成の配置計画において、直射光を有効に遮る柱梁の形を模索した。日射光を平面投影した結果、日射面に対して長辺を持つ台形状の柱梁が有効であることがわかった（写真2）。

形態と構造の一致を図るため、極力全ての断面が構造体として効くような設計とした。

柱ピッチ3.6m、基準階高4.0mとほぼ正方形の格子状の架構とし、日射遮蔽、構造合理性両面からこのモジュールを決定した。

柱梁共せいを1200mmの同一部材寸法とし応力の均一化を図った。柱梁が交差する鉄筋の納まり等を検討した結果、最終的に五角形の異形断面とし、両端角部はふかし断面とした（図2）。



写真2 中庭全景

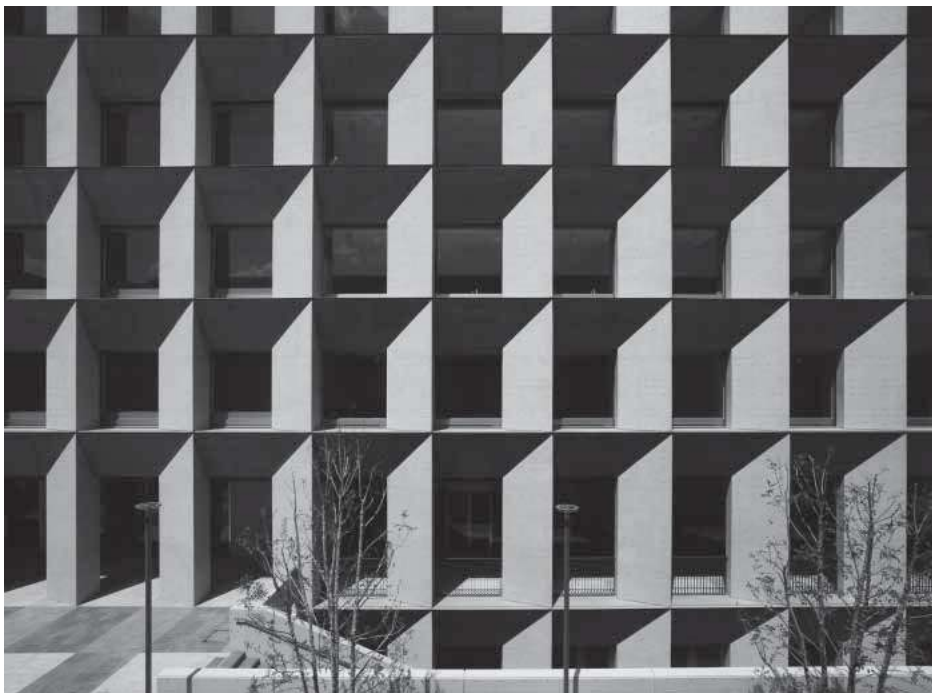


写真1 正面外観

全体構造計画

耐震設計では、大地震時の重要度係数を1.25倍とし、強度型の耐震構造とした。長手方向は異形断面のRC造ラーメン構造とし、短手方向はコア内に十分なRC耐震壁を配置し壁構造に近い架構とした。

内部空間では25mの高さ制限の中で5層とし、教室階で階高4m、天井高3m、壁のない自由度の高い教室空間とするため教室を支える床梁のみ鉄骨造とした（図1）。

構造実験

柱梁が五角形の異形断面であるため、設計での性能を再確認するため1/2縮尺の構造実験を行った。地震時の損傷状況、耐震性能は、設計・実験値共概ね一致した結果となり、異形断面の影響はみられず安定した履歴特性が確認された（写真4）。

まとめ

ラーメン構造は矩形断面が一般的である。が環境・意匠に配慮し構造にも意味のある異形断面架構の建築が実現できた。今後の構造設計の新たな一手法を示せたと考える。



写真3 見上げ外観

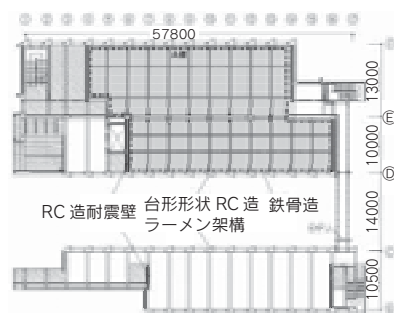


図1 3階床梁伏図

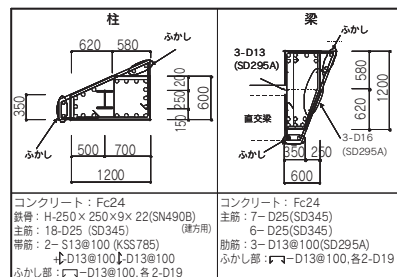


図2 柱梁断面リスト

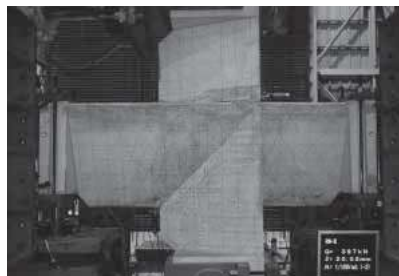


写真4 終局耐力時ひび割れ状況 (1/100rad.)

建築概要

建築面積：1736.0㎡、延床面積：8556.5㎡

建物高さ：最高高さSGL+24.95m

(はらだ ひろあき)

●原田公明

1961年生まれ、1987年東京都立大学大学院卒。

1987年 株式会社日建設計入社、2009年 同 技師長

大阪株式取引所

山形 政昭

再読 関西近代建築

モダンエイジの建築遺産

所在地／大阪市中央区北浜3丁目
設計／長谷部竹腰建築事務所
施工／大林組
竣工／昭和10年4月28日
構造／鉄骨鉄筋コンクリート造
規模／地上6階、地下2階、塔屋付
種別／業務ビル

■継承された「白亜の殿堂」

難波橋が土佐堀川を南西方向にまたぐ地点、北浜2丁目で堺筋は真南方向へと折れる。その南東角に位置する旧大阪株式取引所の敷地は70度の鋭角をなし、そこに取引所の建物は曲面の正面ファサードを構えている。かつては一日数千人の取引人が出入りしたという玄関ホールをそこに収めているのであるが、8本の長大な列柱と楕円状に廻るエンタブラチュアによる古典的な均整感、そして一方で鋭角に建つことによる動的景観を併せもつものであり、本建築はこの地における歴史的モニュメントとなっている。

昭和10年6月発行の本誌（第18輯6号）では「新建築研究」特集として大阪株式取引所及び京都朝日会館の建築が大きく掲載されている。目次につづく1頁目に北浜に竣工した大阪株式取引所の外観写真を載せ、建物概要を次のように記している。

「大阪の経済中心地である北浜2丁目堺筋と北浜との交叉点に位置する、株式取引所の市場として規模において、設備において東洋一を目指したものである。西北隅を正面として玄関を設け大柱を廻らし上に楕円形の高塔を現時建築法規で許されるまで高めた。……鉄骨鉄筋混凝土造で外部総花崗石張、外観は繊細華麗を避けて荘重雄大を念として意匠されている。……」

東洋一を誇った株式取引所は名実共に市場経済の中樞を担い、その威容は金融経済の中心としての北浜のランドマークとなった。

以来65年を経る平成12年に至り、株式取引業務の変化のなかで取引所は閉鎖された。そ

して間もなく建替え工事に着手され、本建築は平成13年（2001）に高塔部の一部を残して解体され、平成16年（2004）11月に24階建ての高層となった「大阪証券取引所ビル」として新築されている。建替えに際しては社会の注目度も高く、保存をテーマとして再生された玄関ホール部分を中心に、低層部はほぼ旧建物の外観意匠が再現されており、部分的とはいえ、当初の作品的特色と時代性、そして「荘重雄大」という当時の景観が保持されている。そして建築記録として『大阪証券取引所市場館 歴史調査報告書』（「大阪証券取引所ビル開発・保存方策検討研究会」発行、平成16年）が作成されており、上記の『建築と社会』誌とともに、有益な記録資料となっている。

■大阪株式取引所（昭和24年に大阪証券取引所と改まる）市場館の建築

天下の台所といわれた当時より、経済活動の中心であった北浜に大阪株式取引所が創設されたのは明治11年（1878）に遡る。以来、経済活動の拡大に伴ない、建築も明治44年（1911）における辰野片岡建築事務所による事務所棟の建設など拡充を重ね、大正期に至ると既存建物を一新する全面建て替えが課題とされていたという。

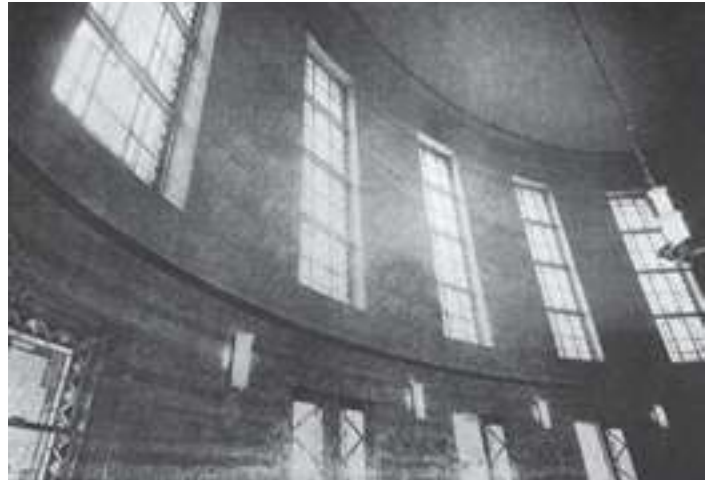
建築計画は曲折を経て、昭和7年に至り住友銀行出身の濱崎定吉理事長の下で推進され、住友工作部に設計が依頼され、工作部長の長谷部鋭吉、建築課長の竹腰健造の下、高橋榮吉、笹川慎一、佐間日出生らの設計チームによって担当されたものである。



①北西面外観／筆者撮影
平成25年5月（以下＊印）
正面の空地も建て替えに伴い整備され、大阪株式取引所設立に貢献した五代友厚公の像が平成16年に設置されている。



②



③



④



⑤

- ②北西面外観
- ③玄関広間
- ④正面玄関入口
- ⑤市場
「立会場である、此の建物の中心であり、北浜の心臓である……。採光は主として天井楕形窓と上部4階の5連窓とよりしている」
- ⑥昇降機広間
「昇降機の扉はホワイト・ブロンズにアート・ブロンズを嵌れたるもの」
- ⑦4階貴賓室
「壁には満州胡桃ベニヤをアンテナ型に張る」
- ⑧4階会議室
- ⑨1階平面図
- ⑩6階大集会室灯具
- ⑪4階会議室灯具



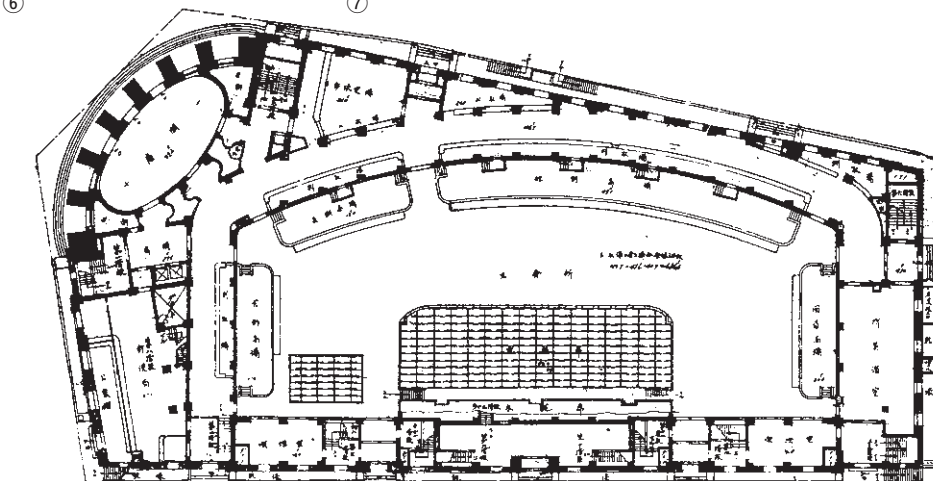
⑥



⑦



⑧



⑨ 1階平面図



⑩



⑪



⑫新大阪ホテル（『建築と社会』昭和10年3月号より）



⑬宇治電ビルディング
（『建築と社会』昭和12年7月号より）



⑭宇治電ビルディング
1階装飾レリーフ
（『建築と社会』昭和12年7月号より）



⑮



⑯



⑰



⑱



⑲

⑮大阪証券取引所ビル 高塔部外観（＊）

⑯アトリウムとして再生された旧玄関広間（＊）

⑰北西正面の窓（＊）

オリジナルの意匠で復元されている面格子

⑱アトリウム（旧玄関広間）に保存された高窓（＊）

⑲エレベータ扉（＊）

旧扉（写真⑥）の意匠が復元されている。

昭和8年4月に起工され、昭和10年4月に竣工した本建築は約1000坪の建築面積のなかで700坪を占め、4層吹き抜けとした「市場」を中心に、シンボル性をもった大玄関、そして上階に会議室、貴賓室、集会室、地階に食堂等を納めたものであった。本建築の性格について竹腰が寄せた「大阪株式取引所の設計計画に就て」（『建築と社会』第18輯6号）の冒頭部で次のように記している。

「……難波橋の橋畔に聳え立つ白亜の殿堂を見て世の人は多く建築家のロマンチズムを思ふだろう。勤くとも局外者のこの建築に関する話題はその外貌とか規模とかに集中しているようだ。然し建築当事者として見ればそういう話は深刻に響かない。此建物の中にて毎日幾千の人が最も真剣に運命を賭して競って居る。……だから市場自體の物質的価値が此の建築の価値となるのであって、此の處に建築家としての苦心の最も大なるものが存して居るのである。」

最も苦心したという「市場」とは高場、立会場、電話席、札場、判取場、参観席等から成る株式取引のための一大空間であり、昭和期に入り建築されていた東京の取引所など諸都市の先例をふまえ、かつ先進の形態と設備を備えたものだった。それは既に写真⑤の写真等に伝えられるのみであるが「機能、採光、及び音響は苦心の甲斐あって成功してゐる」と言われるとおり、52尺高の天井面と4階高窓からの採光、湾曲する壁面の全面に相場表示盤を納めるなど画期的なものであった。

加えて、建築空間として見るべきものに大玄関広間と称された玄関ホールがある。楕円形（長径16.47メートル、短径8.37メートル）平面、3層吹き抜け天井高11.4メートルをもつ空間で、壁面は銀茶色のイタリア産の大理石を平滑に張り、その石目の波紋が地層のように四周を一順している。北西面には出入口扉と上部にフロスト・ガラスとステンドグラスを入れた5連の長大な窓が並ぶ。床面には色大理石により、分銅形を模したという円と星型による大胆な図形が描かれている。当初の建具や面格子はホワイト・ブロンズ製の立派なものだった。こうした華やかさと品格をもつ楕円形ホールの類例を見ない空間デザインは、古典的形態の下にアール・デコを導入し、格調高いモダンデザインとした設計者の力量と、施工水準の高さを端的に示すものであり、この空間デザインは本建築全体の特徴として捉えることができる。

アール・デコのデザインは、窓に付せられた面格子、インテリアとしては4階の貴賓室が名品に違はなく、壁面は胡桃ベニヤで木目を菱形模様とした練付け張り、扉上部の欄間、

カーテンレール等のモダンなグリル、カーテンやソファ、そしてガラスの灯具も夫々に目を惹くものであり、それらの一端が写真に収められている。

■長谷部竹腰建築事務所の作品として

先述したように、大阪株式取引所の設計は工作部建築課において進められたものだが、経済不況下の昭和8年6月に工作部から分離独立するため開設された長谷部竹腰建築事務所の下で工事は進められ竣工したものである。

この工事とほぼ重なり、昭和10年1月に竣工を見た建築に新大阪ホテルがあった。大阪市及び財界有力者が大阪を代表するホテルとして待望していたもので、中之島に建ち、「水都の環境に順応したる近世式」として一部にヴェネチア風を取り入れた8階建てを誇るホテルで、その記録は本誌第18輯3号（昭和10年3月号）に大きく収録されている（写真⑫）。

ところでこのホテル計画は大正末頃まで遡るもので、施主側の犬丸徹三による平面計画、武田五一による外観構成を下に進められ昭和4年に起工されていた。しかし諸問題により工事は遅延停滞するなかで、昭和8年に竹腰が副主幹として推挙され、長谷部、笹川らが設計に参画したもので、内部意匠を中心にアール・デコのインテリアに事務所の特色が発揮されたものであった。

つづいて、昭和12年（1937）大阪に二つの建築が竣工する。一つは市場館の東に建った7階建ての株式取引所付属館（後の本館）であり、一つは9階建て隅切りの外観に特色ある宇治電ビルディングで、共に堅実でモダンなファサードなど、共通したものがあつた。

付属館の建築（写真⑳）は、着工が遅れるものの市場館と併せて設計されていたものであり、北面ファサードの構成は市場館との関連で興味深いものであつた。市場館の高塔部とほぼ同じ102尺の高さがあり、壁面中央部では窓下のスパンドレルを沈めることで浅い列柱状の意匠としていた。また最上階の7階は市場館のトップと同じ、シル・コースやアール・デコ・デザインの波状帯を付していた。つまり、付属館（本館）北面は市場館高塔部と対を成すファサードのように見られるものだった。宇治電ビルディングは軒高31メートルに9階を収めた大きな業務ビルであり、南面ファサードの左右には、女神が雷光に向けてランプを翳すアール・デコの装飾があり目を惹く建物であるが、平面計画は中央部北寄りにエレベータ、トイレ等設備コアをまとめるなど合理的な計画が追及されていた。

つづく長谷部竹腰建築事務所の建築には日本生命保険株式会社（昭和13年）など都市の



⑳大阪株式取引所付属館
（『長谷部竹腰作品集』昭和18年11月より）

建築、加えて住友家の芳泉堂（昭和15年）など、住友工作部以来の伝統を継ぎつつ着実に活動の幅を広げ、創立10周年にあたる昭和18年に『長谷部竹腰作品集』を刊行している。その巻頭を飾るのが大阪株式取引所の建築であるが、序文にて設立後の10年を振り返り次のように記している。「……その前半五年の期間に於いては多分に藝術的要素を含んだ建築が多く見られるが、その後半には専ら實用を主とする建築が大部分を占むるに至ったことは、蓋し事変より戦争への推移をそのままに物語るものであらう」

そして間もなく事務所は閉じられ、昭和25年に設立された日建設計工務株式会社に活動は引き継がれている。

■復原・再生により守られたもの

話は戻るが、大阪証券取引所の建替え計画に際して、建築主はその歴史的価値に思いを馳せ、平成12年春、設計者、都市計画、建築史研究者らによる「開発・保存方策検討研究会」を発足させた。研究会では検討を重ねて保存と復元による価値の継承について提言され、設計に反映されたのであつた。

その設計と建築については『新建築』（平成17年7月号）誌上に保存再生工事の要点が詳しく収録されている。そして研究会で主なる役割を果たした石田潤一郎氏が、建替えにおける保存の主意について、「研究会では最終的に「景観」と「オーセンティシティ」を最も重視すべきという方針を出した。今にして思えば、それらの言葉はつまるところ、市場館が帯びていた「アウラ」を指していたのである。……」と述べている。つまり、固有の歴史をもつ北浜に位置することの圧倒的な存在感であり、それが守られたことで開発と保存の両立が果たされたものといえよう。

（やまがた まさあき／大阪芸術大学建築学科教授）

奥谷 繁礼

—SHIGENORI UOYA—



「奥谷繁礼建築研究所」にて

経歴

1977年 神奈川県生まれ。兵庫県出身。
 1966年 大阪教育大学附属高等学校池田校舎卒業。
 2001年 京都大学工学部卒業。
 2003年 京都大学大学院工学研究科修了。
 現在、奥谷繁礼建築研究所代表、
 京都建築専門学校及び京都造形芸術大学にて非常勤講師。

受賞歴

2006年 京都まちなかこだわり住宅設計コンペ 最優秀賞
 2007年 都市住宅学会賞 業績賞
 2007年 臼野古民家村構想デザインコンペ 最優秀賞
 2009年 環境デザインアワード2009 環境デザイン優秀賞
 2009年 環境デザインアワード2009 ベターリビングブルー＆グリーン賞
 2009年 SDレビュー2009 入選
 2011年 京都デザイン賞2011 京都府知事賞
 2012年 日本建築家協会関西建築家新人賞
 2013年 京環境配慮建築物顕彰制度 優秀賞

モデル構築

「今の時代にふさわしいモデルとなる事例をつくりたい。」

そう語る奥谷氏の手掛ける建築には、社会への問いかけを行った痕跡が幾層にも刻まれている。

頭町の住宅は 路地奥の3軒長屋を1軒の住宅に改修した事例である。

別々の住宅の玄関前路地空間を中庭とし、大胆に開かれた開口部により室内・中庭・室内の関係がつながる魅力的な空間へと再構築されている。

現在京都の町家は改修による利活用が盛んであるが、それを上回る数で取り壊わしが行われている。町家復元に興味はなかったが、とどまることなく取り壊されていく町家に歯止めをかけたい。既に数多くなされているお金や時間のかかる町家復元ではなく、安く早く数多く改修することが、今の京都に求められていると考える。そのため、町家の改修は不動産事業者との協働が進められる。京都の新築物件の9割が事業物件であるため、都市に関わる以上無視はできない。

頭町の住宅のような路地奥の長屋は、現法規の接道条件を満たしておらず、新築ができないことから、空き家となった後は隣接する敷地に併合され、マンションに変わるケースが多い。今回のようなやり方で建物を改修すれば、建物のみならず京都特有の地割を残すことができる。3軒を1軒の住宅にしたことで、引っ越してきた1軒を差し引くと、2軒の空き家が減り、玉突きにならない空き家対策にも一役を買う。

そして、再建築不可能な路地奥敷地は周辺より土地値が安い。富裕でなくともまちなかに新たに居住できるモデルとしたい、と思いを馳せる。

頭町の住宅は、即座に買手希望者が5・6組集まったそう。このことが町家改修のモデル事例になり得る一番の証に感じた。

学校で教鞭をとる顔をもつ奥谷氏は、その活動の中で都市のルールづくりに着目した取り組みを行う。都市を調査し、あるべきヴィジョンを構築した上で、その実現のためにどういったルールづくりを行えば良いかを学生達と考える。都市を考える上で出来上がったルールに不平や文句を言うのではなく、行政と一緒によりよいルールを考えることが重要であると考えているからだ。

コンペから始まった「京都まちなかこだわり住宅」は、建売住宅のモデルづくりに挑んだ建築である。

建物を道路側に押し出し、壁面線を揃え、町並みとしての表をつくる。一方で裏に隣家の庭と連担するように庭を配置し「表と裏をつくる」提案を行う。こうすれば両側から光が入り風も抜ける、洗濯物も裏に干せる。また奥の庭は垣根が低くなれば、住民だけの安全なコミュニティの場所となる。お年寄りや子供のコミュニティが生まれれば、保育所や高齢者施設の不足問題に一役買えるのではないかと考える。集成材を壁柱にして3列に並べた構造材は、外装・内装・調湿・断熱・防火の役割も担う。並べられた壁は自由に床を増築・減築できる上、内外仕上げそのものなので、仕上げの撤去という概念はない。現在の家族形態の変化に対応した、スケルトンインフィルの強い形が提案されている。材料はできる限り地元材料を使う。設計段階から山の状況を調べ、歩留まりのよいものを選ぶ。近いが故に安く買えるという地産地消の姿を提案している。

奥谷氏の建築は一手で様々な解をもつ、そんな印象を受けた。自分にしかできないものを提案しなければならないが、同時にそれが特殊解ではなくこれからの社会に普及する一般解としてありたいと語る。

そんな奥谷流の次の一手はどんな解をもつ建築だろうか。

今から楽しみでならない。

聞き手 清原健史(安井建築設計事務所)
 写真撮影 河合止揚

第12回 読者と選ぶ

「建築と社会」 賞入賞発表

「建築と社会」という本誌の趣旨にふさわしい社会性・環境などに配慮した有意義な建築作品や建築にかかわる論文・記事などを顕彰する。選考にあたっては、会員の声を反映し、広く開かれた賞とする。

作品部門

西予市庁舎

(2012年1月号)

所在地—愛媛県西予市宇和町卯之町三丁目434番地1
発注者—西予市
設計・監理—株式会社東畑建築事務所
施工—建築 戸田・東部・平野特定建設工事共同企業体
電気設備 四電工 宇和島営業所
空調設備 ダイキンエアテクノ 四国支店
給排水衛生設備 重松兄弟設備



愛媛県南部に位置する西予市は、豊かな自然とすぐれた伝統文化に恵まれた人口4万2千人のまちです。市庁舎は、JR予讃線卯之町駅前の敷地に、5町が合併して誕生した西予市の新しいシンボルとして計画されました。

高齢化と過疎化が進む地域にあって、私たちは、市民の利便性向上に最大限配慮するとともに、災害に強く、環境に配慮した庁舎を目指しました。特に、市民の「居場所」となり、イベント開催などの交流活動のスペースとなるパブリックスペースとして、庁舎前の「大庇」やエントランスホールと連続する「市民ロビー」を計画しています。

西予市は「宇和檜」などの森林資源に恵まれ、内部空間に西予市産木材をふんだんに用いた「木の庁舎」としています。圧縮、防火等の加工技術により、床、壁、天井の仕上げだけでなく、カウンターや議場の照明器具なども地域産材を用いたデザインとしました。

また、西予市「バイオマスタウン構想」の一環として、木質ペレットを使用した冷温水発生器による空調システムを庁舎の一部に採用しています。



撮影 時空アート



米井 寛 よねい・ゆたか
1984年 株式会社東畑建築事務所入社
現在 執行役員大阪事務所副所長
主な作品
武庫川女子大学総合薬学教育研究棟 (2008年)
武田薬品研修所 (2010年)
広島法務総合庁舎 (2011年)



今野直史 こんの・なおふみ
1987年 株式会社東畑建築事務所入社
現在 大阪事務所設計部長
主な作品
吉野川市立山川中学校 (2009年)
鳥取医療センター (2012年)
社会医療法人弘道会寝屋川生野病院 (2013年)



三宗知之 みつむね・ともゆき
1998年 株式会社東畑建築事務所入社
現在 大阪事務所設計部主管
主な作品
京都市左京区総合庁舎 (2011年)
大阪大学テクノアライアンス棟 (2011年)

作品部門

京都銀行茨木ビル

〈2012年4月号〉

所在地 大阪府茨木市西駅前町5番1号
建築主 株式会社京都銀行／京友商事株式会社
設計・監理 株式会社竹中工務店
施工 株式会社竹中工務店



撮影 古川泰造



長谷川 淳 はせがわ・じゅん
1984年 株式会社竹中工務店入社
現在 大阪本店設計部 設計第7部長
主な作品
アシックス本社東館 (2009)
立命館大学BKCインテグレーションコア他 (2010)
立命館大学衣笠新体育館 (2013)



松本 伸洋 まつもと・のぶひろ
1992年 株式会社竹中工務店入社
現在 大阪本店設計部設計グループ長
主な作品
ハービスエント (2004)
御影クラッセ (2008)
武庫川女子大学栄養科学館 (2011)



藤原 浩士 ふじわら・こうじ
1994年 株式会社竹中工務店入社
現在 大阪本店設計部
主な作品
堂島クロスウォーク (2008)
ジオタワー宝塚 (2010)



伊藤 剛 いとう・ごう
2003年 株式会社竹中工務店入社
現在 大阪本店設計部
主な作品
西宮ガーデンズ (2008)
京都銀行茨木ビル (2012)

JR茨木前に建つ銀行支店とテナントオフィスの複合ビルです。京都銀行の拠点である京都の町家をその構成に参照し、大阪と京都を結ぶ宿場町であった茨木の伝統的な千本格子をファサードに参照することで、京都と茨木の歴史を深層／表層的に重ね合わせるデザインを目指しました。

京町家の坪庭や通庭を立体的に翻訳し、都心部の隣地建物に囲まれた「うなぎの寝床」でありながら積極的に自然環境を取り入れることを意図しました。北側に坪庭、西側には隣地建物に囲まれたヴォイドを穿ち、通庭に見立て、その「庭」によって柔らかい自然採光と通風が可能になります。またリフレッシュバルコニーや屋上庭園を設置し、直接外気に触れる空間も組み込みました。ペイズギの千本格子はRCの庇と組み合わせ、日射による熱負荷を低減すると共に、無機質なオフィスに質感を与え、庇の影とガラスの反射と重なり合い、奥行きあるファサードを重層的に演出します。

作品部門

ヒガシマル食品 新工場

〈2012年12月号〉

所在地—兵庫県たつの市龍野町日飼188

建築主—ヒガシマル食品株式会社

設計—KAJIMA DESIGN

監理—鹿島建設株式会社関西支店品質監理一級建築士事務所

施工者—鹿島・進藤共同企業体



北西側外観



西側構内道路夕景

計画に先駆けて、我々は龍野のまちに3つのエリアからなる歴史軸を見出しました。

- ・「歴史」：豊かな緑を背に、城下町として栄えた歴史的まちなみエリア
- ・「近代」：ヒガシマル醤油第一工場を中心とした近代の表情が残るエリア
- ・「未来」：駅前周辺整備事業の進むこれからのまちなみエリア

そして今回の計画地をその「歴史・近代」と「未来」の間と位置付け、プログラムを展開しました。

例えば、「歴史」エリアからは切妻屋根や白壁といった伝統的要素を継承し、「近代」エリアからはレンガタイルやRC打ち放しといった素材的要素を取り込みました。そして、「未来」に対して、新しいまちなみの指針となるデザインを試みました。

このように「伝統」と「革新」の共存をテーマに、街づくりに貢献する工場を計画しました。



南側公開空地

撮影 野口兼史 (K's Photo Works)



吉野博史 よしの・ひろし
1988年 鹿島建設入社
現在 関西支店建築設計部担当部長
主な作品
虎屋 京都工場
大鵬薬品工業 北島工場



細田尚宏 ほそだ・なおひろ
1996年 鹿島建設入社
現在 関西支店建築設計部主査
主な作品
生長会 府中病院西館
佛教大学 二条キャンパス1号館

建築と窓

〈2012年7月号〉

香山壽夫

—いま思うこと—

今、構想中の小さな礼拝堂の、内部空間のスケッチの手を休めて、パステルの色のついたままの指で鉛筆を持って、この文章を書き始めました。

「光」は、建築空間の本質ですし、「窓」は、それを建築として形づくる時の、最も大切な要素ですから、「光と窓」について考えることは、建築家については、常に大きな喜びです。そのことについて、私なりに、設計しながら、本を読みながら、あるいは旅をしながら、折にふれて考え続けてきたことを、「建築と社会」誌上に書かせていただいたことは、とても嬉しいことでしたが、その上に、その文が賞に選ばれることは、誠に光栄なことです。

人として、この世に生を与えられて七十五年、建築設計を自分の道と選んで五十年、今ここで改めて思うことは、建築という芸術（技術）が、天上から私達の上に降り注ぐ、太古の昔から変わらぬ光の中で成立している芸術だ、というこの単純明快な本質です。

この世は、確かに、絶えず変わり動いています。その変動は、益々激しくなっているかもしれません。だから、建築も、そして人間も、それに応じて変っていかねばならないと主張する声も大きく聞こえます。しかし、変化する世なればこそ、建築は、変わらぬものの上に立ち、続いていくものを見つめつつ、作っていかねばならない、と私は思います。そういうことを、もう一度、これを機会に、しっかり考えてみたいと思っています。私の小論に目をとめて下さった選考者、並びに誌者の方々には心から御礼申し上げます。



香山壽夫 こうやま ひさお

1937年東京生まれ。東京大学教授、明治大学教授、放送大学教授、聖学院大学特任教授を経て、現在は香山壽夫建築研究所所長。東京大学名誉教授。主な作品は彩の国さいたま芸術劇場、熊野本宮館、東京大学伊藤国際学術研究センターなど。主な受賞は日本芸術院賞、村野藤吾建築賞、日本建築学会賞、アメリカ劇場技術協会賞等。

『想定外』を繰り返さない

〈2012年8月号〉

河田恵昭

働き盛りの49歳の時、阪神・淡路大震災が起きました。そして、私の人生が変わりました。この震災以降、災害の問題を議論するときに、いつも被災者がその中心に位置するようになりました。そして、防災・減災の研究は実践的であらねばならないと確信し、この評価が、いつも頭の片隅に位置するようになりました。そして、防災・減災に関係することであれば、何にでもチャレンジするという姿勢を続けてきました。

あの3月11日、神戸の兵庫県公館で朝から、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターが主催で、東海・東南海・南海地震に関するシンポジウムをやっている最中に、東日本大震災が起きました。天井のシャンデリアやスクリーンの揺れから、「どこか遠くでプレート境界地震が起きている」と判断し、すぐに講演を中止しました。そして、翌日、宮城県に先遣隊を派遣し、センターは6カ月間、被災地支援に奔走しました。

私自身もその激動に身を置きながら、政府の復興構想会議や専門調査会で、将来の「想定外」災害にどのように備えるのかに関する意見を述べてきました。その姿勢は、その後設けられた防災対策推進検討会議や、防災対策実行会議でも継続しています。わが国の防災、減災対策の基本理念となった「想定外を繰り返さない」ために、災害を取り巻く「リベラル・アーツ」と「テクノロジー」の知識を総動員することが求められています。そのときまとめた一論考が受賞対象になりました。私にとってまさに「想定外」であり、感謝にたえません。



河田恵昭 かわた・よしあき

1946年大阪府生まれ。京都大学教授、防災研究所長を歴任し、同名誉教授。現在、関西大学社会安全研究センター長・教授および阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長（兼務）。日本自然災害学会会長を経て、現在、日本災害情報学会会長。防災功労者内閣総理大臣表彰、国連SASAKAWA防災賞などを受賞。

歴史的建造物の保存活用 —残すことはつくること—

〈2012年11月号〉

藤岡洋保

「残すことはつくること」は20年来の私の保存論だが、建築家の一部からの評価をいただいているものの、建築史関係者からの理解は得られないままなので、今回の受賞には驚くとともに、背中を押していただいたと感謝している。

私は日本近代建築史の研究者で、「伝統」とか「空間」「文化」など、建築に関わる概念とデザインとの関係を中心に研究してきた。たとえば、建築家が「日本的なもの」をどう考え、どのように表現してきたかとか、「空間」という概念がいつ頃日本に導入され、それによって建築の見方がどう変わったかというようなことであり、言説の真偽によりも、その言説を成り立たせる枠組みのほうに関心を寄せるということである。

「保存」についての関心もその一環である。私は「保存」には正解はないと考えている。それは矛盾に満ちた概念で、近代特有の制度が反映した政治的な概念でもある。そこにどのような意味を見いだせるかが、私が考え続けてきた問題で、それに対する私なりの答えが「残すことはつくること」なのである。

近年、モダニズムの建物が部分保存や外壁保存というかたちで残される例が見られはじめた。私はそれに対して危惧を感じている。それは80年代からの景観行政を無批判に踏襲しただけで、モダニズムの建築的・建築史的価値が軽視されているからである。「保存」に、より多くの意味を見出すことがいま求められていると思う。



藤岡洋保 ふじおか・ひろやす

1973年東京工業大学工学部建築学科卒業。同大学修士課程・博士課程、明治大学工学部助手を経て、1984年東京工業大学助教授。1996年東京工業大学教授となる。現在は東京工業大学大学院理工学研究科教授。主な受賞に、東京工業大学教育賞（2003）、燈光会表彰（灯台史研究）（2004）、日本建築学会賞（論文）（2010）等。

審査講評

第12回読者と選ぶ 「建築と社会」賞

☆審査会☆

田中 それでは、第12回読者と選ぶ「建築と社会」賞の選定を行いたいと思います。この賞は作品部門と論考部門の2つの部門に分かれていまして、選定は各部門1～4点、「建築と社会」の趣旨にふさわしい社会性と環境性などに配慮したものを選んでいただきます。第12回の選考対象は平成24年1～12月号の「建築と社会」に掲載されたものです。編集委員会で1次審査をしていただき、作品部門11作品、論考部門10作品がノミネートされています。作品部門の選定の場合、誌面からでは写真のアングルや撮り方でイメージが違ってきますし、「建築と社会」賞で重視している社会性や環境性をこの写真から語られるか、コメントから理解できるかどうかというのが難しいですね。

■作品部門

田中 1次審査で投票数がどうなったかご覧になっていただいたと思うんですが、選考委員の視点から話をしていきたいと思いますので、レビューするかたちでノミネートされた作品についてコメントを交わしていきましょうか。作品部門については主に実際に作品を見られたという高砂先生や井上先生のご意見を参考にしながら進めていきたいと思います。「西予市庁舎」の作品についていかがでしょうか。

高砂 この作品は残念ながら見に行けなかったんですが、建物自体は特殊なものではないですね。地元の木材を待合ロビー、議場に使用しているのが特徴だと思うんですよ。その部分では社会性があるかなと思いますが、環境への配慮は特に無かった気がします。

田中 庁舎建築は社会性や市民開放の意図が当然あるべきもので、事例は多数ありますね。

井上 木材系が使われているのはやりだし、それを無視するのは難しいかなと思います。

谷口 西予市のホームページで平面図を見ているんですが、見ると正面写真の右手の建物が健康保険センターでして、そことの接続を

かねた大庇になっています。建築的に言うとファサードのデザインを落としてしまっているんですけど、それでこの大庇の仕掛けがあるのだったらいいなと思いますね。デザインを崩すことをあえてしながらがんばったという感じですね。

高砂 庁舎から健康保険センターにいけるようにしたんですね。そこを「市民ロビー」と呼んでいるようです。空間として連結して生み出したというのが社会性というか地域に開かれたつくり方ですね。説明に対してこういう図面を載せるべきです。イメージできるように。

田中 すっきりと嫌味なく洗練された感じがありますね。

田中 「京都銀行茨木ビル」はいかがでしょうか。

高砂 京都の町家をビルに置き換えた建物ですね。通常はビルとビルの間は隙間が無いんですけれどもこれはずっと上まで隙間を設けている。町家のようにビルのなかに光が入り込む工夫は評価できるのではないかと思います。木の格子をたくさん使っているので柔らかさがありますね。

田中 大きな建物では無いですが、オフィスビルの一つのモデルをつくっている要素があるのかな。光や空気の流れを取り入れるために木を意匠的に取り入れてまち並みを作っている。しかもモチーフが、伝統的な町家から発想したものを横ではなくて縦に繋いでいくのが面白い。できればこれがプロットタイプになって地域の中で繋がっていくような仕掛けをもっともっと出されると良いのかなと思いました。

高砂 庇があるのがよかったですね。

田中 そうですね。この水平のラインが良かったですね。

谷口 京都なので、「つば庭」を言っているのが、「ベタやな」と思いましたね。(笑い)

井上 木材が構造的に関係していないのが気になりますね。外装に木材を使ったときに経年変化なんかどうなんですか？色とか。

谷口 メンテナンスは大変でしょうね。

高砂 ガラスの内側に入れているのでメンテナンスが出来るように考えているのでしょう。

田中 ガラスの内側に入れる手法は海外でも事例をみますね。こざれいに手馴れて纏められているなと思いますね。

田中 「ヒガシマル食品 新工場」はどうですか。

高砂 これは良かったですね。敷地は広く、駅の近くなんですけど、周りは住宅地で、それらの住宅に配慮して、建物を出来るだけ真

ん中によせてツインタワーみたいに2つ高い建物を建て、あまり周囲に圧迫感を与えないつくり方をしている。周囲は出来るだけ緑で囲ってしまおうとしています。木のルーバーがあるんですが、西日を遮るためなのかと最初思ったんですが、この人に聞くと周りの住宅が見られるのを嫌がられるので視線をカットするため大きなルーバーを使っているということでした。このツインタワーはRC造で、これは音を外に漏らさないためだという説明をいただきました。

田中 環境のこともとても意識されていて、今回の賞に値するひとつではないかなと思いますね。嫌味がなくてスッキリしていますね。

高砂 醤油づくりは地場産業ですが、そのための湧水を、提供公園では流しっぱなしにしていまして、この会社のイメージを出すつくりになっていますね。

田中 商品紹介、ギャラリーなどはありませんか。

高砂 昼休みで見れませんでした。少しは展示があります。工場の様子は室外から見学できそうです。

田中 工場にしたらいろんなことを意識したつくりですね。

谷口 こっち側に立っている建物とは繋がっていないんですか。

高砂 ベルトコンベアーで繋がっていますね。こちらは流通ラインです。

井上 シンメトリーで真ん中に立っているわけではないんですね。

田中 配置図か図面が欲しいな。

井上 ヒガシマルはうまく土蔵をモチーフにしてぎりぎりキッチュじゃないところでとめている上手さみたいなのところがあって、しかも今流行の木材を使っているうまく解決していると思うのでこれは異論ないですね

田中 いい評価を頂きました。

■論考部門

井上 どの号も特集としてまとまっていて面白いですよ。

田中 窓の特集なんて面白かったですね。

全員 面白かったですね。

田中 香山先生の「建築と窓」は、1次審査では評価が一番高いですね。同じ特集の小林さんの「フェルメールと窓」も、普通の建築の話と違ってフェルメールの作品を通して窓を語っているのは面白いですね。

高砂 フェルメールの絵から当時の建築がどうだったかということを書かれているので興味があります。

田中 最近の「建築と社会」の記事は羅列的というかエッセイ風に書かれるせいか、読み

終わっての余韻や文章にエネルギーを感じなくて、新しい発見や驚きを受ける記事が欲しいと常々思っていたんですが、フェルメールの記事はたいへん良かったですね。香山先生の場合、原点わかりきっているんだけど重みのある纏め方をされています。

高砂 これは総論と各論の違いですよ。

田中 「想定外を繰り返さない」の河田先生の記事はいかがでしょうか。

井上 減災に関しては、どうしても愚痴っぽくなってしまいますよね。

高砂 “どうして積極的に減災への取り組みができないのだろうか”ですかね。

田中 それはある意味面白いですよ。

井上 この特集の各論4以降は具体的なことを書かれていて僕は面白いと思うんですけど、1次審査の評価は低いんですね。事例をしっかり押さえていて役に立つと思うんですが。

田中 藤岡先生の「歴史的建造物の保存活用」は、いかがでしょうか。

高砂 よく纏まっていますね。

井上 1次審査では票は入っていないんですが、3月号の東海支部特集の「賢人たちの夢みた空間」（執筆：河田克博）は名古屋の建築家の系譜みたいなものを纏めていて貴重な気がするんですけど。明治村も飯田喜四郎先生が明治村を開創するときのことをよくご存知で書き残してくれていて貴重なんですけどね。

田中 実際読んで「いいな」と思う論者と1次審査までの経緯があまりリンクしてない。このギャップをどう合理的に説明するか、答えを出すか、難しいなとずっと考えているんですけどね。

田中 いろいろ意見が出てきていますが各自2, 3点挙げることにしましょう。

高砂 「フェルメールと窓」、それから、「歴史的建造物の保存活用」、「建築と窓」。

井上 「フェルメールと窓」と「歴史的建造物の保存活用」。3点目はむずかしいな。

谷口 「建築と窓」、「歴史的建造物の保存活用」、三浦先生の「高齢者の住まいと取り巻く制度の現状と課題」。

田中 「歴史的建造物の保存活用」、「建築と窓」か「フェルメールと窓」ですが、もうひとり河田先生の「『想定外』を繰り返さない」でしょうか。

井上 みなさんが挙げたのをみると歴史系になりますね。

田中 そういう意味からいったら窓から2つですもんね。

井上 建築が直面している現状を無視しているというか歴史に逃げているかな（笑）。減災とか高齢化とか入れたほうがいいのかな。

社会性と環境性ですもんね。

田中 それでいくと「『想定外』を繰り返さない」はどうですか。

田中 まずは「建築と窓」と「フェルメールと窓」ですがどちらかを選びましょう。3点のうち2点が同じ特集からとなると偏りますからね。決め方としまして、この4人の意見一致が大事だと思うんですけど、1次審査で点数が多かったものを尊重し、それを踏まえたうえで判断するというバランスもいるかな、と思いますね。「建築と窓」と「フェルメールと窓」では「建築と窓」の方が、票数が多く読者により支持されています。「『想定外』を繰り返さない」も指示され票を取られている。「歴史的建造物」も票数が多いのでそれも妥当なのかなと。そんなバランスでいかがでしょうか。

高砂 地震関係では「減災の視点からのソーシャルデザイン」も票をとっておられますよ。
谷口 地震関係でいくなら想いが伝わってくるのは河田先生ですね。

田中 いかがでしょうか。特にご意見がなければ以上の3点で決定させていただきたいと思います。

＊

田中 今回を通して感じたことですが、選ばれているのは総論、各論と固まったメジャーなところですよ。東海支部特集では地域とか街づくり、社会を意識したレポートや大学の研究室の活動レポートがありましたが、このような記事を対象にした「賞」があってもいいかもしれませんね。各大学の先生方にもっと「建築と社会」に目を向けていただければ、将来会員なるかもしれない学生が「あの時頑張った」と思えるような足跡を残せる。また、地域で取り組んでいる活動を活性化するためのきっかけを作ってあげられる。「建築と社会」がこういう活動の発表の場となるという視点があってもいいのかなと思うんですけど、いかがでしょうか。是非今後の検討課題としていただきたいと思います。



審査会風景

■第12回読者と選ぶ「建築と社会」賞選考会

日時 2013年4月22日（月）

13:00～17:00

場所 日本建築協会会議室

選考委員

委員長 田中直人／島根大学大学院特任教授

委員 井上雅人／武庫川女子大学講師

高砂正弘／和歌山大学教授

谷口与史也／大阪市立大学教授

○1次選考結果

[作品部門—11点]

- ・西予市庁舎（1月号掲載）
- ・ケントク本社ビル（2月号掲載）
- ・浜松信用金庫湖東支店（3月号掲載）
- ・トヨタ紡織猿投開発センター2号館（3月号掲載）
- ・京都銀行茨木ビル（4月号掲載）
- ・フェリス帝塚山（5月号掲載）
- ・甲南女子中学校・高等学校（7月号掲載）
- ・京都産業大学壬生校他むすびわざ館および附属中学校・高等学校（7月号掲載）
- ・正導会教団神野修行所（10月号掲載）
- ・ヒガシマル食品 新工場（12月号掲載）
- ・J-GREEN堺 DREAM CAMP（12月号掲載）

[論考部門—10点]

- ・東日本大震災から学ぶ教訓と課題／室崎益輝（1月号掲載）
- ・広州花都文化芸術センター／遠藤秀平（5月号掲載）
- ・ネパールの学校建設現場も進行中／野田隆史（5月号掲載）
- ・建築と窓／香山壽夫（7月号掲載）
- ・フェルメールと窓／小林頼子（7月号掲載）
- ・「想定外」を繰り返さない／河田恵昭（8月号掲載）
- ・減災の視点からのソーシャルデザイン／室崎益輝（8月号掲載）
- ・高齢者の住まいを取り巻く制度の現状と課題／三浦研（10月号掲載）
- ・歴史的建造物の保存活用—残すことはつくること—／藤岡洋保（11月号掲載）
- ・宇宙エレベータの構造～宇宙大量輸送機関～／大野修一（12月号掲載）

●本選考会では1次選考でノミネートされた全作品について審査されましたが、ここでは選定された作品部門3点、論考部門3点を主に取り上げ掲載しています。

①マリー・アントワネット物語展

マリー・アントワネットは、その美貌と気品で熱狂的に愛され、そして憎まれながら37歳の若さで革命の波に飲み込まれ露と消えていった18世紀フランスの王妃。本展では、王妃として華やかで優雅な宮廷生活を送りながらも、妻として、母として悩み、最期はひとりの女性として毅然と散っていったアントワネットの一生を貴重な作品でたどるとともに、洗練されたライフスタイルやファッションに代表される彼女の愛した“美”に焦点をあてる。パリ市立カルナヴァレ博物館、ナポレオン財団のほか、彼女とゆかりのあるフランス名門貴族が代々受け継いできた家宝を含む約120件の貴重な史料を通して“マリー・アントワネットの物語”を紹介する。

期 間 7月6日(土)～9月1日(日)

10:00～18:00

金・土曜日は20:00まで

(入場は閉館30分前まで)

休館日 月曜日(7/15は開館)、7/16

会 場 兵庫県立美術館 ギャラリー棟3階
神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

TEL.078-262-0901

観覧料 一般1,300円、大学生900円、

高校生・65歳以上650円、

中学生以下無料



エリザベト・ルイズ・ヴィジェ・ルブラン《王妃マリー・アントワネットと子供たち》1786-1787年
ジャン・ド・ベアルヌ伯爵蔵

©La Vie de MARIE-ANTOINETTE 2012-13

②特別展

エヴァンゲリオンと日本刀展

一般社団法人全日本刀匠会事業部と劇場版アニメ「エヴァンゲリオン新劇場版」とのコラボレーション企画。新進気鋭の現代刀匠たちが「エヴァンゲリオン新劇場版」の世界からインスピレーションを受けて挑んだ新作刀

を展示。エヴァンゲリオンの基本装備の一つ〈プログレッシブナイフ剣型〉、エヴァンゲリオン初号機頭部の厚い装甲をヒントにした〈エヴァンゲリオン初号機型兜〉、ダマス鋼による〈ロンギヌスの槍〉など、日本刀の新たな世界を紹介する。武器としてだけではなく、美術的、精神的な存在としても人々に大切にされてきた日本刀。この展覧会によって、21世紀を生きる私たちが未来に残す伝統の形を再確認する。

期 間 7月3日(水)～9月16日(月・祝)

9:30～17:00

金曜日は20:00まで

(入館は閉館30分前まで)

休館日 火曜日

会 場 大阪歴史博物館 6階 特別展示室

大阪市中央区大手前4-1-32

TEL.06-6946-5728

観覧料 一般800円、高大生600円、

中学生以下無料



ロンギヌスの槍 2012年 刀身：三上孝徳(刀匠名 貞直) 橋本庄市

③2013年NHK大河ドラマ 特別展 八重の桜

2013年のNHK大河ドラマは、会津出身の新島八重の生涯を描く。八重は、会津藩の砲術師範であった山本権八・佐久の子として生まれた。1868年の戊辰戦争時には鶴ヶ城に籠城し、自らも銃をとって男性と共に奮戦する。会津藩の敗戦後、八重は兄の山本覚馬を頼って京都に移り、半年後、京都最初の女学校「女紅場」の教師となる。その傍らで英語や聖書も学び、1875年、アメリカ帰りで後に同志社の創立者となる新島襄と出会い、翌年に結婚。男女の平等を望み、レディファーストを貫く八重の生きざまを、襄は「ハンサム」と評した。本展は、NHK大河ドラマ「八重の桜」と連動して、同時代の資料や新島八重ゆかりの品々を紹介する。戊辰戦争の敗戦から立ち上がる人々の姿を通して、復興へのメッセージを伝える展覧会。

期 間 7月13日(土)～9月1日(日)

10:00～18:00

金曜日は19:30まで

(入場はそれぞれ30分前まで)

休館日 月曜日（祝日の場合開館、翌日休館、
ただし7/16、8/12は臨時開館）
会 場 京都文化博物館
京都市中京区三条高倉
TEL.075-222-0888
観覧料 一般1,200円、大高生800円、
中小生400円



八重が暮らした部屋（復元・新島旧邸）

④2013年夏季特別展 ファインバーグ・コレクション展 江戸絵画の奇跡

アメリカ在住のファインバーグ夫妻が、40年余りに亘って蒐集した江戸絵画コレクションの初めての里帰り展。ファインバーグ夫妻は、1970年代に、メトロポリタン美術館で目にした江戸絵画に魅了されて以来、日本の歴史、文化、芸術に親しみ、とりわけ江戸時代の絵画の研究と蒐集を続けてきた。コレクションの特徴は、夫妻の好みを反映して、江戸時代の民間画派の自由で活気に満ちた肉筆画が中心となっている。尾形光琳、酒井抱一らの琳派、池大雅、与謝蕪村、谷文晁らの文人画、円山応挙、森狙仙らの円山四条派、伊藤若冲、曾我蕭白や、わずかに8作品しか知られていない謎の絵師葛蛇玉らの奇想派、菱川師宣、葛飾北斎らの浮世絵など、江戸絵画を網羅した上品で上質な作品が揃っている。本展では、コレクションから選りすぐられた優品を通して、百花繚乱の江戸絵画の世界を紹介する。



鈴木其一「群鶴図屏風」(左隻) 江戸時代／19世紀
二曲一双

期 間 7月20日(土)～8月18日(日)
10:00～17:00 (入館は16:00まで)
休館日 月曜日
会 場 MIHO MUSEUM
滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷300
TEL.0748-82-3411
観覧料 一般1,000円、高大生800円
小中生300円

⑤体感妖怪アドベンチャー GeGeGe水木しげるの妖怪楽園

水木しげるが描く妖怪たちは、怖いけれどもこか愛嬌があり、憎めないキャラクターとして人気が高い。美しい自然に育まれた日本には、数えきれないほどの妖怪伝説があり、その地方固有の豊かな伝承文化が息づいている。このイベントは、水木しげるの描く妖怪とのふれあいを通して、日本人の心の奥底に染み付いた「見えないものへの畏れ」を感じてもらい、日本初の体感妖怪アドベンチャー。会場内は、日本の多種多様な妖怪の紹介コーナーや、森をイメージしたインタラクティブなゾーン、妖怪のいる気配を体感できるアトラクションなど、様々な手法で演出された妖怪の世界を体験することができる「妖怪テーマパーク」となっている。



鬼太郎と仲間たち ©水木プロダクション

期 間 9月1日(日)まで
10:00～17:00 土曜日は19:00まで
(入館は閉館の30分前まで)
休館日 会期中無休
会 場 大阪文化館・天保山(海遊館となり)
大阪市港区海岸通1-5-10
TEL.050-5542-8600
(ハローダイヤル 8:00～22:00)
観覧料 一般1,800円、中高生1,200円
4歳～小学生600円

本欄掲載の①～⑤の美術館等の招待券ご希望の方は、電話等で申し込み後、招待券送付用の切手(80円)を日本建築協会事務局までお送りください。

▶第15回 堺市景観賞 あなたのお気に入りの「堺」を募集

堺市内の優れた景観を有する建築物、工作物、広告物の所有者等、まちなみ及び良好な景観形成に貢献する活動を行っている人々を堺市長が表彰。景観形成に寄与している建築物や景観活動、地域が誇る堺らしい景観などを以下の通り募集する。

■推薦・応募期間

7月1日(月)～8月30日(金)(必着)

■推薦・応募対象

●建築物等部門

概ね10年間(2003年4月から2013年6月まで)に新設、補修、改修等を行い完成した次のもので、以下の①～③に該当すると思われるもの

○建築物(ビル、店舗、住宅など)

○工作物(橋梁など)

○屋外広告物

①先進的なデザイン等を取り入れ、まちのシンボルとなるような魅力を発信しているもの

②地域特性(地形、自然、歴史、文化)を読み解き、これらとの調和に配慮したもの

③周辺のまちなみに調和し、付近の景観を引き立てているもの

●歴史的建造物部門

昭和25年以前につくられた建造物で外観を維持・保全するための行為(修繕、改修等)により、良好な景観を形成しているもの(町家や洋館等)※神社、仏閣は対象外

●景観活動部門

地域の景観に関する情報発信や景観に関する意識啓発などの活動

●まちなみ部門

良好な景観を形成し市民の誇りとなる風景や場所など

■推薦・応募方法

所定の応募用紙に必要事項を記入の上、郵送、電子メール又は持参により堺市都市計画部都市景観室「堺市景観賞」担当まで。

■表彰

2014年2月(予定)

■問合せ先・送付先

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号

堺市建築都市局 都市計画部 都市景観室
「堺市景観賞」担当

TEL.072-228-7432 FAX.072-228-8468

E-mail.tokan@city.sakai.lg.jp

URL.http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/toshikeikan/index.html

暑中お見舞申し上げます

平成25年盛夏

岡 本 慶 一

日 建 設 計
代表取締役社長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4-6-2 TEL(06)6203-2361

理事

佐 野 吉 彦

株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役社長

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06)6943-1371代

理事

中 井 進

日 建 設 計
取締役副社長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4-6-2 TEL(06)6203-2361

会長

香 西 喜八郎

株式会社 東畑建築事務所
代表取締役社長

〒541-0044 大阪市中央区高麗橋2-6-10 TEL(06)6202-0391

副会長

設 楽 貞 樹

株式会社 安井建築設計事務所
常務取締役

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06)6943-1371代

辻 文 三

一般財団法人 日本建築総合試験所
理事長

〒565-0873 吹田市藤白台5-8-1 TEL(06)6872-0391
<http://www.gbrc.or.jp>

近 藤 徹

不二熱学工業 株式会社
代表取締役

〒542-0081 大阪市中央区南船場2-1-1 TEL(06)6261-4321

立 野 純 三

株式会社 ユニオン
代表取締役社長

〒550-0015 大阪市西区南堀江2-13-22 TEL(06)6532-3188

沼 田 亘

株式会社 昭和設計
代表取締役社長

〒531-0072 大阪市北区豊崎4-12-10 TEL(06)7174-8787

名誉会長

佐 野 正 一

株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役相談役

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL(06)6943-1371代



暑中お見舞申し上げます

平成25年盛夏

設計事務所有志

株式会社 伊藤建築設計事務所

代表取締役会長 森 口 雅 文

代表取締役社長 小 田 義 彦

本社・名古屋事務所 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-15-15 (桜通ビル) TEL (052) 222-8611

東京事務所 〒101-0021 東京都千代田区外神田3-5-12 (聖公会神田ビル) TEL (03) 5294-6211

株式会社 瀬戸本淳建築研究室

代表取締役 瀬 戸 本 淳

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-1-1 神戸郵船ビル TEL (078) 333-0138

<http://www.jsao.co.jp>

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役社長 香 西 喜 八 郎

本社 〒541-0044 大阪府中央区高麗橋2-6-10 TEL (06) 6202-0391

大阪・東京・名古屋・九州・東北・上海

<http://www.tohata.co.jp>

nikken.jp

日建設計

代表取締役社長 岡 本 慶 一

東京	102-8117	東京都千代田区飯田橋2-18-3	TEL (03) 5226-3030
大阪	541-8528	大阪府中央区高麗橋4-6-2	TEL (06) 6203-2361
名古屋	460-0008	名古屋市中区栄4-15-32	TEL (052) 261-6131

安井建築設計事務所

代表取締役社長 佐 野 吉 彦

本社 〒540-0034 大阪府中央区島町2-4-7 TEL (06) 6943-1371 (代表)

支社 大阪・東京・名古屋・広島・九州 <http://www.yasui-archi.co.jp/>

建設業有志



ODAYASHI

地球に笑顔を

株式会社 大林組

取締役社長 白石 達 専務執行役員 大阪本店長 長谷川 博

本社 東京都港区港南2-15-2 TEL 03(5769)1111
大阪本店 大阪市北区中之島3-6-32 TEL 06(6456)7000

100年をつくる会社



KAJIMA CORPORATION

本社 東京都港区元赤坂1丁目3番1号

関西支店 大阪市中央区城見2丁目2番22号・マルイトOBビル
電話06(6946)3311

<http://www.kajima.co.jp/>

子どもたちに誇れるしごとを。



清水建設株式会社

取締役社長 宮本 洋一 取締役副社長関西事業本部長 小橋 鴻三

本社 〒104-8370 東京都中央区京橋二丁目16番1号 Tel. 03(3561)1111
関西事業本部 〒541-8520 大阪市中央区本町三丁目5番7号 御堂筋本町ビル Tel. 06(6263)2800



For a Lively World

社長 山内 隆 司
常務執行役員 山田 文 啓
関西支店長

<http://www.aisei.co.jp/>



株式会社 竹中工務店

取締役社長 宮下 正 裕

〒541-0053 大阪市中央区本町4-1-13 TEL(06)6252-1201(代表)



戸田建設株式会社

代表取締役社長 今井 雅則
常務執行役員大阪支店長 山口 哲永

本社 〒104-8388 東京都中央区京橋1-7-1 TEL 東京03(3535)1354
大阪支店 〒550-0005 大阪市西区西本町1-13-47 TEL 大阪06(6531)6095
支店 東京・千葉・関東・横浜・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州・国際

建材・学校・団体有志等



大阪工業技術専門学校

OSAKA COLLEGE OF TECHNOLOGY

建築学科・インテリアデザイン学科・大工技能学科・建築設備学科・建築設計学科・建築学科Ⅱ部(夜間)・建築士専科

〒530-0043 大阪市北区天満1丁目8番24号 ☎ 0120-0910-19 <http://www.oct.ac.jp/> Tel. 06-6352-0093



一般社団法人 日本建築材料協会

会長 立野 純三

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-4-23 撞木橋ビル4階 TEL (06) 6443-0345 FAX (06) 6443-0348
<http://www.kenzai.or.jp/>



一般社団法人 日本建築協会

会長 香西 喜八郎

〒540-6591 大阪府中央区大手前1-7-31 TEL (06) 6946-6981



一般社団法人 日本建築協会京都支部

支部長 上林 研二

〒604-0944 京都市中京区押小路通柳馬場東入 京都建設会館別館 TEL (075) 211-2857



一般社団法人 日本建築協会中国支部

支 部 長 高 松 隆 夫

〒732-0805 広島市中区十日市町1-1-9（相生通り鷹匠ビル4階山陽工業(株)内） TEL (082) 232-6471



一般社団法人 日本建築協会東海支部

支 部 長 福 田 泰 造

〒460-0008 名古屋市中区栄4-3-26（昭和ビル5階） TEL (052) 261-1451

理事会

第2回常任理事会

5月29日(水) 16:00~17:50

日本建築協会会議室

出席者 香西会長ほか6名

議 事 (1) H24年度事業報告

(2) H24年度決算報告

(3) H25年度事業計画

(4) H25年度収支予算

(5) その他

編集委員会

第2回編集・広告企画合同委員会

5月8日(水) 17:30~19:10

日本建築協会会議室

出席者 米井委員長ほか15名

議 事 (1) 6月号特集「無駄から見える節電」の報告

(2) 7月号特集「第60回青年技術者」の報告

(3) 8月号特集「グランフロント大阪」の報告

(4) 9月号特集「素材としての建築—表現文化を通して建築を見る」の報告

(5) 10月号特集「いま、建築技術者に求められること」の報告と検討

(6) 11月号特集「(仮) 木を考える」の報告と検討

(7) 広告依頼先検討

(8) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(9) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(10) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(11) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(12) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(13) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(14) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(15) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(16) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(17) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(18) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(19) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(20) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(21) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(22) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(23) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(24) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(25) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(26) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(27) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(28) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(29) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(30) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(31) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(32) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(33) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(34) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(35) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(36) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(37) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(38) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(39) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

(40) 12月号特集「建築と生活」の報告と検討

第2回作品作風小委員会

5月23日(木) 19:00~20:30

日本建築協会会議室

出席者 稲垣和江副委員長ほか8名

議 事 (1) 作品の掲載状況並びに掲載

予定の報告

(2) gallery掲載報告・予定

事業委員会

第2回情報見学小委員会

5月9日(木) 18:00~19:00

日本建築協会会議室

出席者 豊田小委員長他9名

議 事 (1) 本年度事業について

①「ダイビル本館」見学会

②「グランフロント」見学会

(2) その他

①茶室見学会

②姫路駅周辺

出版委員会

第2回出版委員会

5月16日(木) 18:00~19:00

住まいの研究室

出席者 井上委員長ほか5名

議 事 (1) 進行中のテーマについて

①建築設計・工事監理・施工管理のための建築作法

—品質トラブル予防のポイント—

②住まいのメンテナンス

③サッシュを極める

特別委員会

関西の建築界／第47回群像(インタビュー)

5月10日(金) 16:00~18:00

泉谷繁礼建築研究所

出席者 清原委員ほか6名

インタビュー 泉谷繁礼建築研究所代表

泉谷繁礼氏

第2回10年委員会

5月16日(木) 18:30~20:00

日本建築協会会議室

出席者 設楽委員長他5名

議 事 (1) 学生のための見学会について

(2) 大阪そうせいプロジェクト

今後の展開について

編集委員会(平成25年度)

■副会長

設楽 貞樹

本多 友常

■編集担当理事

浅野真一郎

佐藤 榮一

竹中 統一

立成 良三

松村 孝治

三柴 利雄

吉村 英祐

◎米井 寛

■副委員長

勝山 太郎

■特集小委員会

■計画分科会

★計画系

飯田 匡

鈴木 克彦

高橋 和也

田中 直人

不動 剛志

紅谷 昇平

松田奈緒子

三宅 次郎

△守井 辰

吉村 英祐

★建築計画系

荒木 宏之

△大西 広朗

静 茂夫

下坂 浩和

野田 隆史

三谷 帯介

矢鳴 陽平

米山 剛史

渡部 剛

★インテリア・住宅

川合 隆之

黒柳 亮

森岡 拓也

酒井 雅男

谷垣 浩一

塚口真佐子

ベリー史子

△間瀬 一博

■構造分科会

秋田 智

石田 大三

岸本 光平

小芝 淳一

志摩 好宣

瀧野 敦夫

△角田 耕一

橋本 宗明

松村 健

向井 洋一

■設備分科会

△赤澤 正治

岩城 憲治

梶井 宏修

北野 勝也

樺田 輝生

谷野 太志

夏井 重行

野崎 正二

橋本 直樹

福谷 周

柊井 貴廣

宮崎ひろ志

村上幸三郎

■施工材料分科会

荻原 友貴

桜井 和男

高橋 秀一

中野 敬史

△藤丸 啓一

渡邊 聡

■法令分科会

岩見 吉剛

河野 学

小松 輝樹

△吉岡 忠

平山 英

井上 久明

田中 幸夫

■作品作風小委員会

居内 章夫

池上 明

▲稲垣 和江

井上 雅祐

加嶋 章博

菊池 浩輔

倉橋 尉仁

倉瀬奈千子

澤田 純一

輦野 淳司

豊田 充広

鳥居 久人

西田 佳代

芳谷 晴彦

増田 敬彦

廻 はるよ

■広告企画小委員会

大谷 金由

小川 雄介

小山 昭

権代 晃

藤田 昌宏

▲前田 衛

山辻 直樹

◎委員長 ○副委員長

▲小委員会委員長 △幹事

(順不同)

印刷 2013年6月26日

発行 2013年7月1日

発行人 一般社団法人日本建築協会

大阪市中央区大手前1-7-31

電話 06-6946-6981

印刷所 藤中島弘文堂印刷所

定価 1200円(税込)

©「建築と社会」誌の記事の無断転載を禁じます。

「建築と社会」誌

特集一覧 ●1991～2012

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1991 vol.72	●新しい都市空間づくりーIー	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくりーIIー ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識ー複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局管轄部	●一般号*	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集1000年記念	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木ー構造技術の世界ー ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考える シンポジウム
1992 vol.73	●夢物語ー人がかかる、まちがかわるー	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザインー東海支部ー*	●建築家のための設備知識ー集合高層住宅の設備システムー	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創りー住宅・都市整備公団関西支社10周年ー	●木構造を使ってみませんかー集成材による構造ー*	●接着ー建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「夢」、夢、作品」*	●舞台ー仮設の魅力に学ぶーハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色
1993 vol.74	●第38回青年技術者 ●東亜建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府管轄	●東海的美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境ー限りある自然と建築とのかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生ー構造技術の役割ー	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境一人にやさしい空間創造をめざして
1994 vol.75	●コピー文化の新時代 ●広島市の街創りアジア競技大会	●九州のインステレーションと貌	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈*	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かってー会員作品ー*	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●建築の再生ー構造技術の役割ー	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美ー建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 vol.76	●光がつくる風合の世界*	●音ー騒音から操音/創音へ	●飛騨・美濃ーまちの活性化と地方文化*	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法ー会員作品	●新しい「都市・建築」の視点*	●建築構造と社会の接点 ●日建設計*	●ライフラインと建築設備*	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 vol.77	●阪神大震災から学ぶ*	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念*	●遠江ーその地方振興と文化*	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元氣りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建管轄部
1997 vol.78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり*	●東海支部会員作品 ●銀、能登・風土・文化とまちなみ・建築*	●創立80周年記念／建築と私と社会ー80人の眼ー*	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興ー法・制度の運用と新たな観眼へー ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改組への提言	●クロスワード都市OSAKA*	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法ー会員作品一	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 vol.79	●新しいまちづくりの予感 ●東亜建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたしたち、そして建築	●東海支部会員作品 ●信州ー諏訪とその周辺ー	●街並みの演出ー最近の外構材料	●生活環境の安全・安心	●地球環境保全と建築	●心と体を元気にするインテリア	●建築設備ービルメンテナンスの立場から	●建築への証言'98ー21世紀に向けて	●ゆれをとめるーたえる技術からかわす技術へ	●私の空間作法 ●2001年の医療施設	●第45回青年技術者 ●県とともに歩んだJRX日本の12年
1999 vol.80	●“らしさ”のデザイン ●建築を結ぶ小粋なモノの仕掛人	●大阪市都市整備局	●東海支部会員作品'99 ●北信濃ー街並み修景と地域文化の再構築	●創立80周年記念／建築と私と社会ー80人の眼ー*	●関西建築界の流れと東亜建築三の足跡をたどる	●大阪城天守閣平成の大改修	●改正建築基準法ーまちづくり・すまいづくりへの展開ー	●私の目のみた環境問題	●アーバンインテリアー都市空間としてのインテリア	●来世紀に引き継ぐーわざ、もの、こころー	●私の空間作法ー会員作品一	●第46回青年技術者
2000 vol.81	●21世紀のデザインの動向を見る ●安井建築設計事務所所創業75周年	●中国支部ーしなみ海道と中国地方の街づくりー	●東海支部会員作品2000 ●越中・富山ー地域文化の発展と新たな施設づくりの流れ	●ここを癒す環境デザイン	●測るー測定方法と測定結果が意味するものー	●スケルトン&インフィル	●改正建築基準法ーパートIIー	●100年後へのメッセージ ●日建設計創業100周年	●来世紀に引き継ぐーわざ、もの、こころー	●時間	●私の空間作法ー会員作品一 ●21世紀の高齢者の居住環境	●第47回青年技術者
2001 vol.82	●エス・ティ・ティファシリティーズ	●21世紀の建築設計教育	●東海支部会員作品 ●岐阜・大垣	●I.T社会におけるきずな	●自然素材をめぐる「もの・わざ・ひと」	●成熟社会をささえるまちづくり	●現代の日本の空間・文化を探る	●環境ー近未来に向けて今できることー ●大建設計ー作品特集1996-2001ー	●建築の力都市の力	●緊張 ●都市基盤整備公団関西支社	●私の空間作法ー会員作品一 ●NHK大阪放送会議・大阪歴史博物館*	●第48回青年技術者 ●NHK大阪放送会議・大阪歴史博物館*
2002 vol.83	●国土交通省近畿地方整備局管轄部*	●再生・リサイクル	●東海支部会員作品 ●愛知・名古屋	●生活環境の安全・安心 ーパート2ー	●塗装のいろいろ	●都市再生に向けた建築基準法集団規定のあり方	●いま、インテリアデザインは ●清洲リバープレイス	●建築をささえるセンサー	●建築とボランティア	●時を超えてーサステナブルエンジニアリングの現在ー	●私の空間作法ー会員作品一	●第49回青年技術者 ●大阪市中央公会堂
2003 vol.84	●東亜建築事務所創立70周年	●九州の地域づくり・まちづくり	●東海支部会員作品2003 ●愛知・名古屋ー二の地の文化・芸術と建築・街づくりを考えるー	●サステイナビリティーー次世代に引き継ぐ都市・建築・暮らしのデザインー	●建築と五感	●都市計画法及び建築基準法等の改正	●コンバージョンーインテリアから発信するまちなみー	●介護と建築・設備	●建築とノスタルジーー建築の主観的価値についてー	●力と楽しくつきあう方法	●私の空間作法ー会員作品一	●第50回青年技術者 ●彰彰50年
2004 vol.85	●大阪市住宅局	●都市緑化	●東海支部会員作品 ●愛・地球博*	●省リスクな「まち再生」*	●リニューアルの技	●地域住民主体のまちづくりと支援制度	●Product Design+1	●銭湯ー心地よさを求めてー	●建築家とは何か	●巨大地震にそなえて	●私の空間作法ー会員作品一	●第51回青年技術者
2005 vol.86	●震災から10年	●「健やか」長崎医療センター	●東海支部会員作品2005 ●東海における施設づくりへの新たな試み	●建築の経済化	●住まい方の変化	●人工栽培	●次世代に伝える「木」の建築 ●「建築と社会」1000号記念	●改正建築基準法と景観緑三法	●火災から守る	●構造の過去から未来へ*	●私の空間作法ー会員作品一	●第52回青年技術者
2006 vol.87	●都市環境デザインに参加のまちづくり	●「地方空港の時代」ーまちと共存する空港づくりー	●東海支部会員作品2006 ●十東海支部特集3部作*	●都市再生の本質ー光と影のはざまでー	●変容する家族形態とあたらしいライフスタイル	●身近な省エネルギーーエネルギーをたぐいあ、有効利用するー	●設計図が伝えるもの	●建築物の安全・安心*	●第53回青年技術者	●「セキュリティ」	●もしも…ー構造が未来へつなぐ夢ー	●私の空間作法ー会員作品一
2007 vol.88	●光り輝く京都の景観まちづくり	●学校新時代	●東海支部会員作品2007 ●十東海支部特集3部作	●創立90周年記念ーこの10年、これからの10年	●あそび考	●こだわりの創る住まいのカタチ	●住まいの設備と空間の移り変わり	●建築系雑誌が伝えるもの	●建築基準法等大改正	●第54回青年技術者	●ガラスを考える	●楽しい構造の世界
2008 vol.89	●私の空間作法ー会員作品一	●PFI事業、その後	●東海支部会員作品2008 ●十東海支部特集3部作	●まちづくり2011年宣言	●新ホテル物語	●設備に役立つ地震対策	●中国地方を訪ね歩いて見えるもの ●小林聖心女子学院	●建築と景観	●第55回青年技術者	●木造住宅を巡って	●建築においてROBOTが活躍する日は来るのか？	●自然と戦う構造
2009 vol.90	●私の空間作法ー会員作品一 ●京阪電車 中之島線新線延伸と島崎晴代	●水の都にぎわいのある未来に向けて	●東海-TOKAI オムニバス	●楽しい「福祉」	●体感するインテリア	●建築空間が求める空気環境（空気質）	●建築と水	●実用レベルで展開される施工管理のIT化	●第56回青年技術者	●地域の歴史資産を活かしたまちづくり	●第16回会員作品特集「私の空間作法」	●構造家日記ー頭の中をのぞいてみたー
2010 vol.91	●創業110周年記念特集 NIKKEN SEKKEI	●建築とエコ技術	●東海支部復活50周年記念号 東海-TOKAI オムニバス	●食と建築・都市	●ホスピタリティのあるケア空間	●太陽光発電	●建築と石	●再生・受け継ぐ・繋がる	●第57回青年技術者	●建築ストック社会の形成への展望	●LED照明の活用・将来を考えるー人・地球への思いやりー	●東京スカイツリー
2011 vol.92	●UR向く住居ー旧地ストック再生実証試験ーストック活用時代の夜明け第17回 会員作品「私の空間作法」	●BIMは設計を変革するか？	●東海支部復活50周年記念号 東海-TOKAI オムニバス	●まちなかのサードプレイス	●変遷する「身の置きどころ」	●ECOー建築設備が出来るECO技術ー	●建築と土	●鉄道駅に注目する	●第58回青年技術者	●火災に強い建築を考える	●コンクリートという素材	●構造教育と社会
2012 vol.93	●自然災害に立ち向かう力を求めて	●今、私が思う「和」	●東海支部特集	●第18回 会員作品「私の空間作法」	●中国市場に挑む	●ZEB ネット・ゼロ・エネルギービルを目指すー低炭素社会の実現に向けてー	●建築と窓	●巨大地震に備える	●第59回青年技術者	●超高齢社会に求められる住まい	●歴史的建造物の保存活用	●身のまわりの「世界」を探る

*は欠号

電気工事・空調工事・水道衛生工事・消防施設工事
および機械器具設置工事の設計、監理、施工

タイダン株式会社

本店・大阪本社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号 電話 (06) 6441-8231
東京本社 〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号 電話 (03) 3261-8231
支店 札幌・仙台・新潟・さいたま・横浜・豊田・金沢・京都・神戸・天理・岡山・
広島・高松・熊本
営業所 帯広・函館・青森・秋田・盛岡・福島・山形・前橋・宇都宮・土浦・千葉・
長野・松本・静岡・刈谷・津・岐阜・富山・福井・和歌山・東近江・山口・
松江・松山・高知・徳島・宮若・鳥栖・長崎・大分・宮崎・鹿児島・那覇
海外支店 シンガポール・ホンコン・マニラ (フィリピン)・ベタリンジャヤ (マレーシア)
技術研究所 〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地 電話 (0492) 58-1511

お客様の抱える問題やニーズに
より速やかに、より丁寧にに対応できるように

企画・デザイン、制作、製版、印刷

株式会社 **中島弘文堂印刷所**

本社 〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL.06-6976-8761/FAX.06-6976-8765
東京事務所 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1丁目9番地ニュー御茶ノ水ビル601号
TEL.03-3526-5580/FAX.03-3526-5582

<http://www.n-kobundo.co.jp/>

地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理

株式会社 **日本電気化学工業所**

<http://naci.jp> E-mail: nci@naci.co.jp

本部営業部 〒560-0036 大阪府豊中市嵐池西町2丁目7番26号 NACLビル2階
TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1532
東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目6-7
TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

コンクリートのひび割れ対策に

NETIS 登録済み
KT-040018-V

DENKA
DENKI KAGAKU KOGYO KABUSHIKI KAISHA

高性能膨張材

デンカパワーCSA

JIS A 6202
適合品

特 性

- ・乾燥収縮の低減
- ・自己収縮の低減
- ・水密性の向上(防水性)
- ・温度ひび割れの低減

主な用途例

- ・合成デッキスラブ
- ・土間スラブ
- ・RC 構造物
- ・自己充填コンクリート
- ・マスコンクリート 他

膨張材以外にも

- ・無収縮グラウト材 (タスコン)
 - ・躯体防水材 (シャガード)
 - ・ポリマーセメントモルタル (RIS シリーズ)
- など、各種混和材(剤)を
ラインナップしています。

●資料のご請求お問い合わせは・・・

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社 本社

〒629-3101 京都府京丹後市網野町網野 126
TEL 0772-72-2220 FAX 0772-72-2888
舞鶴営業所・福知山営業所・豊岡営業所

金森藤平商事株式会社 大阪営業所

〒561-0817 大阪府豊中市浜 1 丁目 1 番 7 号
TEL 06-6332-6861 FAX 06-6332-6884

小浦産業株式会社

〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町 1 丁目 14 番 6 号
TEL 06-6443-6181 FAX 06-6443-6270

人がつくる。人でつくる。

ここで過ごす人々の姿を、
ここからはじまるしあわせをイメージしながら。

アイデアでつくろう。情熱でつくろう。
さまざまな人の想いをつないでつくろう。
アタマとココロを使って
人間にしかできないものづくりを目指して。

人がつくる。人でつくる。
それが戸田建設のやりかたです。

 戸田建設

www.toda.co.jp 本社 〒104-8388 東京都中央区京橋1-7-1 ☎03-3535-1354

 
ISO 9001・14001認証取得

ダイビル本館 見学会

この見学会は、建築CPD情報提供
制度認定プログラムです。
(公社)大阪府建築士会 (3単位)
(公社)日本建築家協会 (3単位)

関電ビルディング・中之島ダイビル
に続く、中之島3丁目共同開発第Ⅲ
期計画。

渡辺節氏設計の旧ダイビル本館
(1925年竣工)は、日本での本格的な
テナントオフィスの先駆けとして、
外装のテラコッタ蛇腹や石彫刻アー
チ、壮麗な石材・石膏装飾をもつネ
オロマネスク様式の意匠は人々に長
く親しまれてきた。

その90年近い歴史が刻み込まれた材
料を可能な限り再利用し、旧ビルの
意匠を継承しつつ新しい技術や表現
を融合させた現代のビルとして再生
した。

素材については解体前の入念な調
査・実験により再利用の可能性を追
求。

外壁のスクラッチ煉瓦は旧ビルから
手作業で取り外し、約18万個を採取。
外壁の中空積み煉瓦として再利用し、
往時の質感を再現した。

大岡貞蔵作「鷺と少女の像」を始め、
旧ビルの足元を特徴づけていた壮麗
な装飾石材についても取り外しを行
い、一つひとつに手作業で入念な補
修・補強を講じた上で、再取り付け
を行った。

エントランスロビーでは、旧ビルか
ら採取した床タイル・手摺・郵便ボ
ストを再取り付けし、石膏製の装飾
天井は型取りを行い、忠実に再現し
た。他の空間では、黄竜山石や積層
ガラス等の素材を活用し、近代と現
代の融合・対比を意識した表現を
行った。

高層部CWには、日射の熱負荷抑制に
配慮しつつ、隣接する中之島ダイビ
ルとの調和、重厚な低層部との対比
を意識し、質感と軽快感を持つ石材
ルーバー・マリオンを採用。西面のエ
アフローウィンドウ、自然換気シス
テムの採用、自然光の入る開放的な
EVロビー等、環境配慮と快適性を両
立するオフィス計画とした。

中之島3丁目共同開発として、この
Ⅲ期計画において「中之島四季の
丘」、遊歩道に繋がるブリッジ、駅と
直結する地下通路も同時に整備。河
川水利用地域冷暖房システムも採用
するなど、街区として都市貢献を果
たしている。

(中島上/日建設計)

日 時 2013年 7月25日(木)
14:00~16:30(予定)
講 師 中島上氏(株)日建設計
集 合 現地(地下鉄四つ橋線
「肥後橋駅」、京阪中之島
線「渡辺橋駅」下車)
定 員 30名/会員優先(個人会
員最優先)・先着順
参 加 費 会員1,500円、一般2,500円
学生1,000円
申込方法 FAXまたはEメールで、
①催し名「ダイビル本館」
②氏名
③会員・一般の種別
(会員は、個人・団体を
明記)
④職場名または学校名
⑤参加証送付先
⑥連絡先電話番号
⑦CPDを申請される方は、
申請先の団体名とIDを
明記
締 切 り 7月10日(水)
申 込 先 (一社)日本建築協会
TEL.06-6946-6981
FAX.06-6946-6984
E-mail:jigyoka@aaaj.or.jp

●建築概要

所 在 地 大阪市北区中之島3-6-32
建 築 主 ダイビル(株)
設 計 (株)日建設計
施 工 (株)大林組
敷地面積 8,579.32㎡
建築面積 4,575.02㎡
延べ面積 48,197.75㎡
構造規模 S造、SRC造、RC造
竣 工 2013年2月28日
建物用途 事務所、店舗、駐車場



【中央玄関】



ポンプで省エネまるわかり！ ポンプde省エネ講習会実施中

当社では無料の「ポンプde省エネ講習会」を開催し、「ポンプの省エネはインバータで終わりじゃないの?」、「本当にポンプで省エネできるの?」などの疑問、懸念にお応えしています。年間約650名のお客様がポンプによる省エネ効果を実感・納得されており、大変ご好評を頂いています。



大好評「ポンプde省エネ講習会」のご案内 **先着 15名様限定**

<会場・日時> (実機ポンプの運転は、大阪会場のみとなります)

- ・大阪会場：西島製作所 本社（大阪府高槻市）
7/11、7/25*、8/8、8/22*（9:30～16:30）
（※の日付は、ポンプの分解・メンテナンス講習あり）
- ・名古屋会場：西島製作所 名古屋支店（名古屋市中区）
7/4、9/5（13:30～17:00）
- ・東京会場：西島製作所 東京支社（東京都品川区）
7/18、9/19（13:30～17:00）
- ・九州会場：西島製作所 九州支店（福岡市中央区）
8/29（13:30～17:00）

無料!

ご興味のある方は、ecopump@torishima.co.jp まで。

メールには会社名、お名前、ご連絡先を記入いただくほか、「広告No.14」と記入いただけますようお願いします。

WEBサイトからも申し込みいただけます。

エコポンプ講習会

検索

株式会社 西島製作所

トリシマは、世界一省エネにこだわるポンプメーカーです。